

(案)

こおりやま広域連携中枢都市圏ビジョン
-17 市町村連携都市圏ビジョン 2.0-

「広め合う、高め合う、助け合う」
～ 持続可能な圏域へ 連携の深化 ～
2024-2028



こおりやま広域圏

2024(令和6)年〇月

郡山市

I	こおりやま広域連携中枢都市圏ビジョンの概要	
1	策定の趣旨	1
2	連携中枢都市圏の名称及び構成市町村	2
	(1) 連携中枢都市圏の名称	2
	(2) 連携中枢都市圏の構成市町村	2
3	取組期間	2
II	圏域の将来像と人口目標	
1	こおりやま広域圏の将来像	3
2	将来の人口目標	4
III	こおりやま広域圏の現状	
1	こおりやま広域圏の概要	5
	(1) こおりやま広域圏の地勢	5
	(2) こおりやま広域圏形成後の主な動き	6
	(3) 構成市町村の概要等	7
2	圏域の現在人口と将来推計人口	24
	(1) 圏域の総人口の推移と将来推計人口	24
	(2) 圏域の年齢別人口の将来推計	26
	(3) 圏域の人口動態	27
3	郡山市への通勤通学割合	29
4	産業等の状況	30
	(1) 産業	30
	(2) 農業	32
	(3) 製造業	33
	(4) 卸売業	34
	(5) 小売業	35
	(6) 産業項目別県内シェア	36
	(7) 有効求人倍率の推移	37
	(8) 観光	38
5	都市機能の集積状況	40
	(1) 医療・福祉	40
	(2) 教育・文化・スポーツ	46
	(3) 商業施設(大規模小売店舗)	53
	(4) 工業団地等	55
	(5) 衛生・上下水道	57
	(6) 交通	62
	(7) 消防・警察	66
	(8) 国の機関等	68
6	財政状況	69
	(1) 財政指標等	69
	(2) 健全化判断比率	70
7	こおりやま広域連携中枢都市圏ビジョン(2019～2023 年度)総括	71
8	「こおりやま広域圏」に関するアンケート調査	76

【別冊(連携事業編)】

- 1 連携する取組の方向性
- 2 基本目標
- 3 連携事業一覧
- 4 具体的取組
 - (1) 圏域全体の経済成長のけん引
 - (2) 高次の都市機能の集積・強化
 - (3) 圏域全体の生活関連機能サービスの向上
- 5 外部人材の活用方針

I こおりやま広域連携中枢都市圏ビジョンの概要

1 策定の趣旨

「連携中枢都市圏構想」は、人口減少・少子高齢社会にあっても地域を活性化し、経済を持続可能なものとし、住民が安心して快適な暮らしを営んでいけるようにするために、地域において、相当の規模と中核性を備える圏域の中心都市が近隣の市町村と連携し、コンパクト化とネットワーク化により「経済成長のけん引」、「高次都市機能の集積・強化」及び「生活関連機能サービスの向上」を行うことにより、一定の圏域人口を有し活力ある社会経済を維持するための拠点を形成する政策である。この構想は、2013(平成25)年の第30次地方制度調査会「大都市制度の改革及び基礎自治体の行政サービス提供体制に関する答申」を踏まえて制度化されたものであり、2014(平成26)年度から全国に展開されている。

福島県の中央に位置し、多様かつ高度な産業や研究機関が集積された「経済県都」として発展してきた郡山市では、2015(平成27)年度の総務省「新たな広域連携促進事業」の実施を契機に、近隣市町村と連携中枢都市圏形成に向けた協議を重ね、2017(平成29)年に初の市町村長会議を開催し、その後の「連携中枢都市宣言」、連携協約締結を経て、こおりやま広域連携中枢都市圏を形成し、都市と自然が調和した働きやすく暮らしやすい環境を目指し、各種施策に連携して取り組んできたところである。

2023(令和5)年の国の経済財政運営と改革の基本方針2023において、広域的な人口・諸機能の分散と連結強化等を進め、コンパクト・プラス・ネットワークを深化・発展させ、「シームレスな拠点連結型国土」の構築を目指し、中枢中核都市等を核とした広域圏の自立的発展と「全国的な回廊ネットワーク」の形成を通じた交流・連携、国際競争力の強化に取り組むとしている。

連携中枢都市圏は、地域の実情に応じた行政サービスを提供するために市町村が柔軟に連携しこれまでの結びつきをさらに発展させ、人口減少・少子高齢社会にあっても、活力ある地域経済を維持するとともに、住民が安心して快適な暮らしを営むことができる圏域形成を目的としており、本ビジョンは、2019(平成31)年3月に策定した「こおりやま広域連携中枢都市圏ビジョン」(2019～2023年度)に引き続き、主体的なまちづくりの理念と課題を踏まえた将来展望実現に向け、連携して推進する相互に資する具体的な取組を示すものである。

2 連携中枢都市圏の名称及び構成市町村

(1) 連携中枢都市圏の名称

名称は、こおりやま広域連携中枢都市圏(略称：こおりやま広域圏)とする。

(2) 連携中枢都市圏の構成市町村

郡山市、須賀川市、二本松市、田村市、本宮市、大玉村、鏡石町、天栄村、磐梯町、猪苗代町、石川町、玉川村、平田村、浅川町、古殿町、三春町、小野町

3 取組期間

2024年度から2028年度までの5年間とする。

II 圏域の将来像と人口目標

1 こおりやま広域圏の将来像

こおりやま広域圏では、各市町村それぞれの広域的・国際的連携を視野に入れ、主体的なまちづくりの理念と課題に基づいて将来展望を実現するために、以下の5つの基本的な考え方により相互に資する取組を推進する。

① 広め合い、高め合い、助け合う関係を深化

GX(グリーン・トランスフォーメーション)*やDX(デジタル・トランスフォーメーション)*の実現に向け、災害発生時はもとより、平時においてもお互いの強みを「広め合い、高め合い、助け合う」関係を深化させ、持続可能な圏域を目指す。

②多様かつ高度な産業研究機能集積を生かした連携

圏域内の多様な産業や研究機関の連携を促進し、国際的な視野に立った広域産業圏の発展を目指す。また、デジタル技術の導入やグリーンエネルギーの活用を通じて、持続可能な経済成長と環境保護を両立させることを目指す。

③全世代参画型の将来展望と課題解決

全世代が主体的に参加し、協力と連携を通じて、持続可能な社会の実現に向けて課題解決に共に取り組む。

④先駆的な連携事業の推進と広域的貢献

圏域内で先進的な連携事業を進め、広域な発展に貢献するようデジタルを活用した先駆的な連携事業を推進する。

⑤団体自治と住民自治の連携

圏域内の各自治体が団体自治と住民自治の有機的連携・協力により本ビジョンの実現に取り組む。

**「広め合う、高め合う、助け合う」こおりやま広域圏
～ 持続可能な圏域へ 連携の深化 ～**

こ
お
り
や
ま
広
域
圏

- 連携可能な事業から
スモールスタート
- 広域連携の取組拡充

- 公民連携、市町村間連携、境界にとらわれない取組
を深化
- 相互に資するそれぞれの主体的な取組を深化
- 圏域形成メリットを住民が実感できるよう取組を深化

2019

2024

2028

* GX(グリーン・トランスフォーメーション) : Green Transformation の略語。化石燃料中心の経済・社会、産業構造をクリーンエネルギー中心に移行させ、経済社会システム全体を変革しようとする取組

* DX(デジタル・トランスフォーメーション) : Digital Transformation の略語。「ICTの浸透が人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させる」という概念。

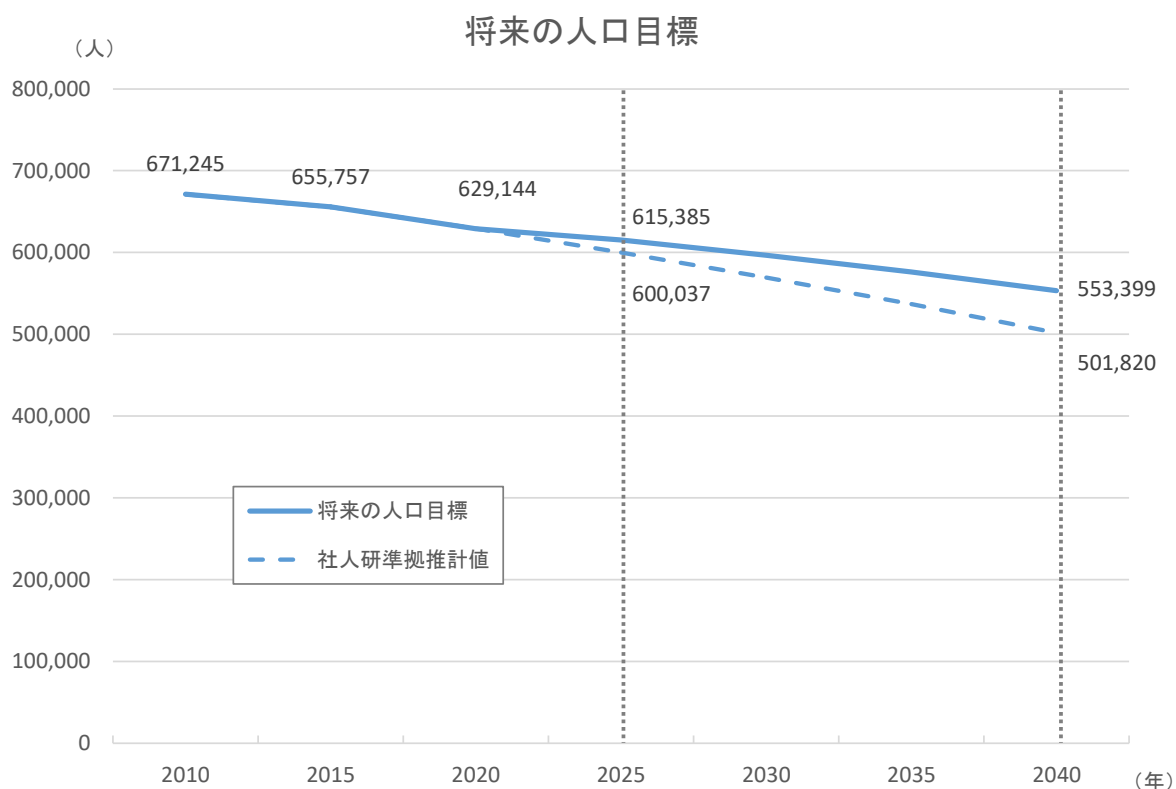
2 将来の人口目標

国立社会保障・人口問題研究所（以下「社人研」という。）に準拠した推計によれば、本圏域の人口は2020年の629,144人から2040年には約12万7千人減少すると推計される。

本圏域の将来の人口目標については、連携市町村の「広め合う、高め合う、助け合う」関係を深化させ、将来に渡り活力ある圏域を維持するため、17市町村の人口ビジョンの目標値も考慮し、長期的に50万人程度を維持するものとする。

	2010年*	2015年*	2020年*	将来推計人口			
				2025年	2030年	2035年	2040年
将来の人口目標	671,245	655,757	629,144	615,385	596,626	576,179	553,399
社人研準拠推計値				600,037	569,292	536,805	501,820

* 国勢調査による実数



出典：各市町村人口ビジョン、総務省「国勢調査（各年次）」

※合併市町村は構成する旧市町村の数字を合算

※将来推計人口は、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（2018年3月）」の福島県推計値準拠により郡山市が独自に推計したものであり、各市町村が策定した総合計画、人口ビジョンにおける将来展望人口等の推計値とは異なる。

Ⅲ こおりやま広域圏の現状

1 こおりやま広域圏の概要

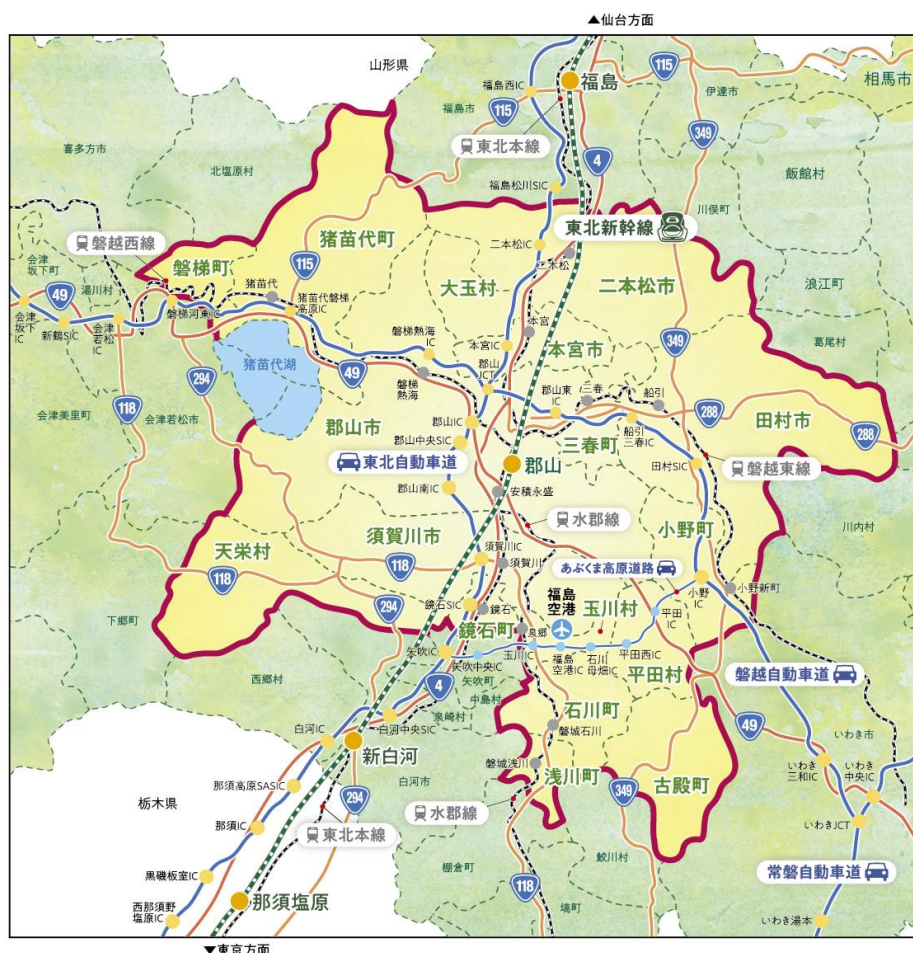
(1) こおりやま広域圏の地勢

こおりやま広域圏（下図参照）を構成する17市町村は、福島県の中央部に位置し、人口が約62万9千人（2020（令和2）年国勢調査）で福島県内の人口の約3分の1を占めており、面積が約3,373 km²で福島県の約4分の1を占めている。圏域の北部は福島市、北塩原村等と接し、西部は会津若松市や下郷町、南部は矢吹町や白河市、西郷村、東部はいわき市や葛尾村、浪江町、大熊町、川内村等と接している。

また、東北を南北に貫く国道4号、東北自動車道、東北本線、東北新幹線と、日本海側と太平洋側を結ぶ国道49号、磐越自動車道、磐越東線、磐越西線や、郡山市から茨城県水戸市を結ぶ水郡線、県内唯一の空港である福島空港を有し、古くから人・モノ・情報が行き交う交通の要衝として栄えている。

圏域は福島県中央部の郡山盆地に位置し、北部は磐梯山や安達太良山、吾妻山といった吾妻山系に接している。西部は猪苗代湖に接し、東部は阿武隈高地に属している。猪苗代湖や羽鳥湖、あぶくま洞など景勝地も多く、豊かな自然に恵まれた地域である。

こおりやま広域圏図



(2) こおりやま広域圏形成後の主な動き

「気候変動対応型」の全世代健康都市圏に向けて、中心市である郡山市は2019年7月に「SDGs*未来都市」に選定され、その後、SDGsの推進や「経済」「社会」「環境」の三側面での自治体SDGsモデル事業の推進のため、「郡山市SDGs未来都市計画」を策定した。これにより、こおりやま広域圏における連携事業として、「全世代健康都市圏」を目指す取組を推進している。

また、2019年12月に国の長期ビジョンを示す「まち・ひと・しごと長期ビジョン(令和元年改訂版)」、2020年12月に地方創生の方向性を示す「第二期まち・ひと・しごと総合戦略(2020改訂版)」が閣議決定された。これにより、地方における人口減少や高齢化率の上昇、東京圏への一極集中に伴う課題の拡大などが指摘され、第二期総合戦略では、SDGsや5G*、Society5.0*などの新しい時代の流れを活用しながら、地域の実情に応じた連携・協働の促進が地方創生において重要であることが示された。一定の圏域人口を確保し、活力ある社会経済を維持するための拠点として、全国各地で形成されている連携中枢都市圏について、取組の深化を図るとされた。

さらに、2019年5月に公布された「デジタル手続法」、2022年12月に第二期まち・ひと・しごと創生総合戦略を抜本的に改訂し、デジタル技術を地方の社会課題解決の鍵として「全国どこでも誰もが便利で快適に暮らせる社会」を目指し、地域のデジタル基盤の整備・活用の推進、ローカル5G*等の新たな通信技術を活用した地域課題解決モデル創出に取り組む「デジタル田園都市国家構想総合戦略」が閣議決定され、地方は、それぞれの地域が抱える課題を踏まえて、地域の個性や魅力を生かした地方版総合戦略策定に努めるとされるなど、これまでの広域圏の取組を、デジタルの力を活用しながら継承・発展させていくことが一層重要となっている。

また、2019年10月に発生した「令和元年東日本台風」の被害を受けて、「こおりやま広域圏対口支援*」のスキームが迅速に形成され、地球温暖化により広域化・激甚化する自然災害に対する流域治水と地域防災力向上に向けた連携が一層効果的に行われた。

2022年2月には、広域圏各市町村と21の企業・団体等による「公民協奏パートナーシップ協定」が締結され、多様な主体間の連携による地域課題解決の体制強化を図った。

「メタバース*」などの先進的なデジタル技術によるDXを強力に推進し、社会経済情勢の変化や国の動向に柔軟に対応しながら、広域圏市町村相互の「自助・共助・公助」を原則とした支援体制を強化し、未来からのバックキャスト*により、誰一人取り残されないSDGsの理念を浸透させ、子どもやZ世代*を含む若者から高齢者まで全世代・全員が活躍できる「こおりやま広域圏」の実現に向け、一層の連携を基盤とした課題解決策を示すものとする。

*SDGs：Sustainable Development Goalsの略語。持続可能な開発目標。2015年9月に国連で採択され、2030年まで達成を目指す17の目標と169のターゲット（具体目標）からなる世界共通課題解決のための目標。

*5G：5th Generationの略語。第5世代移動通信システム。IoT時代に対応した高速で遅延の少ない方式。

*Society5.0：狩猟社会、農耕社会、工業社会、情報社会に続く、新たな社会。

*ローカル5G：地域や産業の個別ニーズに応じて、地域の企業や自治体等の様々な主体が、自らの建物内や敷地内でスポット的に柔軟に構築できる5Gシステム。

*対口支援：被災した自治体のパートナーとして特定の自治体をあらかじめ決めて職員を派遣する方式。

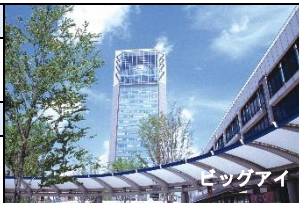




*メタバース：コンピュータやインターネット上に構築された3次元の仮想空間やそのサービス。仮想現実空間。

*バックキャスト：未来のある時点で目標を設定しておき、そこから振り返って現在すべきことを考える方法。

*Z世代：1990年代後半から2012年頃までに生まれたITの普及と共に年を重ねたデジタルネイティブで、SNS等を通して社会課題への関心が高いとされている世代。

(3) 構成市町村の概要等

① 郡山市

市章	所在地		所在地標高	
	郡山市朝日一丁目 23 番 7 号		海拔 245.00m	
	花	木	鳥	
 ハナカツミ	 ヤマザクラ	 カッコウ		
概要				
<p>(自然条件) 福島県の中央に位置し、面積は 757.20 km²と広域で、西は奥羽山脈と猪苗代湖に接し、東は阿武隈山系、北は安達太良山を望み、市街地東部を阿武隈川が南北に貫流している。年平均気温は約 12℃となっており、比較的穏やかな内陸性気候である。</p>				
<p>(産業・経済) 東北有数の商品販売額、製造品出荷額を誇る商工業都市であると同時に、米については生産量、食味ともに全国トップクラスを誇り、「農業・商業・工業」がバランスよく発展している。高速交通体系に恵まれた立地を生かし、農・商・工さらには観光を加えた基幹産業の整備に努めている。</p>				
<p>(観光・文化) 猪苗代湖の雄大な自然景観、多くの観光客が訪れる磐梯熱海温泉郷、張子の里高柴デコ屋敷、郡山布引風の高原など観光資源が豊富である。 また、平成 28 年 4 月には、近代郡山発展の礎となった安積開拓にまつわるストーリー「未来を拓いた『一本の水路』—大久保利通“最期の夢”と開拓者の軌跡 郡山・猪苗代—」が県内初の日本遺産に認定された。 文化面では、音楽活動が特に盛んで、多くの演奏会が市内で開催されているほか、毎年、市内小・中学校、高校の音楽関係部活動が全国大会で輝かしい成果を収めるなど、音楽都市こおりやまを全国に発信している。</p>				
<p>(伝統行事・伝統芸能) 如宝寺境内で行われる「七日堂まいり」、奈良時代の伝説を今に伝える「郡山うねめまつり」、山車みこしが街中を練り歩き活気あふれる「安積国造神社の秋まつり」、市指定重要無形民俗文化財である中田町「柳橋の歌舞伎」、三穂田町「富岡の唐傘行灯花火」等多数。</p>				
<p>(特産品) 郡山産米「あさか舞」、ASAKAMAI887、うねめ牛、郡山の鯉、特選郡山梨、GI 保護制度登録阿久津曲がりねぎ、布引高原大根、御前人参をはじめとした郡山ブランド野菜、高柴デコ屋敷の張子・三春駒、奥州郡山いやしの福とんぼ、ブドウ蔓かご、地ウイスキー、味宿場郡山地酒探訪、蔵元焼酎吟粒、いも焼酎郡山太郎右エ門、郡山産ワイン「VindeOllage (ヴァンデオラージュ)」</p>				
総合計画等の策定状況				
名称	郡山市まちづくり基本指針			
策定年月日	平成 30 年 2 月 2 日			
計画期間	平成 30 年度から令和 7 年度まで			
沿革				
大 13.9.1	市制施行 (編入小原田村)	昭 40.5.1	合体	郡山市、安積町、三穂田村、逢瀬村、片平村、喜久田村、日和田町、富久山町、湖南村、熱海町、田村町
昭 29.11.1	編入 富田村	昭 40.8.1	編入	西田村、中田村
昭 30.1.1	境界変更 高瀬村の一部	昭 45.11.1	境界変更	須賀川市
昭 30.3.31	編入 大槻町	平 9.4.1	中核市移行	
昭 30.11.1	境界変更 三春町大字荒井、蒲倉、三穂田村の一部	平 11.10.1	境界確定変更	猪苗代湖
昭 30.11.15	編入 岩江村の一部			

出典：福島縣市町村要覧 2023、各市町村HP

② 須賀川市

市章	所在地		所在地標高	
	須賀川市八幡町 135 番地		海拔 262.00m	
	花	木	鳥	
	 ぼたん	 あかまつ	 かわせみ	
概要				
<p>(自然条件) 福島県の中央よりやや南に位置し、東西に広がりのある形状をなしており、東は阿武隈山地、西は奥羽山系の山々が連なり、その間の中央部に平坦地が広がる地形となっている。気候は、総体的には一年を通じて比較的温和で関東地方に近い。</p>				
<p>(産業・経済) 農業は、米、野菜、果物が中心で、首都圏に隣接する優位性を活かし、都市近郊型農業が展開されている。特に「岩瀬きゅうり」ブランドで有名な夏秋きゅうりは、市を代表する特産品となっている。工業は、電気機械器具、窯業、プラスチック製品、鉄鋼業、生産用機械器具、食料品、金属製品、情報通信機械器具、電子部品・デバイス・電子回路などが中心で、製造出荷額等の約 78%を占める。</p>				
<p>(観光・文化) 国指定名勝「須賀川の牡丹園」、約 1 万発の花火が夜空を彩る「釈迦堂川花火大会」、430 余年前の戦国の世の悲運を偲ぶ伝統行事「松明あかし」、つつじ・しゃくなげ・しゃくやくなど約 1 万株の「大桑原つつじ園」、和文化の振興と継承及び地域交流を推進する「風流のはじめ館」、「特撮の神様」と称される円谷英二監督の偉業を顕彰する「円谷英二ミュージアム」、特撮に関する資料の収集、保存、調査研究等により特撮文化を顕彰、推進する「須賀川特撮アーカイブセンター」、ねぶた・ねぶたの「長沼まつり」、約 80mの落差のある「幻の大滝」など、数多くの個性的な観光資源を有する。また、「牡丹焚火」と「松明あかし」が俳句歳時記の季語に記載されている。</p>				
<p>(伝統行事・伝統芸能) 松明あかし（毎年 11 月の第 2 土曜日）、牡丹焚火（毎年 11 月の第 3 土曜日）、榊衝神社「太鼓獅子」（旧暦の閏年 10 月第 1 日曜日）、里守屋三匹獅子舞（毎年 7 月最後の土・日曜日）、梅田三匹獅子舞（毎年 7 月）、古館ドント焼き（毎年 8 月 16 日）、木之崎八雲神社御神輿渡御（旧暦の閏年 7 月第 2 土曜日）、仁井田田植え踊り（毎年 5 月 1 日）</p>				
<p>(特産品) 岩瀬きゅうり、米（「ぼたん姫」）、なし、りんご、もも、トマト、ナス、秋冬ニラ（甘ニラ）、いちご、ソバ、かつぱ麺、ユキヤナギ、西洋ウメモドキ</p>				
総合計画等の策定状況				
名称	須賀川市第 9 次総合計画「須賀川市まちづくりビジョン 2023」			
策定年月日	令和 4 年 12 月 22 日			
計画期間	令和 5 年度から令和 9 年度まで			
沿革				
昭 29. 3. 31	合体（市制施行）須賀川町、浜田村、西袋村、稲田村、小塩江村			
昭 30. 3. 10	編入 仁井田村			
昭 42. 2. 1	編入 大東村			
平 17. 4. 1	編入 長沼町、岩瀬村			





出典：福島県市町村要覧 2023、各市町村 HP

③ 二本松市

市章	所在地		所在地標高	
	二本松市金色 403 番地 1		海拔 226.00m	
	花	木	鳥	
	 きく	 さくら	 うぐいす	
概要				
<p>(自然条件) 福島県の中央北部に位置し、西に「智恵子抄」で詠われた安達太良山を擁し、中央の平坦部を阿武隈川が北流、東部には阿武隈山系が連なる風光明媚な自然環境に恵まれ、中心部の平均気温は 12℃前後と比較的温暖で過ごしやすく、年間降水量も少ない。</p> <p>(産業・経済) 農業は、米を基幹作物として、野菜、畜産、果樹等を組み合わせた複合経営を行っている。商工業は、木工家具、菓子、酒造等の地場産業のほか、近年郊外型大型店舗の進出が目立つ。また、産業集積の拠点として、長命工業団地を整備し、企業誘致を推進している。</p> <p>(観光・文化) 名峰「安達太良山」、阿武隈山系の信仰の山「日山」「羽山」をはじめ、天然記念物の「杉沢の大スギ」や「木幡の大スギ」、合戦場のしだれ桜、霞ヶ城公園、智恵子の生家、稚児舞台などの名勝、岳温泉、名目津温泉、安達ヶ原ふるさと村、阿武隈川漕艇場等がある。</p> <p>(伝統行事・伝統芸能) 約 370 年の歴史を持つ「二本松の提灯祭り（10 月第 1 土曜日から月曜日までの 3 日間）」、「二本松の菊人形（10 月 10 日～11 月 19 日）」、「万人子守地蔵尊例大祭（5 月 3 日～4 日）」、「小浜の紋付祭り（10 月 7 日～8 日）」、「針道のあばれ山車（10 月 8 日）」、「木幡の幡祭り（12 月第 1 日曜日）」</p> <p>(特産品) 乳用牛、肉用牛、きゅうり、なす、トマト、ピーマン、つるむらさき、スプレー菊、椎茸、なめこ、りんご、桑葉加工品、清酒、菓子、家具、仏壇・仏具、二本松万古焼、上川崎和紙、ワイン、シールドル</p>				
総合計画等の策定状況				
名称	二本松市総合計画			
策定年月日	令和 2 年 12 月 15 日			
計画期間	令和 3 年度から令和 12 年度まで			
沿革				
昭 30. 1. 1	二本松町、塩沢村、岳下村、杉田村、石井村、大平村が合併により二本松町となる			
昭 30. 1. 1	油井村、渋川村、上川崎村が合併により安達村となる			
昭 30. 1. 1	小浜町、新殿村、旭村が合併により岩代町となる			
昭 30. 1. 1	太田村、針道村、木幡村、戸沢村が合併により東和村となる			
昭 33. 10. 1	二本松町が市制施行			
昭 35. 2. 1	安達村が町制施行			
昭 35. 4. 1	東和村が町制施行			
平 17. 12. 1	二本松市、安達町、岩代町、東和町が合併により二本松市となる			

出典：福島縣市町村要覧 2023、各市町村 HP

④ 田村市

市章	所在地		所在地標高		星の村天文台
	田村市船引町船引字畑添 76 番地 2		海拔 408.00m		
	花	木		鳥	
	 つつじ	 なら	 うぐいす		
概要					
<p>(自然条件) 阿武隈高原中央に位置し、緑豊かな自然に恵まれた面積 458.33 平方キロメートルの地域を有する。本地域は阿武隈山系が南北に走り、大小の山々によって丘陵起伏が縦横に連続する地形となっている。これらの山岳を源に大滝根川や高瀬川など多くの河川が地域を流下している。気候は内陸山間型の気候である。</p> <p>(産業・経済) 第一次産業は、水稻、畜産、葉たばこ、野菜等による経営が行われている。第二次産業は輸送用機械器具製造業、第三次産業は卸売業及び小売業の占める割合が高くなっている。</p> <p>(観光・文化) 国内有数の鍾乳洞「あぶくま洞」「入水鍾乳洞」を始め、国の重要文化財や国指定、県指定の文化財が各地区に点在している。また「田村の美桜 88 景」をはじめとした豊かな自然環境のもと、そこに生息する昆虫に触れ合うことができる「ムシムシランド」などの施設が整備されている。</p> <p>(伝統行事・伝統芸能) 灯籠流しと花火大会、あぶくま洞秋まつり、各地区夏祭り、各地区文化祭、だるま市、安倍文殊堂例大祭、各神社例大祭、各地区三匹獅子舞、お人形様衣替え等</p> <p>(特産品) 田村市ブランド認証品「田村の極」：福うなぎ、ハム工房都路商品、エゴマ製品、あぶくまの天然水、みやこじスイーツゆい商品、黒米甘酒、完全無農薬野菜サラダ、みそ、焼き肉のたれ、菓子（たばこ煎餅、玉銅鑼、手焼きせんべい）、クラフトビール、けやき工芸品、カブトムシ幼虫観察セット</p>					
総合計画等の策定状況					
名称	第 2 次田村市総合計画（前期基本計画）				
策定年月日	令和 4 年 6 月 24 日				
計画期間	令和 4 年度から令和 8 年度まで				
沿革					
明 22. 4. 1 岩井沢村・古道村が合併により都路村となる。					
昭 30. 2. 1 常葉町・山根村が合併により常葉町となる。					
昭 30. 4. 1 船引町・芦沢村・美山村・移村・瀬川村・文珠村・七郷村が合併により船引町となる。					
昭 32. 3. 31 境界変更三春町の一部が船引町となる。					
平 17. 3. 1 滝根町、大越町、都路村、常葉町、船引町が合併により新市となる。					

出典：福島県市町村要覧 2023、各市町村 HP

⑤ 本宮市

市章	所在地		所在地標高	
	本宮市本宮字万世 212 番地		海拔 214.10m	
	花	木	鳥	
	 ぼたん	 まゆみ	 うぐいす	
概要				
<p>(自然条件) 本宮市は、福島県の中央部に位置し、市のほぼ中央部には東北地方を代表する名川・阿武隈川が北流し、東部には阿武隈山系の岩角山、高松山、嶽山などの山並みや丘陵地・農地が広がり、西部には安達太良山から連なる大名倉山を中心とした山並みを有し、水と緑の豊かな自然に恵まれている。総面積は 88.02 平方キロメートルである。</p>				
<p>(産業・経済) 阿武隈川流域の肥沃な土地条件や高速交通網が結節する交通の要衝としての優れた立地条件等を最大限に活用し、農業・商業・工業の振興を柱に、農産物の地産地消や企業誘致による雇用の場の創出等活力ある産業のまちづくりを推進している。</p>				
<p>(観光・文化) 国の登録文化財「蛇の鼻御殿」がある「花と歴史の郷蛇の鼻」をはじめ、「岩角山」や「高松山」を中心とした観光コースは人気が高く、市内外を問わず多くの人々が訪れる。また、市内には、みずいろ公園やプリンス・ウィリアムズ・パーク、英国庭園、白沢ふれあい文化ホールがあり、多くの人たちでにぎわっている。</p>				
<p>(伝統行事・伝統芸能) 本宮市夏まつり（8月15日、16日）、もとみや秋祭り（10月第4土曜日を含む金、土、日の3日間）、しらさわ秋祭り（11月第2日曜日）、岩角山大梵天祭（1月3日）、八ッ田内七福神舞（1月7日）、高松山観音寺初寅祭（旧暦の初寅の日の夜）、荒井の太々神楽（大晦日から元旦暁）</p>				
<p>(特産品) 米、チェリートマト、キュウリ、本宮烏骨鶏、とろろ芋、大核無柿（おおたねなしがき）、りんご、しいたけ、ビール、手作り糍みそ、本格長芋焼酎「さわうらら」、しらさわ宝漬、ぎんなん、清酒、アスパラガス</p>				
総合計画等の策定状況				
名称	本宮市第2次総合計画			
策定年月日	平成30年12月12日			
計画期間	平成31年度～令和10年度まで			
沿革				
明 22. 4 本宮村が本宮町となる。 岩根村と関下村が合併により岩根村となる。 昭 29. 3. 31 本宮町、荒井村、青田村、仁井田村が合併により本宮町となる。 昭 30. 4 白岩村と和木沢村（高木は本宮町へ合併）が合併により白沢村となる。 昭 31. 4. 30 岩根村が本宮町に編入となる。 平 19. 1. 1 本宮町、白沢村が合併により新市となる。				

出典：福島県市町村要覧 2023、各市町村HP

⑥ 大玉村

村章	所在地		所在地標高		
	安達郡大玉村玉井字星内 70 番地		海拔 約 250m		
	花	木	鳥		
	桜		松		きじ
概要					
<p>(自然条件) 本村は、福島県中通り地方のほぼ中央にあり、郡山市、二本松市、本宮市と接し、県内主要都市である福島市と郡山市のほぼ中間に位置する。年間平均気温 12℃、年間降雨量 1,100mm と自然条件に恵まれている。</p> <p>(産業・経済) 本村は農業が主体であり、約 1,300ha の水田が整備され、基幹作物の米を中心に、畜産、そ菜等との複合経営を行っている。また、公害のない、生きがいのある職場となるような企業の誘致を図り、農工一体の活力ある村づくりをめざしている。</p> <p>(観光・文化) 安達太良山麓に県民の森があり、年間延べ 10 万人の観光客が訪れ県民いこいの場となっている。県民の森に接して公設民営の温泉宿泊施設「アットホームおおたま」があり、この施設を中心に多くのレクリエーション施設もある。また、貴重な遺産を保存展示するふるさとホールがある。</p> <p>(伝統行事・伝統芸能) 遠藤ヶ滝不動尊祭礼が毎年 5 月 4 日から 6 日、9 月中旬の 2 回行われている。また、本揃の田植踊、神原田神社十二神楽の伝統芸能がある。</p> <p>(特産品) 米、酵母牛、そば、日本酒、焼酎、きゅうり、りんご</p>					
総合計画等の策定状況					
名称	第五次大玉村総合振興計画				
策定年月日	令和 3 年 4 月 1 日				
計画期間	令和 3 年度から令和 12 年度まで				
沿革					
昭 30.3.31	合併	大山村	玉井村		






出典：福島県市町村要覧 2023、各市町村HP

⑦ 鏡石町

町章	所在地		所在地標高	
	岩瀬郡鏡石町不時沼 345 番地		海拔 270.00m	
	花	木	鳥	
	 あやめ	 しだれ桜	—	
概要				
<p>(自然条件) 福島県の中通り南部に位置し、西に釈迦堂川、東に阿武隈川が流れ、標高 280m 台の平坦な台地にある。年間平均気温は 12℃ 前後で比較的温暖であり、降水量は年間約 1,170mm で寡降水量地域に属する。</p> <p>(産業・経済) 農業は、米を中心に果樹やそ菜等の複合経営であり、農業所得は県下の上位にある。工業は町内 5 箇所の工業団地を中心に、国道 4 号線、JR 東北本線、東北自動車道鏡石スマートインターチェンジ等の高い交通環境の中で定着化が進み、農商工一体の町づくりを進めている。</p> <p>(観光・文化) 唱歌「牧場の朝」のモデルとなった岩瀬牧場、桜や町花「あやめ」が美しく、ふくしま国体サッカー競技の会場にもなった鳥見山公園のほか、2012 年から農業と観光が連携して展開している「かがみいし田んぼアート」、町の特産品販売コーナーと交流スペースを備えた鏡石まちの駅「かんかんてらす」などがある。また、鎌倉の故事を今に伝える史跡「鏡沼」、福島県重要文化財の西光寺の「杉戸絵」等多くの文化財がある。</p> <p>(伝統行事・伝統芸能) 200 年の歴史をもつ「仁井田祭礼花火大会」や昭和 51 年に復活した「熊野神社太々神楽」が行われている。岩瀬牧場で交流の深いオランダにちなみ、鏡石「牧場の朝」オランダ・秋祭りが毎年開催されている。</p> <p>(特産品) 特別栽培米「牧場のしずく」、特別純米酒「鏡の雫」、全国的にも有名な「岩瀬きゅうり」、リンゴやモモを代表とした果物も豊富で、近年では「いちご」が評判を呼んでいる。</p>				
総合計画等の策定状況				
名称	鏡石町第 6 次総合計画（前期）			
策定年月日	令和 4 年 4 月 1 日			
計画期間	令和 4 年度から令和 8 年度まで			
沿革				
昭 37.8.1 町制施行				






出典：福島県市町村要覧 2023、各市町村 HP

⑧ 天栄村

村章	所在地		所在地標高	
	岩瀬郡天栄村大字下松本字原畑 78 番地		海拔 303.00m	
	花	木	鳥	
	 りんどう	 松 えんじゅ	 うぐいす	
概要				
<p>(自然条件) 四季折々にさまざまな彩りを見せる天栄村の自然。村のほぼ中央部にある分水嶺を境に、村の気候は東西に大きく二分される。西部は、日本海式気候で冬期間は積雪が多く、那須山脈に囲まれた地域である。一方、東部は、太平洋式気候で降雪が少なく、釈迦堂川、竜田川沿いに耕地が拓けている。</p> <p>(産業・経済) 農業は、水稻を中心に蔬菜や畜産の複合型農業である。特に夏秋きゅうりで実績を上げている。工業は、現在 16 社（飯豊農工団地 3 社、ハイテク大山工業団地 11 社、その他 2 社）が操業しており、雇用と地域産業の振興に寄与している。</p> <p>(観光・文化) 羽鳥湖高原は、スキー場、ゴルフ場、キャンプ場、英語研修施設などのレジャー施設があり、一年を通じて楽しめる観光地である。また、環境省から国民保養温泉地に指定された二岐・岩瀬湯本・天栄温泉や、各種ペンション村など宿泊施設も充実している。</p> <p>(伝統行事・伝統芸能) 5 月下旬 二岐山開き 7 月第 3 日曜日 湯本満願寺の馬頭観世音祭</p> <p>(特産品) 天栄ヤーコン、天栄長ネギ、天栄米、岩瀬きゅうり、りんご、しいたけ、味噌、しょう油、日本酒（廣戸川・寿々乃井）、ミニトマト、りんごジュース</p>				
総合計画等の策定状況				
名称	第 5 次天栄村総合計画			
策定年月日	平成 29 年 3 月 7 日			
計画期間	平成 29 年度から令和 8 年度まで			
沿革				
昭 30.3.31	合体	湯本村、牧本村、大里村、広戸村		






出典：福島県市町村要覧 2023、各市町村 HP

⑨ 磐梯町

町章	所在地		所在地標高	 史跡慧日寺跡
	耶麻郡磐梯町大字磐梯字中ノ橋 1855		海拔 378.00m	
	花	木	鳥	
 りんどう	 こぶし	 おおり		
概要				
<p>(自然条件) 本町は、福島県会津盆地の東北部に位置し、北に霊峰磐梯山をはじめ猫魔岳などの山並みが連なり、山間部の起伏の多い丘陵地帯である。町中央部を大谷川、南は日橋川が東西に流れ、これらの河川に沿って耕地が開け、平均標高は 380m の町である。</p> <p>(産業・経済) 町全体の 70% が山林、原野で、耕地は少ないが、圃場整備は計画分をすべて完了、複合農業経営に力を入れ、菌茸、果樹、高原野菜、花卉等の産地化を推進中である。町の豊かな湧水を利用する企業が進出している。</p> <p>(観光・文化) 会津フレッシュリゾート構想の中核をなすアルツ磐梯スキー場、苔むした礎石が人々の心をさそう国史跡慧日寺跡、慧日寺金堂、磐梯山慧日寺資料館、樹木の間を流れる名水百選の磐梯西山麓湧水群、樹齢 800 年の磐梯神社種まき桜。</p> <p>(伝統行事・伝統芸能) 御国祭として数百年の歴史を数える舟曳き祭（豊作祈願祭礼）巫女舞（春分の日）、彼岸獅子（3月彼岸入り）</p> <p>(特産品) 会津米、しいたけ、磐梯そば、磐梯はちみつ、磐梯の花カラー、ほうれん草など</p>				
総合計画等の策定状況				
名称	磐梯町総合計画			
策定年月日	令和 2 年 3 月 13 日			
計画期間	令和 2 年度から令和 9 年度まで			
沿革				
昭 35. 4. 1 町制施行				



出典：福島県市町村要覧 2023、各市町村 HP

⑩ 猪苗代町

町章	所在地		所在地標高			
	耶麻郡猪苗代町字城南 100 番地		海拔 521.60m			
	花	木	鳥			
	 サギソウ	 ナナカマド	 ハクチョウ			
概要						
<p>(自然条件) 本町は、福島県のほぼ中央に位置する猪苗代湖の北岸に面し、東西北の三方を秀峰会津磐梯山をはじめとする山々に囲まれ、山と湖の織りなす雄大で美しい自然に包まれている。気候は日本海式気候で、内陸型の積雪寒冷地帯に属している。</p> <p>(産業・経済) 米の生産調整対策に伴う転作作物としてのそばを地域の特産物とし、農業の振興に努めている。また中心市街地活性化のため、魅力ある商店街づくりを推進している。</p> <p>(観光・文化) 磐梯山や猪苗代湖、世界に知られる医学者野口英世博士の生家などが保存・展示されている野口英世記念館など、名所・旧跡を多数有し、四季を通じてさまざまな魅力を堪能できる県内有数のオールシーズン型の観光リゾート地である。</p> <p>(伝統行事・伝統芸能) 初市（十三日市 1月13日）、小平瀧天満宮初天神（1月25日）、西久保彼岸獅子（3月14日～24日）、磐梯山開き（5月下旬）、磐梯まつり（7月下旬）</p> <p>(特産品) そば、ブランド米「いなわしろ天のつぶ」、磐梯トマト、アスパラ、あげまんじゅう、天ぷらまんじゅう、笹だんご、日本酒、地ビール、しょうが加工品、中ノ沢こけし</p>						
総合計画等の策定状況						
名称	第七次猪苗代町振興計画					
策定年月日	平成29年4月1日					
計画期間	平成29年度から令和8年度まで					
沿革						
昭30.3.1	合体	猪苗代町	千里村	吾妻村	月輪村	翁島村
昭30.7.20	編入	長瀬村				

出典：福島県市町村要覧2023、各市町村HP

⑪ 石川町

町章	所在地		所在地標高	
	石川郡石川町字長久保 185 番地の 4		海拔 320.00m	
	花	木	鳥	
	 桜	 杉	 うぐいす	
概要				
<p>(自然条件) 福島県中通り地方の南部、阿武隈高地の西側に位置し、阿武隈川流域の平坦地と阿武隈高地に連なる山間地から形成され、中央を流れる北須川と今出川に沿って開けている。気候は比較的温暖で、冬の降雪量も少ない。</p> <p>(産業・経済) 農業は米を中心に畜産、野菜、果樹など複合経営が主体となっている。また、首都圏との近接性や利便性の高い交通網、強固な地盤を活かした企業誘致と既存企業の育成を図っている。近年は第3次産業の就業者数割合が高まっているが、調和のとれた産業構造を目指している。</p> <p>(観光・文化) 温泉資源に恵まれ、東北屈指のラジウム温泉として名高い母畑温泉のほか、猫啼温泉、片倉温泉、塩ノ沢温泉と大小4つの温泉地がある。春には「いしかわ桜谷」と称される桜並木が見応え十分に咲き誇り、冬には母畑レークサイドセンターでアイススケートが楽しめる。また、自由民権史跡や狛犬、和泉式部伝説、ペグマタイト鉱物などはロマンにあふれ、訪れるファンを魅了する。</p> <p>(伝統行事・伝統芸能) 石都々古和気神社祭礼（9月第三土・日曜）、中田のささら舞（9月中旬）。八槻市（11月23日）</p> <p>(特産品) リンゴ、梨、もも、こんにゃく、シイタケ、いしかわうどん、納豆、りんごジュース、いしかわ牛</p>				
総合計画等の策定状況				
名称	石川町第6次総合計画			
策定年月日	平成31年2月1日			
計画期間	平成31年度から令和10年度まで			
沿革				
昭30.3.31	合体	石川町、沢田村、中谷村、母畑村、野木沢村、山橋村		



出典：福島県市町村要覧 2023、各市町村HP

⑫ 玉川村

村章	所在地				所在地標高	
	石川郡玉川村大字小高字中囃9番地				海拔 262.00m	
	花		木		鳥	
		山桜		赤杉		山鳩
概要						
<p>(自然条件) 福島県の南部に位置し、阿武隈山地の西斜面の丘陵地と阿武隈川東岸に開けた平坦地に大別され、温暖な気候と豊かな自然に恵まれた住みよい村である。福島空港の所在地である当村は、交通の利便性に優れた地域として発展しつつある。</p> <p>(産業・経済) 農業は、米、野菜を中心に畜産等の複合経営が行われている。近年は、小菊、リンドウなどの花き栽培を推進しており、特産品のさるなし、トマトなどとともに、生産物直売所「こぶしの里」等で販売活動をしている。また、玉川工業団地への立地企業をはじめとする村内企業は、空港や道路環境の整備による交通の利便性を生かし、雇用面からも地域活性化が図られている。さらに、あぶくま高原道路などの高速交通ネットワークが整備され、ますますの発展が期待される。加えて、令和2年3月に閉校した旧須釜中学校を活用した「すがまプラザ交流センター」を複合型拠点施設として、オフィススペースやコワーキングスペース等を備え「新たな人の流れ」の創出を行っている。</p> <p>(観光・文化) 芭蕉の「奥の細道」ゆかりの地、乙字ヶ滝は「五月雨の滝降りうつむ水かさ哉」の句碑と共に桜の名所でも知られている。また、福島空港公園を訪れる家族連れや観光客も年々多くなってきており、地元特産品を目当てに訪れる方も増加している。また、村では観光交流施設「森の駅 yodge (ヨッジ)」を中心とした体験型の観光や「日本一自転車好きな村」を目指しサイクルビレッジたまかわ事業等を通じスポーツに親しめる村づくりを推進している。 文化面では、国重要文化財指定の「石造五輪塔」、「東福寺舍利石塔」や県重要文化財指定の「宮ノ前古墳」など文化財も豊富で、古墳や遺跡も数多い。</p> <p>(伝統行事・伝統芸能) 県無形重要文化財指定・福島遺産百選認定の「南須釜念仏踊り」は、毎年4月3日と8月14日に艶やかな衣装を身につけた少女たちによって踊られる。また、8月13日に「玉川夏まつり・花火大会」が開催される。</p> <p>(特産品) 米、トマト、きゅうり、いんげん、さやえんどう、なす、大豆、さるなし、いちじく、ぎんなん、ブルーベリー、小菊、リンドウ</p>						
総合計画等の策定状況						
名称	第6次玉川村振興計画					
策定年月日	平成28年3月15日					
計画期間	平成28年度から令和7年度まで					
沿革						
昭30.3.31	合体 泉村、須釜村					






出典：福島県市町村要覧2023、各市町村HP

⑬ 平田村

村章	所在地		所在地標高		芝桜
	石川郡平田村大字永田字切田 116 番地		海拔 490.40m		
	花	木	鳥		
	たんぽぽ		あかまつ		やまばと
概要					
<p>(自然条件) 本村は福島県南東部、阿武隈山系にあり、美しい自然豊かな地域。標高が平均 500m と高いため桜の開花が少し遅い。夏は高原特有の涼しさが心地よい。蓬田岳山麓の「ジュピアランドひらた」には約 25 万株の芝桜が植栽されており、4 月から 5 月の開花時期には多くの観光客で賑わう。</p> <p>(産業・経済) 本村は、農業を基幹産業とし畜産業が盛んである。中山間地域の特性を生かし、稲作、野菜、花卉など多くの農産物が生産されている。工業では、あぶくま高原道路の全線開通による高速交通網の整備が図られ、積極的に企業誘致を進めている。</p> <p>(観光・文化) 石川郡内の最高峰標高 952.2m の蓬田岳山頂には菅布祢神社が祀られ、登山者も多い。山麓には自然を活用した「ジュピアランドひらた」があり、5 月には「芝桜まつり」が行われる。6 月下旬から世界のアじさい園、ゆり園もオープンする。ゆりは 35 種 35,000 本、あじさいは 825 種 27000 本植栽されており、世界一に認定された。また、国道 49 号沿いにある道の駅ひらたでは、地域の特産品が販売されている。母畑湖畔に近い山鶏滝にも観光客が絶え間なく訪れている。</p> <p>(伝統行事・伝統芸能) 「駒形じゃんがら念仏踊り」(村指定無形文化財) 8 月 13 日、14 日に駒形地区で行われる。揃いの浴衣姿にたすき掛けをした若者たちが鉦や太鼓をたたきながら踊り、新盆の家をまわる伝統芸能。 「酉小屋燃やし」正月に行われる地域行事。</p> <p>(特産品) 自然薯、地酒、アスパラガス、黒毛和牛、いんげん</p>					
総合計画等の策定状況					
名称	第 5 次平田村総合計画				
策定年月日	平成 28 年 3 月 16 日				
計画期間	平成 28 年度から令和 7 年度まで				
沿革					
昭 30.3.31	合併 蓬田村・小平村				






出典：福島県市町村要覧 2023、各市町村 HP

⑭ 浅川町

町章	所在地		所在地標高		
	石川県浅川町大字浅川字背戸谷地 112 番地の 15		海拔 306.50m		
	花	木	鳥		
	 サギソウ	 あかまつ	 オナガ		
概要					
<p>(自然条件) 福島県中通り南部に位置し、東部に阿武隈山麓に連なる丘陵が南北に続く。町を西北に縦断するように阿武隈川の支流が走り、西部はおおむね平坦で農地が集団化されている。気象条件は比較的恵まれているものの、冬季の寒さは厳しく春先の晩霜が農作物に与える影響は大きい。</p> <p>(産業・経済) 近年、第1次産業就業者は基幹作物の米を中心に畜産、野菜等の複合経営を行っている。第2次産業は精密機器、弱電気、信号機械が中心となっている。第2次、第3次産業への就業人口が増加し、地場産業の発掘、既存企業の育成、定住促進住宅の購入費等、町民はもとより他の地域からの移住者の生活の安定を図る。</p> <p>(観光・文化) 病理学者吉田富三博士を顕彰する「吉田富三記念館」、ついじの森にただずむ石仏「五智如来」、「即身弘智法印有貞」、遠く那須連峰を一望でき、夜景が素晴らしい城山がある。</p> <p>(伝統行事・伝統芸能) 300 有余年の歴史と伝統のある「浅川の花火」(毎年8月16日)、慶応以前から始められたと言われる「カラスもち」(毎年4月3日)、無病息災と豊作を祈願する「風袋(カザブクロ)」(毎年二百十日の前日)がある。近年、除夜の花火や夜桜花火、豊秋花火打上で「花火の里」のイメージアップを図っている。</p> <p>(特産品) 米、肉用牛、野菜、乾麺、地酒、鶏卵、魔除花火など</p>					
総合計画等の策定状況					
名称	浅川町第5次振興計画 あさかわスマイルプラン				
策定年月日	平成28年3月14日				
計画期間	平成28年度から令和7年度まで				
沿革					
昭10.8.1 町制施行					
昭29.10.1 合併 浅川町、山白石村					
昭30.8.20 境界変更 東村大字太田輪・小貫					

出典：福島県市町村要覧 2023、各市町村HP

⑮ 古殿町

町章	所在地		所在地標高	
	石川郡古殿町大字松川字新桑原 31 番地		海拔 301.00m	
	花	木	鳥	
	 ヤマユリ	 スギ	 キジ	
概要				
<p>(自然条件) 福島県の南、石川郡の南東、阿武隈山系の西斜面に位置している。標高は 300～500m で起伏の多い丘陵が波状的に連なり、地質は花崗岩を母体として形成され、中生層及び古生層の竹貫式結晶片岩からなる。山地は杉の適地である。</p> <p>(産業・経済) 第一次産業における農業は米、山菜栽培、畜産が中心である。林業も盛んであり間伐、林道事業等を積極的に推進している。</p> <p>(観光・文化) 三株山、芝山はキャンプ場も整備され、多くのハイカーでにぎわう。春は越代のサクラやふるどの桜街道の花見、鎌倉岳遊歩道の散策、秋の八幡神社祭礼の「流鏝馬」、また県重要文化財の西光寺阿弥陀堂、木造地藏菩薩座像などがある。</p> <p>(伝統行事・伝統芸能) 800 年余の伝統をもち、荘厳にして勇壮な鎌倉絵巻「流鏝馬（毎年 10 月第 2 日曜日とその前日）」、「馬場平のジャンガラ念仏（7 月、8 月 13～14 日、8 月 23 日）」、松川八ヶ久保地区及び論田地区の「獅子舞（毎年 10 月第 1 日曜日）」などがある。</p> <p>(特産品) チェリートマト、山菜</p>				
総合計画等の策定状況				
名称	古殿町第 7 次振興計画			
策定年月日	令和 2 年 3 月 30 日			
計画期間	令和 2 年度から令和 11 年度まで			
沿革				
昭 30. 3. 31	合体 竹貫村、宮本村			
昭 32. 4. 1	町制施行			
平 6. 4. 11	郡界変更 東白川郡から石川郡			

出典：福島縣市町村要覧 2023、各市町村 HP

⑩ 三春町

町章	所在地		所在地標高		滝桜
	田村郡三春町字大町 1 番地の 2		海拔 314.30m		
	花	木	鳥		
	 松波	 しだれ桜	 うぐいす		
概要					
<p>(自然条件) 県のほぼ中央部、阿武隈山系の西裾に位置し、郡山市の北東に隣接している。町のほとんどが標高 300~500m の丘陵地で、ゆるやかな山並みが続いている。気候は内陸性で、冬の降雪は少なく、夏もあまり暑くないため、過ごしやすい。</p> <p>(産業・経済) 田村西部工業団地が磐越自動車道船引三春 IC に隣接しており、交通アクセスに優れた生産基地を提供。市街地においては、商業基盤等の充実や蔵・空き店舗を活用した賑わい創出等魅力的な商店街の形成が図られている。また、豊かな田園生活を追求した新たな農業への取り組みが行われている。</p> <p>(観光・文化) 推定樹齢千年以上と言われる国指定天然記念物三春滝ザクラ、歴史民俗資料館、三春郷土人形館、町のシンボルである三春城跡、旧城下町のたたずまいや神社仏閣、自由民権運動の発祥の地として歴史や観光資源が多い。また、三春ダムやその周辺の施設なども年間を通して訪れる人も多い。</p> <p>(伝統行事・伝統芸能) 元日に行われる西方水かけ祭り、1 月第 3 日曜日の三春だるま市、各神社の祭礼に奉納される長獅子舞・三匹獅子舞・太々神楽、8 月 15・16 日に行われる三春盆踊りなどが今に伝えられる。また、これらの保存会の活動も盛んである。</p> <p>(特産品) 三春駒、三春人形(張子)、三角油あげ、米、しいたけ、ピーマン、三春索麺、地酒、ブルーベリー</p>					
総合計画等の策定状況					
名称	第 7 次三春町長期計画				
策定年月日	平成 26 年 12 月 10 日				
計画期間	平成 27 年度から令和 6 年度まで				
沿革					
昭 30. 4. 1	合体	三春町、中郷村、沢石村、要田村、御木沢村、中妻村			
昭 30. 11. 1	境界変更	郡山市大字荒井 蒲倉			
昭 30. 11. 15	編入	岩江村の一部			
昭 31. 10. 10	境界変更	郡山市大字下舞木の一部			
昭 32. 3. 31	境界変更	船引町の一部			
昭 35. 4. 1	境界変更	郡山市大字上舞木及び下舞木の一部			
昭 38. 9. 1	境界変更	船引町の一部			

出典：福島県市町村要覧 2023、各市町村 HP

⑰ 小野町

町章	所在地		所在地標高		夏井千本桜
	田村郡小野町大字小野新町字館廻 92 番地		海拔 432.00m		
	花	木	鳥		
	つつじ		杉		かっこう
概要					
<p>(自然条件) 阿武隈山系の中部に位置し、3市1村と境を接する。地形は、周囲を矢大臣山、日影山等の小高い山に囲まれた丘陵地帯で、町中央を右支夏井川が流れている。標高は町の中心部で 432m、気温は平均 10℃前後と低く冷涼、降雨量は少ない。</p> <p>(産業・経済) 地域の特性や伝統を生かしながら、農業・林業・工業・観光の連携・発展を推進するとともに、新たな産業が育ちやすい環境を整備し、活気と活力のある自立性の高い、個性豊かで快適な魅力ある町づくりを進める。</p> <p>(観光・文化) 県立自然公園の東堂山は町のシンボルの一つで、中腹には、大同 2 年（807 年）に開山したと伝えられている満福寺があり、境内奥には 500 体を超える羅漢さまが老杉に囲まれ静かに佇んでいる。 また、春には県立公園高柴山の 3 万本のツツジや夏井川の 1,000 本の桜が一斉に咲き誇り、山や川が緑を背景に遅い春を謳歌している。</p> <p>(伝統行事・伝統芸能) 東堂山例大祭（5 月 3 日）、たかむら踊り（8 月）、じゃんがら念仏踊り（7 月～8 月）、菅布彌神社祭礼（9 月）、塩釜神社祭礼（9 月下旬）</p> <p>(特産品) 黒にんにく、しいたけ、長いも、おのっこ一笑漬（漬物）、小町めん、くんせいたまご、御影石</p>					
総合計画等の策定状況					
名称	小野町総合計画				
策定年月日	令和 5 年 3 月 30 日				
計画期間	令和 5 年度から令和 9 年度まで				
沿革					
昭 30. 2. 1	合併 小野新町、飯豊村、夏井村				

出典：福島県市町村要覧 2023、各市町村 HP

2 圏域の現在人口と将来推計人口

(1) 圏域の総人口の推移と将来推計人口

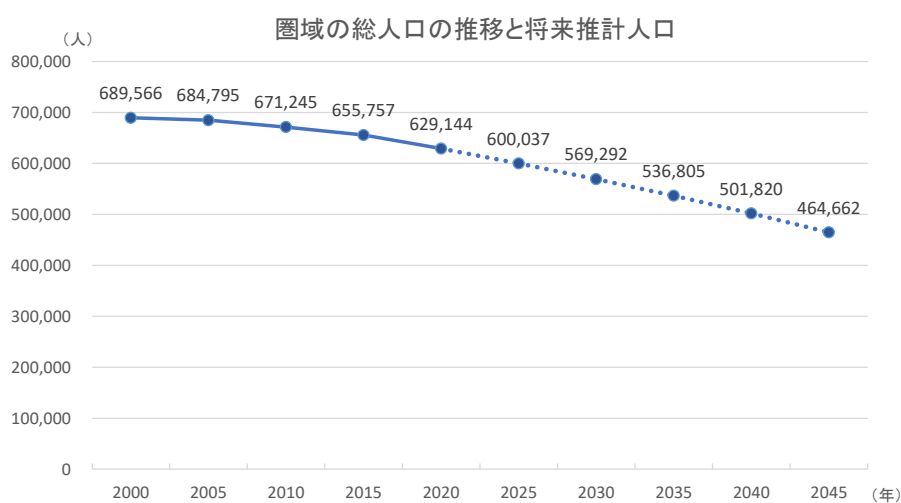
圏域の人口は2000年をピークに減少に転じており、2020年には629,144人となっている。

この傾向は今後も続くことが予想され、社人研に準拠した推計によれば、2045年には464,662人（2020年比26.1%減）と予想されている。

圏域全体の産業集積・雇用の確保を基盤としつつ、各地域の強みを生かし、誰もが住みたい地域で暮らし続けられるよう集落の生活基盤確保も含めた人口減少対策が求められている。

出入国管理法の改正などにより、外国人労働者増加による地域産業の人手不足解消や、国際交流、インバウンドに向けた圏域のPRや観光の呼び水となることが期待できる。

自治体名	現在人口（国勢調査）					将来推計人口				
	2000年 （平成12年）	2005年 （平成17年）	2010年 （平成22年）	2015年 （平成27年）	2020年 （令和2年）	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年
郡山市	334,824	338,834	338,712	335,444	327,692	311,990	297,942	282,429	265,394	247,204
須賀川市	79,409	80,364	79,267	77,441	74,992	71,389	67,953	64,300	60,269	55,960
二本松市	66,077	63,178	59,871	58,162	53,557	51,928	48,761	45,522	42,094	38,502
田村市	45,052	43,253	40,422	38,503	35,169	33,936	31,699	29,492	27,256	24,876
本宮市	31,541	31,367	31,489	30,924	30,236	28,320	26,915	25,459	23,884	22,199
大玉村	8,407	8,464	8,574	8,679	8,900	7,958	7,570	7,158	6,710	6,223
鏡石町	12,743	12,746	12,815	12,486	12,318	11,574	11,042	10,462	9,840	9,178
天栄村	6,889	6,486	6,291	5,611	5,194	4,986	4,669	4,351	4,003	3,632
磐梯町	4,109	3,951	3,761	3,579	3,322	3,099	2,876	2,662	2,448	2,229
猪苗代町	18,178	17,009	15,805	15,037	13,552	13,047	12,098	11,193	10,290	9,376
石川町	19,914	18,921	17,775	15,880	14,644	13,937	12,973	12,021	11,035	10,031
玉川村	7,680	7,602	7,231	6,777	6,392	6,144	5,819	5,492	5,133	4,737
平田村	7,910	7,538	6,921	6,505	5,826	5,746	5,374	5,017	4,646	4,238
浅川町	7,484	7,272	6,888	6,577	6,036	5,864	5,498	5,137	4,769	4,388
古殿町	6,818	6,511	6,030	5,373	4,825	4,607	4,252	3,930	3,609	3,264
三春町	19,976	19,194	18,191	18,304	17,018	16,301	15,266	14,188	13,054	11,883
小野町	12,555	12,105	11,202	10,475	9,471	9,211	8,585	7,992	7,386	6,742
合計	689,566	684,795	671,245	655,757	629,144	600,037	569,292	536,805	501,820	464,662



出典：総務省「国勢調査（各年次）」

※合併市町村は構成する旧市町村の数字を合算

※将来推計人口は、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（2018年3月）」の福島県推計値準拠により郡山市が独自に推計したものであり、各市町村が策定した総合計画、人口ビジョンにおける将来展望人口等の推計値とは異なる。

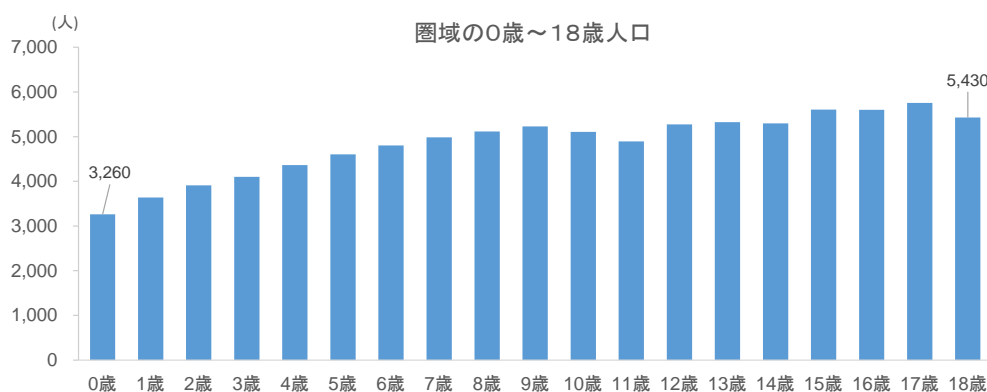
圏域の在留外国人数（2022年12月末日現在）

市町村名	人数(人)	市町村名	人数(人)	市町村名	人数(人)
郡山市	2,985	鏡石町	64	平田村	106
須賀川市	437	天栄村	78	浅川町	37
二本松市	489	磐梯町	15	古殿町	68
田村市	301	猪苗代町	99	三春町	78
本宮市	226	石川町	84	小野町	136
大玉村	40	玉川村	49		

出典：福島県国際課「福島県の国際化の現状」

圏域の0歳～18歳人口（2023年8月1日現在）

自治体名	0歳～18歳人口 (人)																		
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳	18歳
郡山市	1,853	2,083	2,243	2,240	2,413	2,504	2,653	2,678	2,733	2,784	2,683	2,592	2,744	2,797	2,705	2,929	2,861	2,961	2,813
須賀川市	427	469	461	547	593	600	561	679	630	672	641	647	637	689	698	727	740	732	731
二本松市	232	273	273	306	330	327	360	369	416	399	401	355	410	410	389	448	452	473	432
田村市	114	127	152	189	167	203	225	231	249	258	242	228	292	263	264	266	269	298	249
本宮市	167	193	204	227	203	249	254	260	283	287	271	251	263	278	307	289	308	307	314
大玉村	70	65	80	75	93	87	91	108	100	75	95	80	93	84	95	79	74	91	71
鏡石町	83	84	86	85	118	112	116	113	128	121	119	111	125	106	124	141	127	129	126
天栄村	24	23	28	32	36	25	32	30	30	41	41	31	45	34	39	48	31	55	37
磐梯町	16	11	22	27	19	30	29	25	33	31	31	23	37	28	34	19	37	25	26
猪苗代町	45	47	56	53	66	91	88	80	102	103	95	89	96	122	100	113	104	117	101
石川町	39	61	56	65	71	68	80	78	77	93	97	111	112	111	145	133	160	152	103
玉川村	36	31	40	39	41	51	47	48	43	57	42	53	55	48	61	67	66	62	63
平田村	23	23	28	20	30	27	40	40	21	52	47	43	55	44	37	48	58	44	39
浅川町	24	22	33	34	28	34	35	30	49	44	52	56	52	59	53	52	62	53	63
古殿町	10	18	20	18	18	24	16	22	21	35	31	34	45	48	48	38	42	45	33
三春町	72	82	87	107	99	123	116	135	142	113	142	128	136	129	121	129	126	141	147
小野町	25	27	41	37	36	48	62	56	60	66	78	60	75	76	78	80	83	70	82
合計	3,260	3,639	3,910	4,101	4,361	4,603	4,805	4,982	5,117	5,231	5,108	4,892	5,272	5,326	5,298	5,606	5,600	5,755	5,430



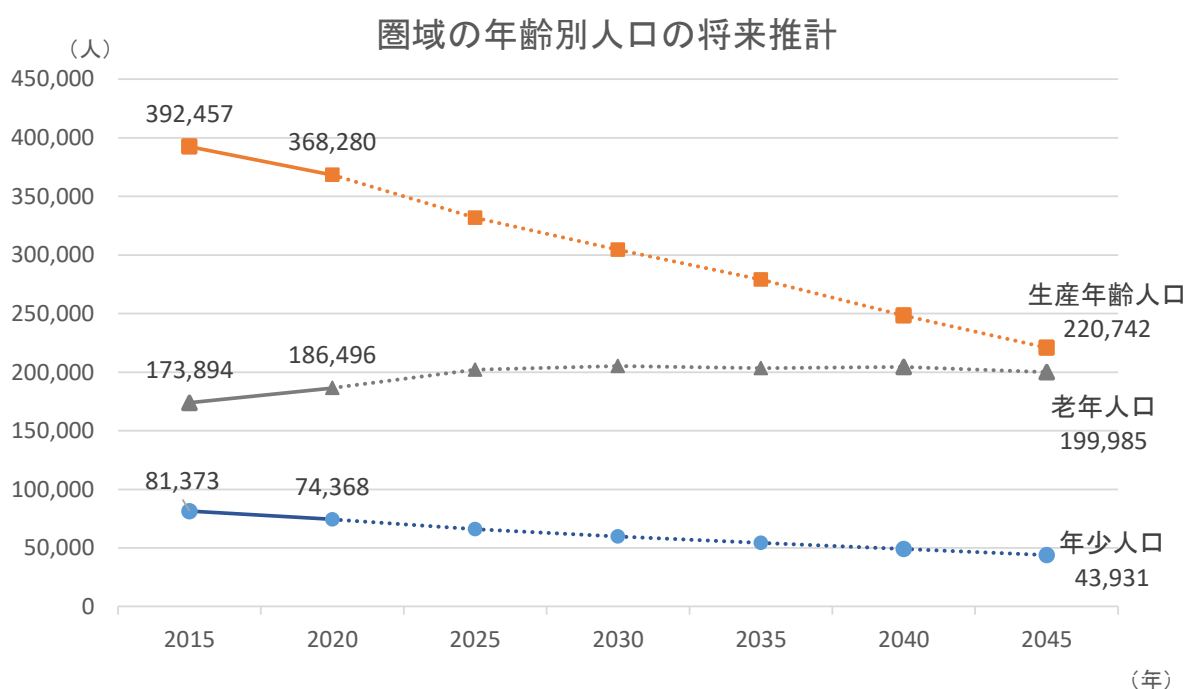
出典：各市町村 HP 等

(2) 圏域の年齢別人口の将来推計

社人研準拠による将来推計人口を年齢3区別に見ると、年少人口（15歳未満）、生産年齢人口（15歳～64歳）は年々減少し、2045年には年少人口が43,931人（2020年比40.9%減）、生産年齢人口は220,742人（2020年比40.1%減）となる見込みである。

一方、老年人口（65歳以上）は徐々に増加し、2040年に204,366人（2020年比9.6%増）となり、減少に転じる見込みである。

区分	2015	2020	2025	2030	2035	2040	2045
年少人口 (15歳未満)	81,373	74,368	66,025	59,618	54,397	49,102	43,931
生産年齢人口 (15～64歳)	392,457	368,280	331,851	304,400	279,095	248,355	220,742
老年人口 (65歳以上)	173,894	186,496	202,160	205,274	203,318	204,366	199,985



出典：総務省「国勢調査（2020年）」

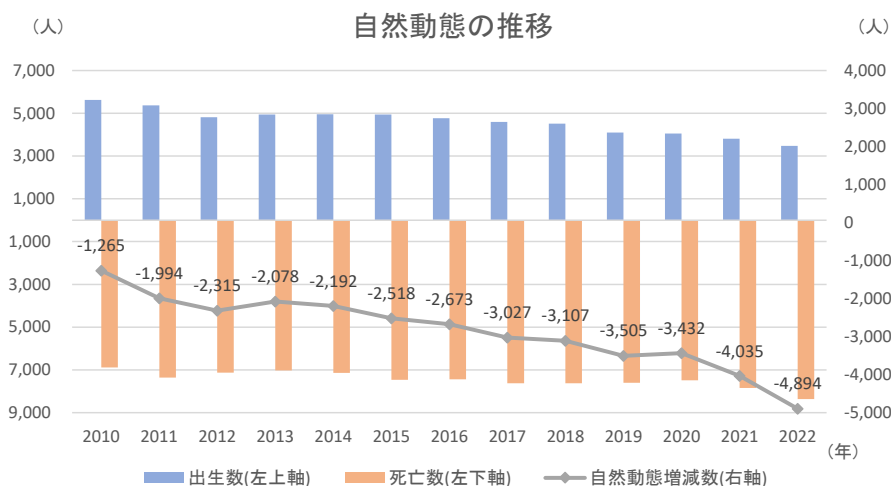
※将来推計人口は、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（2018年3月）」の福島県推計値準拠により郡山市が独自に推計したものであり、各市町村が策定した総合計画、人口ビジョンにおける将来展望人口等の推計値とは異なる。

(3) 圏域の人口動態

① 自然動態の推移

圏域の自然動態を見ると、少子高齢化の進行により自然減が増加。2013年に減少幅が一時弱まったものの、2020年から減少傾向が拡大している。

区分	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
出生数	5,623	5,366	4,819	4,944	4,953	4,940	4,773	4,596	4,518	4,094	4,057	3,809	3,475
死亡数	6,888	7,360	7,134	7,022	7,145	7,458	7,446	7,623	7,625	7,599	-7,489	-7,844	-8,369
自然動態増減数	-1,265	-1,994	-2,315	-2,078	-2,192	-2,518	-2,673	-3,027	-3,107	-3,505	-3,432	-4,035	-4,894

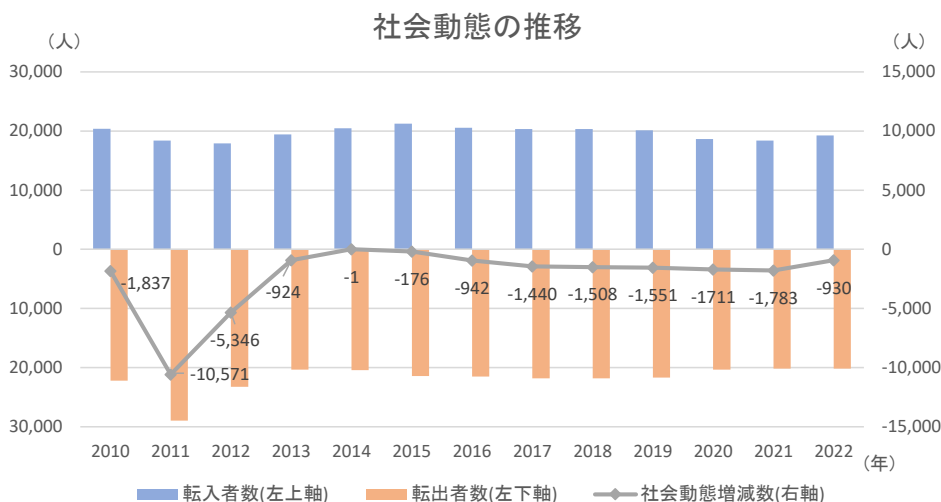


出典：福島県統計課「福島県現住人口調査年報（各年次）」

② 社会動態の推移

圏域の社会動態を見ると、震災前から既に転出超過であったが、2011年の震災により転出が10,571人と大幅に超過。その後の復旧・復興の動きに合わせて徐々に回復したが、転出超過の状況となっている。

区分	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
転入者数	20,365	18,379	17,895	19,409	20,446	21,247	20,556	20,353	20,312	20,121	18,640	18,379	19,253
転出者数	22,202	28,950	23,241	20,333	20,447	21,423	21,498	21,793	21,820	21,672	20,351	20,162	20,183
社会動態増減数	-1,837	-10,571	-5,346	-924	-1	-176	-942	-1,440	-1,508	-1,551	-1,711	-1,783	-930



出典：福島県統計課「福島県現住人口調査年報（各年次）」

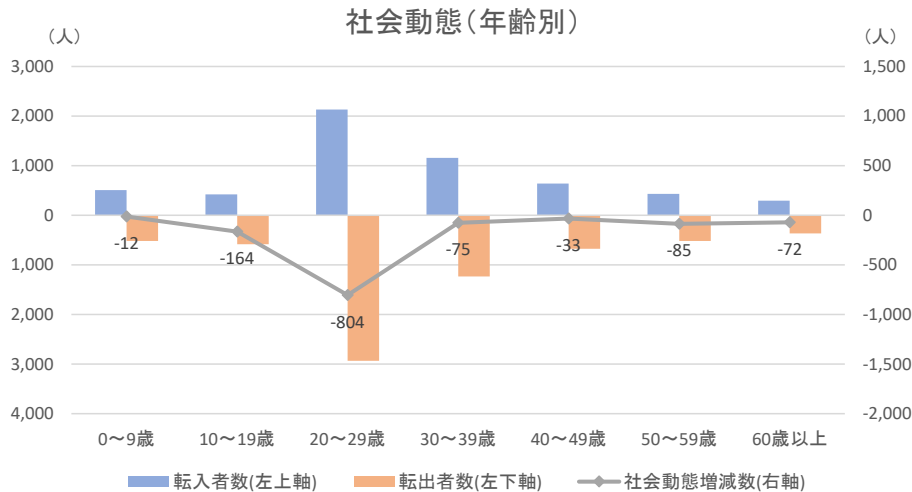
※転入、転出者数は統計データの制約上、圏域内各市町村の転入、転出数を単純に合計したものであり、圏域内市町村から圏域内他市町村への転入、転出数も含む。

③ 転入転出状況（年齢別）

年齢別（10歳ごと）の社会動態を見ると、「20～29歳」を中心に大幅な転出超過となっており、進学や就職を契機とした転出と推察される。

（単位：人）

区分	0～9歳	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	総数
転入者数	506	420	2,130	1,159	640	431	293	5,579
転出者数	518	584	2,934	1,234	673	516	365	6,824
社会動態増減数	-12	-164	-804	-75	-33	-85	-72	-1,245



出典：総務省「住民基本台帳人口移動報告（2022年）」

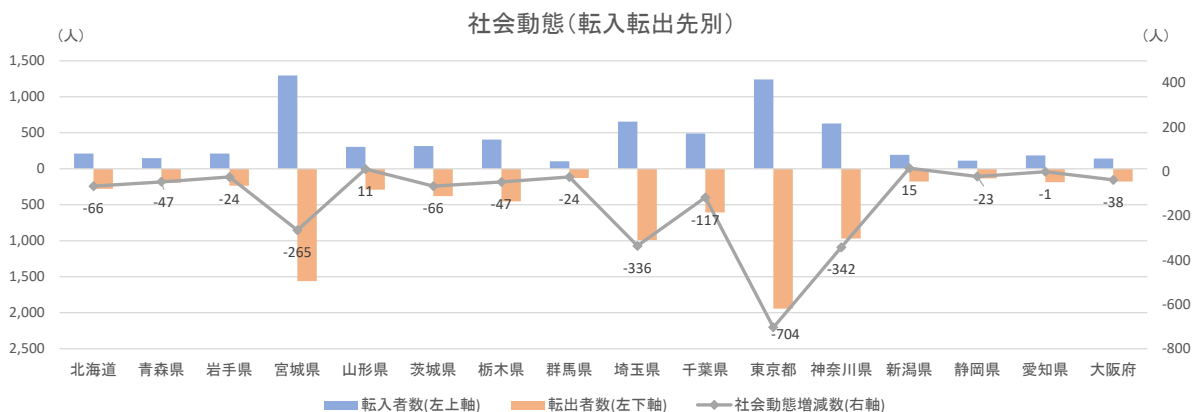
④ 転入転出状況（転入転出先別）

転入先または転出先が100人を超える都道府県で見た場合、東京都への転出が1,944人、転出超過数も704人と最多。また、埼玉県、千葉県、神奈川県をはじめとした首都圏への転出も多い。

近県では宮城県への転出が1,561人、転出超過数も265人となっており、転入超過は山形県の11人、新潟県の15人のみである。

（単位：人）

区分	北海道	青森県	岩手県	宮城県	山形県	茨城県	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県	新潟県	静岡県	愛知県	大阪府
転入者数	212	148	211	1,296	303	316	405	104	655	490	1,240	628	193	112	184	141
転出者数	278	195	235	1,561	292	382	452	128	991	607	1,944	970	178	135	185	179
社会動態増減数	-66	-47	-24	-265	11	-66	-47	-24	-336	-117	-704	-342	15	-23	-1	-38



出典：総務省「住民基本台帳人口移動報告（2020年）」

※転入転出先が100人を超える県を抽出

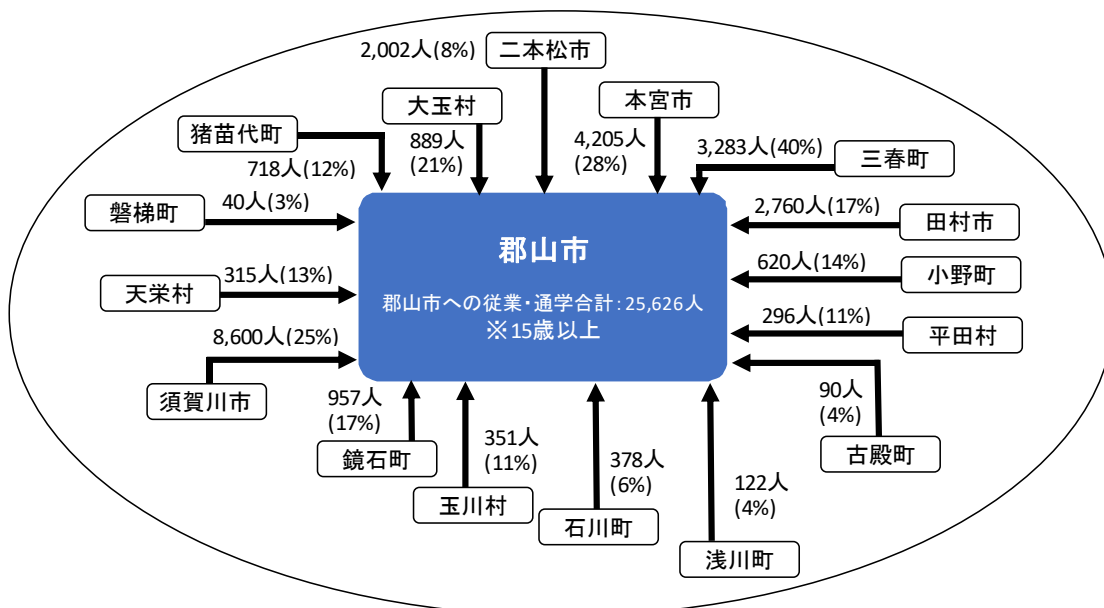
3 郡山市への通勤通学割合

圏域の中心市である郡山市への通勤通学割合を見ると、最も高いのが三春町の0.40であり、以降、本宮市が0.28、須賀川市が0.25となっている。国が示す「連携中枢都市圏構想推進要綱」で規定する、経済的結びつきが強いとされる通勤通学割合0.1以上を超える市町村は11市町村であり、0.1未満は二本松市、磐梯町、石川町、浅川町、古殿町である。

(単位：人)

区分	A 当地に常住する就業者・通学者総数	B うち自宅で従業等		C 郡山市へ従業・通学	郡山市への通勤・通学割合 C/(A-B)
須賀川市	39,694	5,220		8,600	0.25
二本松市	29,509	4,115		2,002	0.08
田村市	19,532	3,414		2,760	0.17
本宮市	16,579	1,636		4,205	0.28
大玉村	5,004	710		889	0.21
鏡石町	6,664	864		957	0.17
天栄村	2,956	526		315	0.13
磐梯町	1,757	341		40	0.03
猪苗代町	7,242	1,365		718	0.12
石川町	8,162	1,321		378	0.06
玉川村	3,689	632		351	0.11
平田村	3,483	721		296	0.11
浅川町	3,425	570		122	0.04
古殿町	2,690	520		90	0.04
三春町	9,432	1,181		3,283	0.40
小野町	5,176	889		620	0.14

出典：総務省「国勢調査（2020年）」



4 産業等の状況

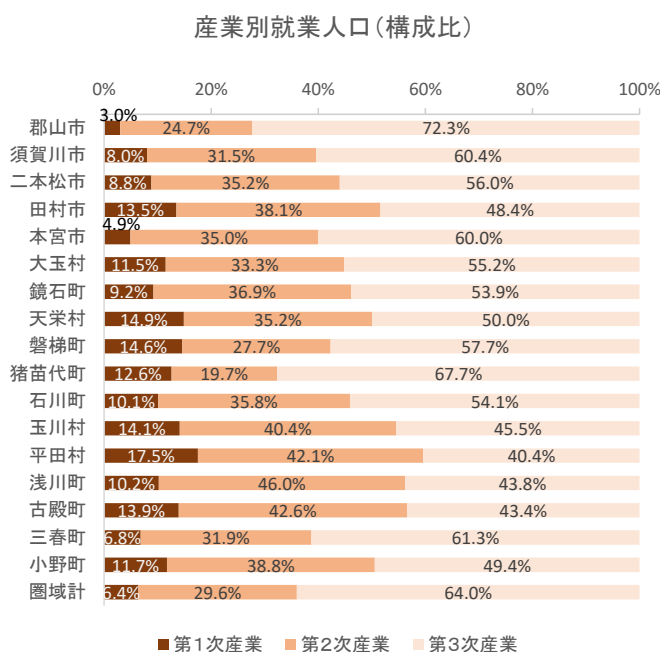
(1) 産業

① 産業別就業人口

圏域の産業別就業人口を見ると、第3次産業への就業者数が188,176人と全体の64.0%を占めて、第2次産業は87,155人(29.6%)、第1次産業は18,696人(6.4%)である。

市町村別では、第1次産業は平田村、天栄村、磐梯町、第2次産業は浅川町、古殿町、平田村、第3次産業は郡山市、猪苗代町が他市町村と比較して高い構成比を示している。

圏域全体としては「経済圏都圏域」として本県の経済活動の中心としての役割を担っており、小売業やサービス業への就業割合が高い状況であるが、それぞれの地域において住民サービス、社会経済活動を将来にわたり持続可能なものとするため、地域密着型の小規模商工業や伝統工芸等における事業承継支援、圏域全体としての基幹産業の1つである農業や農村振興への継続支援等が求められる。



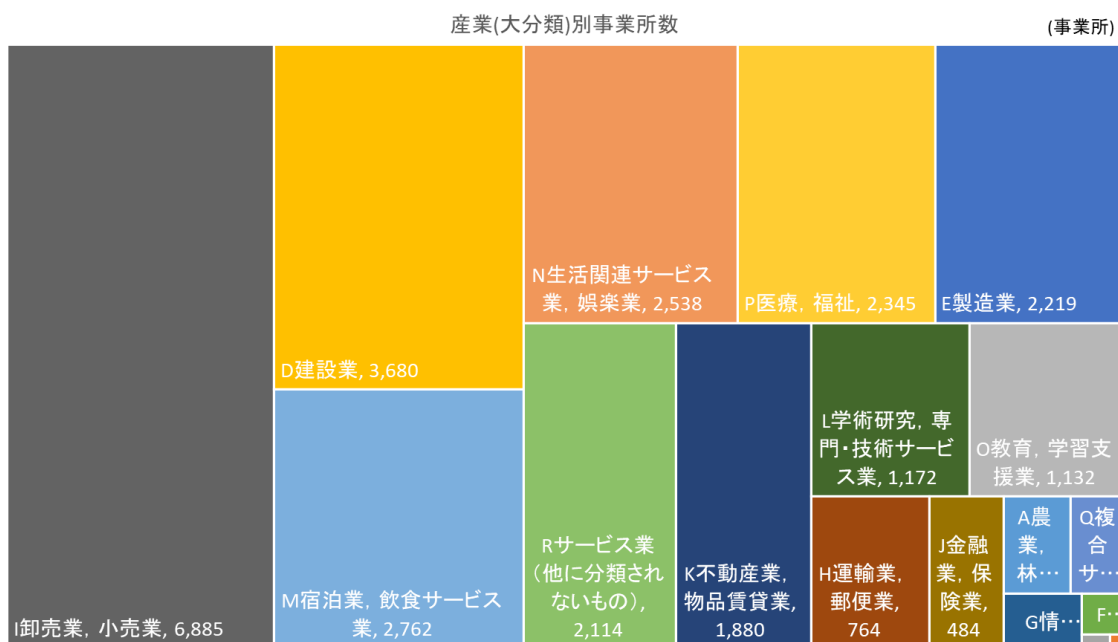
(単位:人)

区分	第1次産業	第2次産業	第3次産業
郡山市	4,312	36,152	105,663
須賀川市	2,782	10,919	20,929
二本松市	2,376	9,457	15,055
田村市	2,437	6,872	8,748
本宮市	722	5,161	8,842
大玉村	528	1,535	2,545
鏡石町	546	2,196	3,204
天栄村	409	966	1,373
磐梯町	232	442	920
猪苗代町	835	1,304	4,486
石川町	706	2,514	3,802
玉川村	471	1,347	1,517
平田村	567	1,362	1,305
浅川町	317	1,434	1,366
古殿町	338	1,034	1,053
三春町	557	2,605	5,008
小野町	561	1,855	2,360
圏域計	18,696	87,155	188,176

出典：総務省「国勢調査」(2020年)

② 産業（大分類）別事業所数

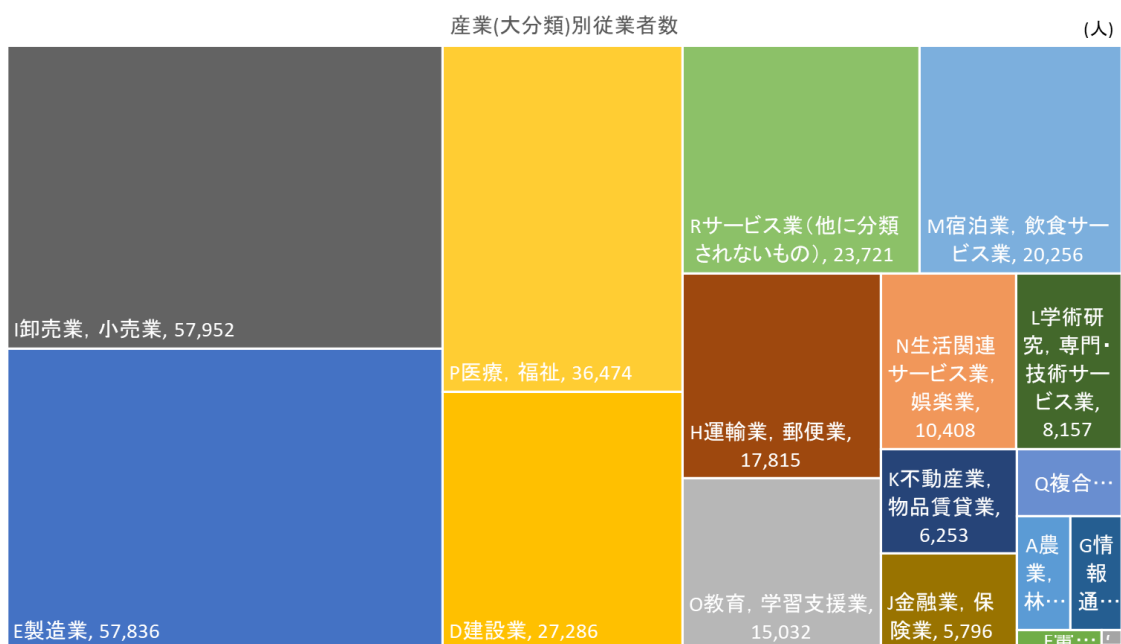
圏域の事業所数を産業（大分類）別で見ると、多いのは「卸売業、小売業(6,885事業所)」、「建設業(3,680事業所)」、「宿泊業、飲食サービス業(2,762事業所)」であり、これら産業で約半数を占めている。また、製造業は2,219事業所となっている。



出典：総務省「2021年 経済センサス-活動調査 事業所に関する集計 産業横断的集計」

③ 産業（大分類）別従業者数

圏域の従業者数を産業（大分類）別に見ると、多いのは「卸売業、小売業(57,952人)」、「製造業(57,836人)」、「医療、福祉(36,474人)」、「建設業(27,286人)」であり、これら産業が地域雇用の主要な受け皿になっている。圏域内において多様で継続的な雇用確保ができるよう、各市町村の強みを生かしながら事業承継、地元産業の育成を図る必要がある。

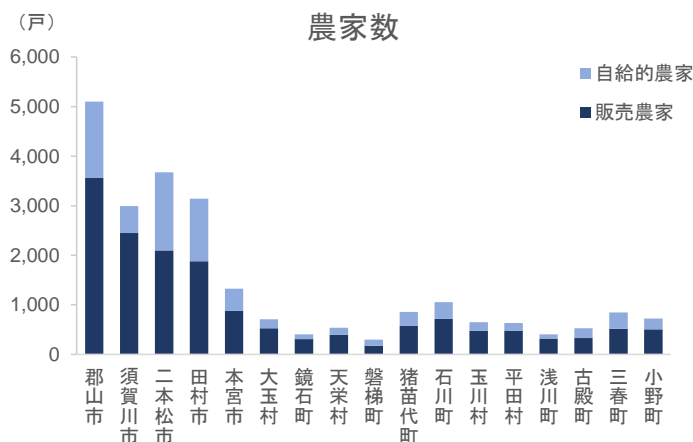


出典：総務省「2021年 経済センサス-活動調査 事業所に関する集計 産業横断的集計」

(2) 農業

① 農家数

圏域の農家数は、郡山市、二本松市、田村市、須賀川市で多い。また、販売農家は郡山市、須賀川市、二本松市、田村市で多く、自給的農家は二本松市、郡山市、田村市が多い。



(単位:戸)

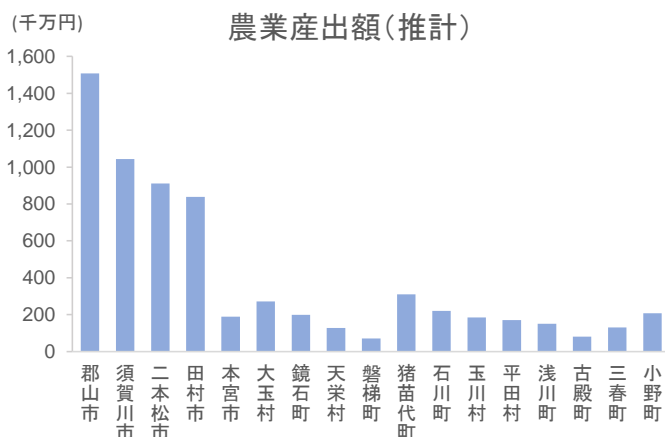
区分	販売農家	自給的農家	総農家数
郡山市	3,566	1,536	5,102
須賀川市	2,452	541	2,993
二本松市	2,097	1,579	3,676
田村市	1,882	1,261	3,143
本宮市	881	445	1,326
大玉村	530	179	709
鏡石町	308	96	404
天栄村	396	141	537
磐梯町	175	123	298
猪苗代町	578	278	856
石川町	721	335	1,056
玉川村	476	174	650
平田村	479	158	637
浅川町	322	83	405
古殿町	334	192	526
三春町	520	327	847
小野町	508	215	723
圏域計	16,225	7,663	23,888

出典：福島県統計課「2020年 農林業センサス」

② 農業産出額（推計）

農業産出額（推計）は、郡山市、須賀川市、二本松市、田村市で高い状況となっている。

広域連携することにより農産物の流通等において対象品目や流通量が増加し、スケールメリットを生かした供給体制の確保が図られるとともに、圏域内の高等学校や研究機関等とも連携し、各地域の特性を生かした6次産業化の推進も期待される。また、原子力発電所事故に伴う風評の払しょくにも各市町村連携により取り組む必要がある。



区分	農業産出額(推計) (千万円)
郡山市	1,508
須賀川市	1,044
二本松市	911
田村市	839
本宮市	189
大玉村	272
鏡石町	199
天栄村	127
磐梯町	71
猪苗代町	310
石川町	220
玉川村	185
平田村	170
浅川町	150
古殿町	80
三春町	131
小野町	208
圏域計	6,614

出典：農林水産省「2021年 市町村別農業産出額（推計）」

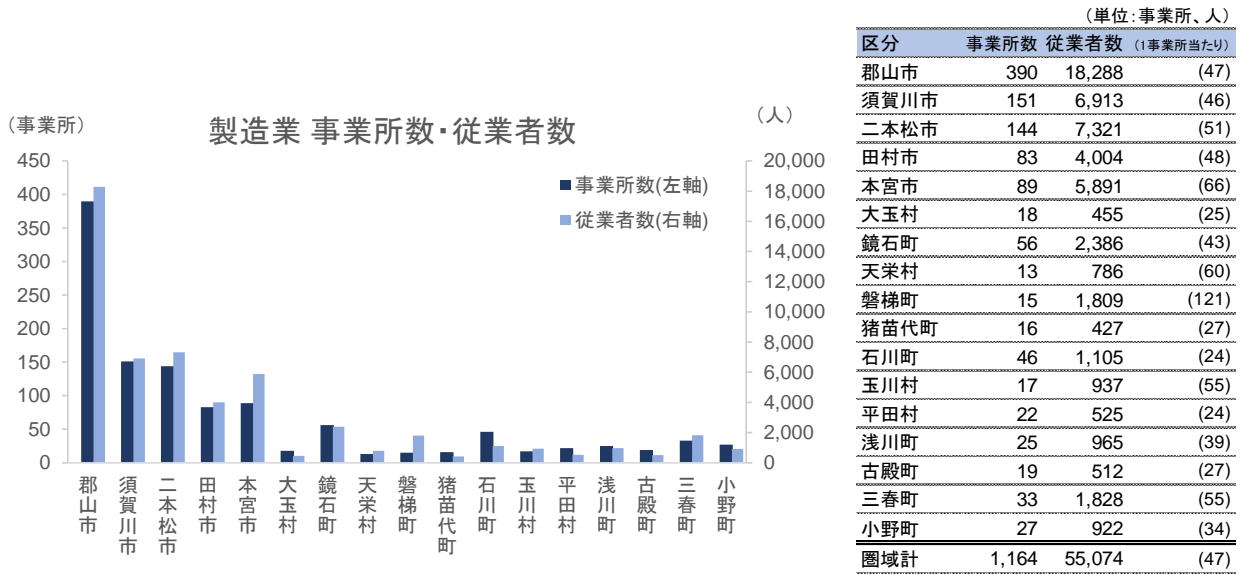
(3) 製造業

製造業については東北自動車道及び磐越自動車道沿線の自治体で特に集積が見られるが、各市町村にそれぞれ工業団地等も造成整備されており、地域雇用を支える基盤としても期待されている。また、圏域内に立地する学術研究機関や高等教育機関等とも連携し、産学官連携による競争力の強化や国際化への対応が求められる。

① 事業所数・従業者数

圏域の製造業における事業所数は、郡山市、二本松市、須賀川市、本宮市、田村市で多い。

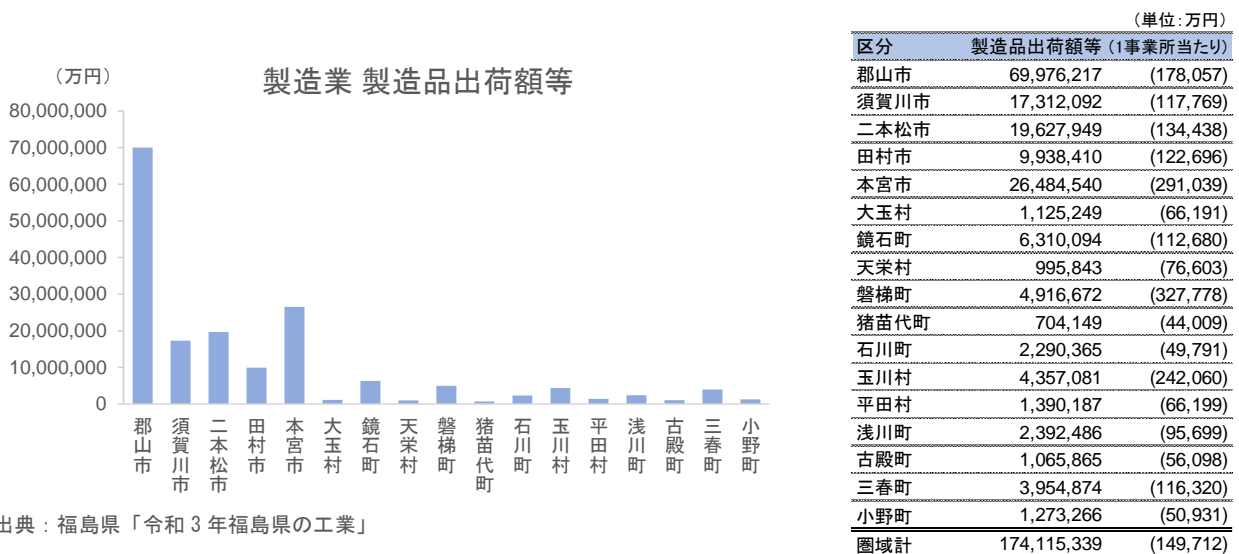
1事業所当たりの従業者数は、磐梯町で高い数値を示しており、比較的規模の大きい事業所が立地していると推察される。



出典：福島県「令和3年福島県の工業」

② 製造品出荷額等

製造品出荷額等は、郡山市、本宮市、二本松市、須賀川市で多い。また、1事業所当たりの製造品出荷額等は、磐梯町、本宮市、玉川村が多い状況となっている。

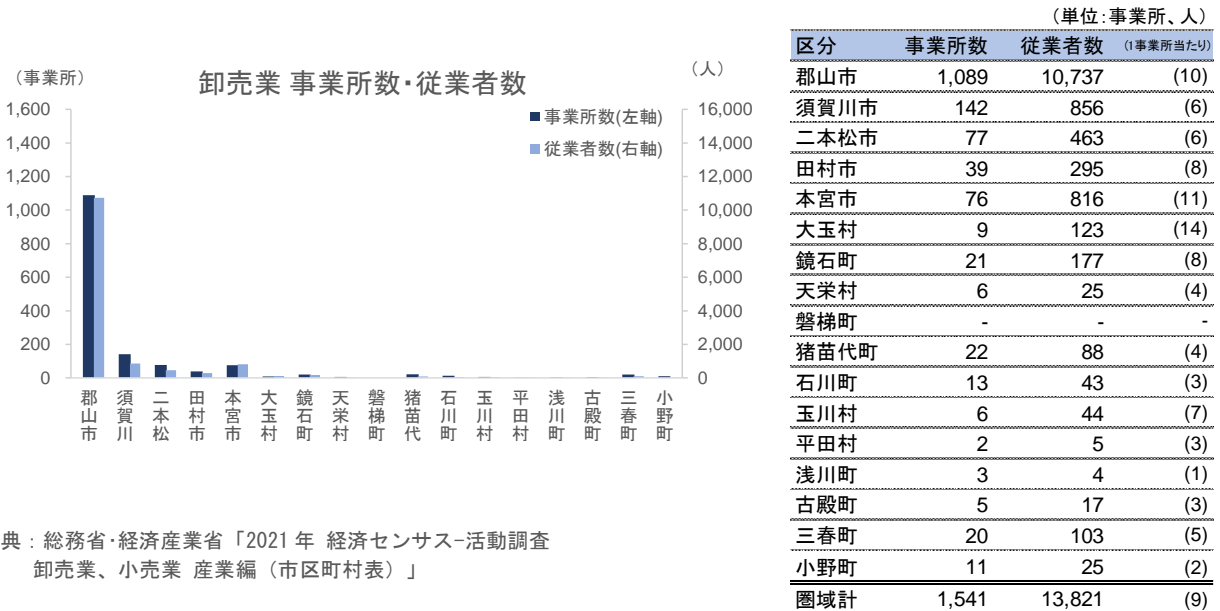


出典：福島県「令和3年福島県の工業」

(4) 卸売業

① 事業所数・従業者数

圏域の卸売業における事業所数、従業者数は、郡山市が多くなっており、圏域全体の事業所数の70.7%、従業者数の77.7%を占めている。一方、1事業所当たりの従業者数は、大玉村、本宮市、郡山市で比較的高い数値を示している。

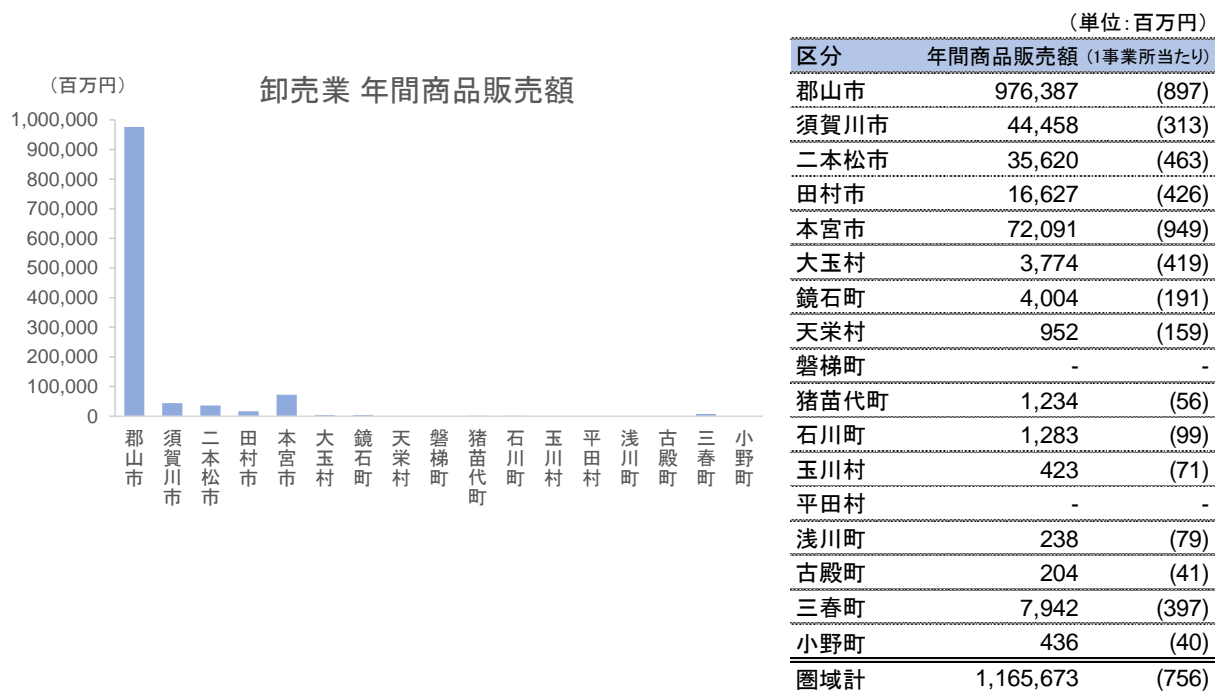


出典：総務省・経済産業省「2021年 経済センサス-活動調査
卸売業、小売業 産業編（市区町村表）」

※「-」は該当数値なし等

② 年間商品販売額

年間商品販売額は、事業所数が多い郡山市が高い数値を示している。また、1事業所当たりの年間商品販売額は、本宮市、郡山市が多い状況となっている。



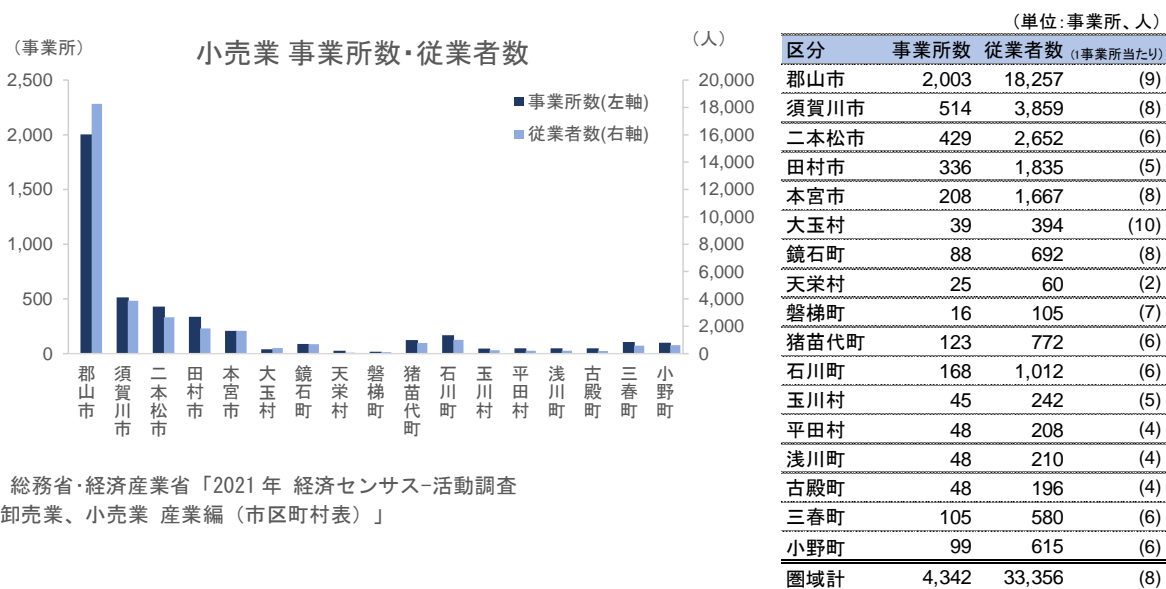
出典：総務省・経済産業省「2021年 経済センサス-活動調査
卸売業、小売業 産業編（市区町村表）」

※「-」は該当数値なし等

(5) 小売業

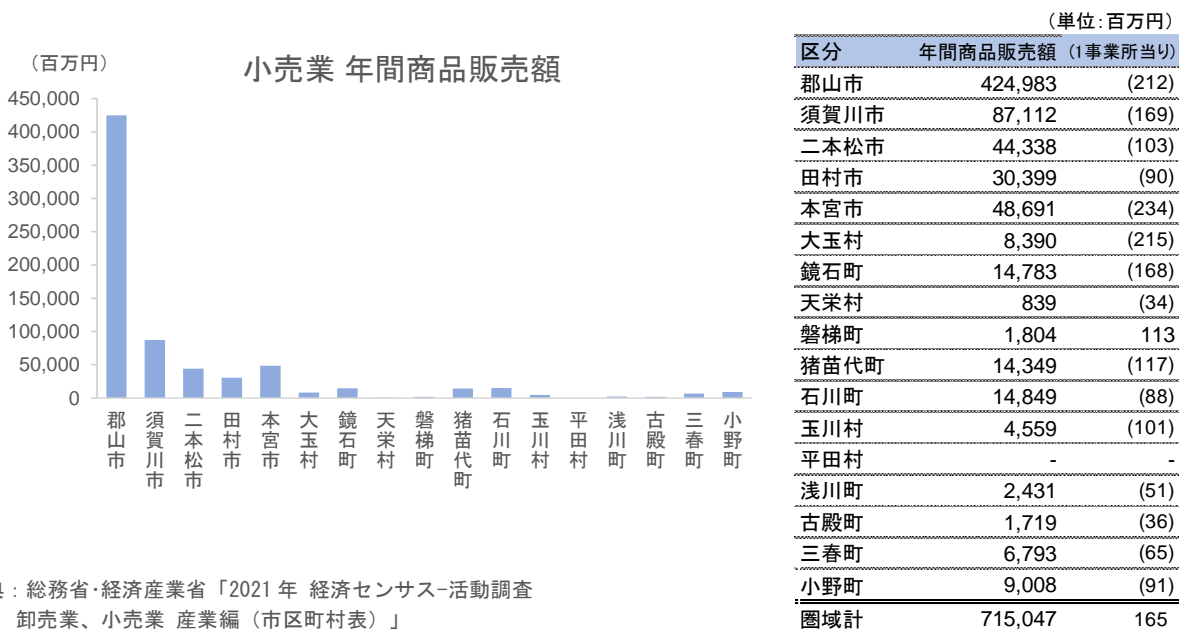
① 事業所数・従業員数

圏域の小売業における事業所数、従業員数は、卸売業同様、郡山市が多くなっており、圏域全体の事業所数の46.1%、従業員数の54.7%を占めている。また、1事業所当たりの従業員数は、10名以下となっており、小規模な事業者が多数を占めている状況にある。



② 年間商品販売額

年間商品販売額は、事業所数が多い郡山市が高い数値を示している。また、1事業所当たりの年間商品販売額は、本宮市、大玉村、郡山市が多い状況となっている。



※「-」は該当数値なし等

(6) 産業項目別県内シェア

これまで現状分析を行った産業分野の各項目について、こおりやま広域圏の県内シェアは次のとおり。

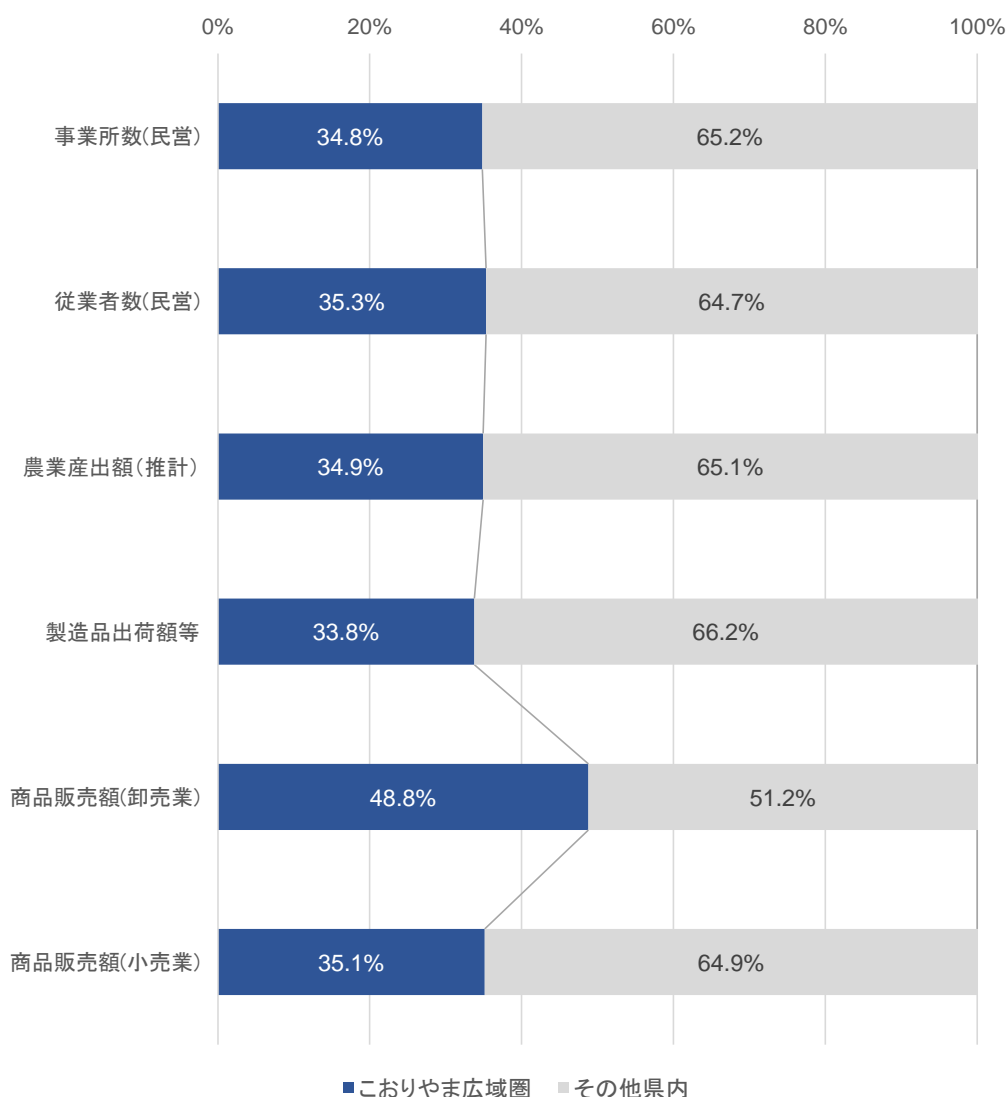
事業所数、従業者は、それぞれ 34.8%、35.3%となっており、圏域の人口同様、県内の約 3 割を占めている。

農業分野の指標である農業産出額（推計）は 34.9%となっており、農業は圏域の基幹産業のひとつであるといえる。

製造業の指標である製造品出荷額等は 33.8%と他の指標と比較して若干低いが、それでも大規模な製造業が集積するいわき市（18.6%）を大きく超えるシェアを占めている。

小売業の指標である商品販売額についても 3 割を超える数値を示しており、特に卸売業は 48.8%と非常に高いシェアを占めるなど、アクセス性の良さを生かしたスムーズな商品流通を担う事業所が集積しているといえる。

こおりやま広域圏 産業項目別県内シェア



出典：総務省・経済産業省「2021年 経済センサス-活動調査」、福島県統計課「2020年 農林業センサス」、農林水産省「2021年 市町村別農業産出額(推計)」

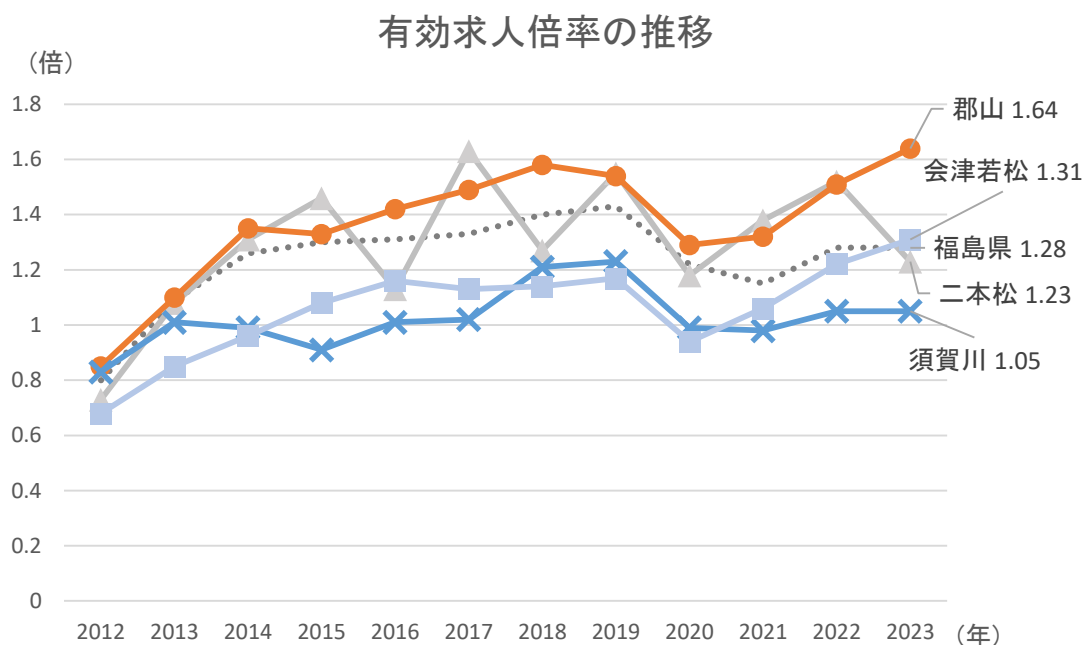
(7) 有効求人倍率の推移

福島県及び圏域内市町村を管轄するハローワーク別に有効求人倍率を見ると、震災後の2012年以降は、復興需要増により上昇している。

2015年頃から有効求人倍率の上昇傾向は緩やかになっている。新型コロナウイルスの影響等により2020年に低下している。

(単位:倍)

区分	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
福島県	0.80	1.09	1.26	1.30	1.31	1.33	1.40	1.43	1.22	1.15	1.28	1.28
二本松	0.73	1.08	1.31	1.46	1.13	1.63	1.27	1.55	1.18	1.38	1.52	1.23
郡山	0.85	1.10	1.35	1.33	1.42	1.49	1.58	1.54	1.29	1.32	1.51	1.64
須賀川	0.83	1.01	0.99	0.91	1.01	1.02	1.21	1.23	0.99	0.98	1.05	1.05
会津若松	0.68	0.85	0.96	1.08	1.16	1.13	1.14	1.17	0.94	1.06	1.22	1.31



出典：福島労働局「公共職業安定所業務取扱月報（各年4月）」

【管轄区域】

二本松 二本松市、本宮市、安達郡（大玉村）
 郡山 郡山市、田村市、田村郡（三春町、小野町）
 須賀川 須賀川市、岩瀬郡（鏡石町、天栄村）、石川郡（石川町、玉川村、平田村、浅川町、古殿町）
 会津若松 会津若松市、大沼郡、耶麻郡のうち磐梯町、猪苗代町、河沼郡

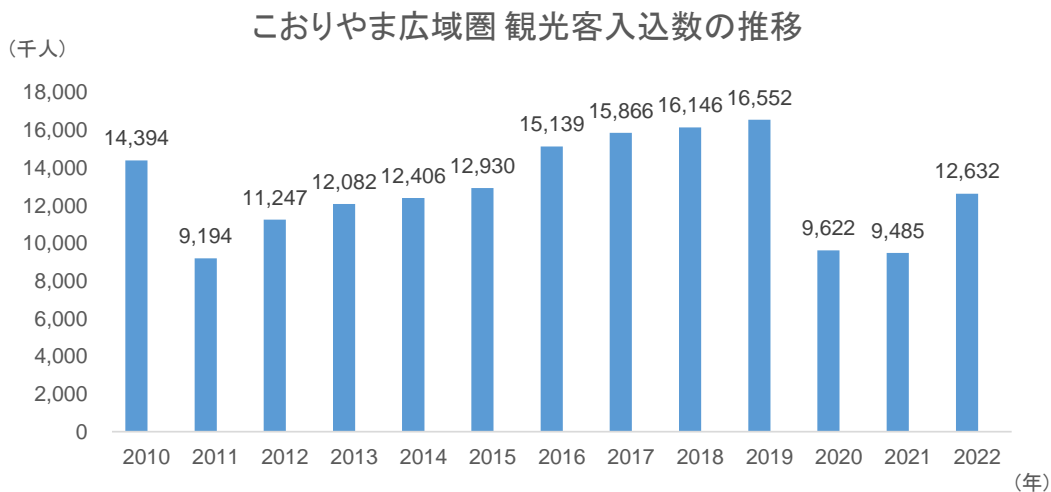
※下線はこおりやま広域圏構成市町村

(8) 観光

インバウンド観光への対応や団体旅行から個人旅行への移行が進展する状況を踏まえ、圏域内市町村の地域資源を生かした官民協働による周遊型観光の取組や、収容力の高いコンベンション施設を核としたアフターコンベンションへの接続など構成市町村それぞれの強みと魅力の積極的なPRが求められる。

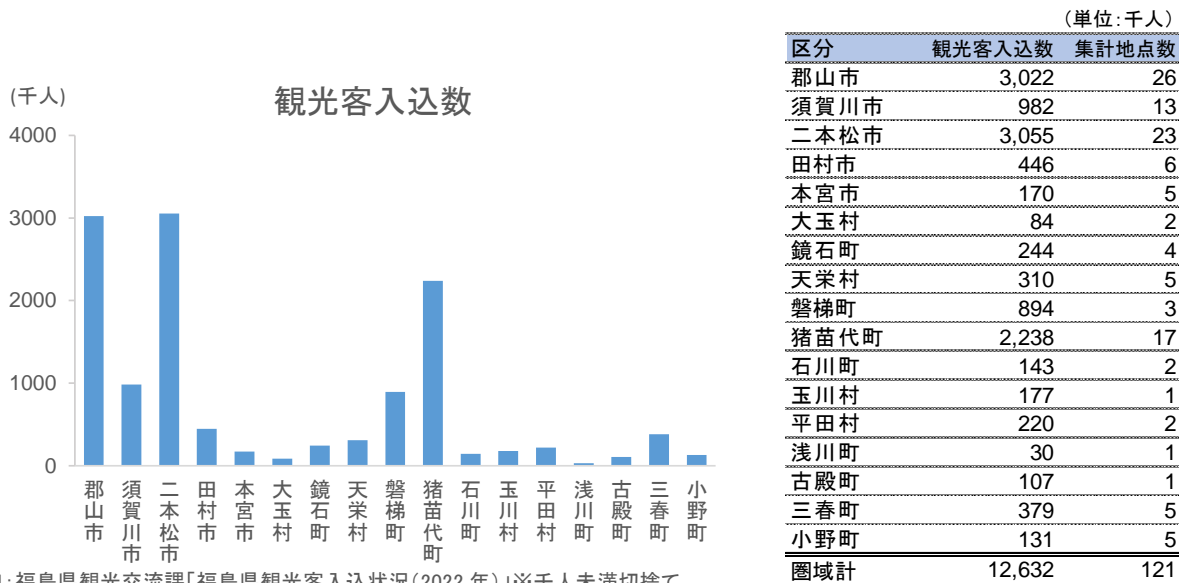
① 観光客入込数

圏域の観光客入込数は、震災の影響等により2011年に減少したが、2016年には震災前の水準である1千4百万人を超えている。新型コロナウイルスの影響等により2020年以降、大きく減少したが、2022年は回復傾向に転じている。



出典：福島県観光交流課「福島県観光客入込状況（各年次）」※千人未満切捨て

市町村別では、調査対象集計地点を多く抱える二本松市、郡山市、猪苗代町において高い数値を示している。

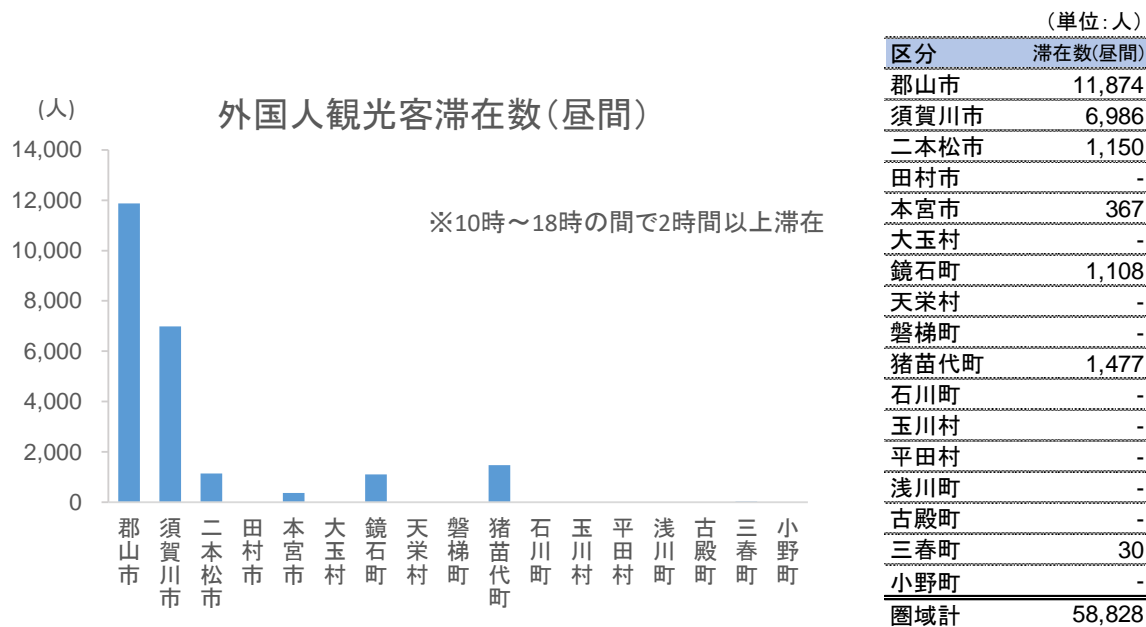


出典：福島県観光交流課「福島県観光客入込状況(2022年)」※千人未満切捨て

② 外国人観光客（インバウンド）滞在状況

外国人観光客（インバウンド）の状況については、市町村別の統計データが不足していることから、地域経済分析システム「RESAS」の外国人観光客滞在数により比較を行う。

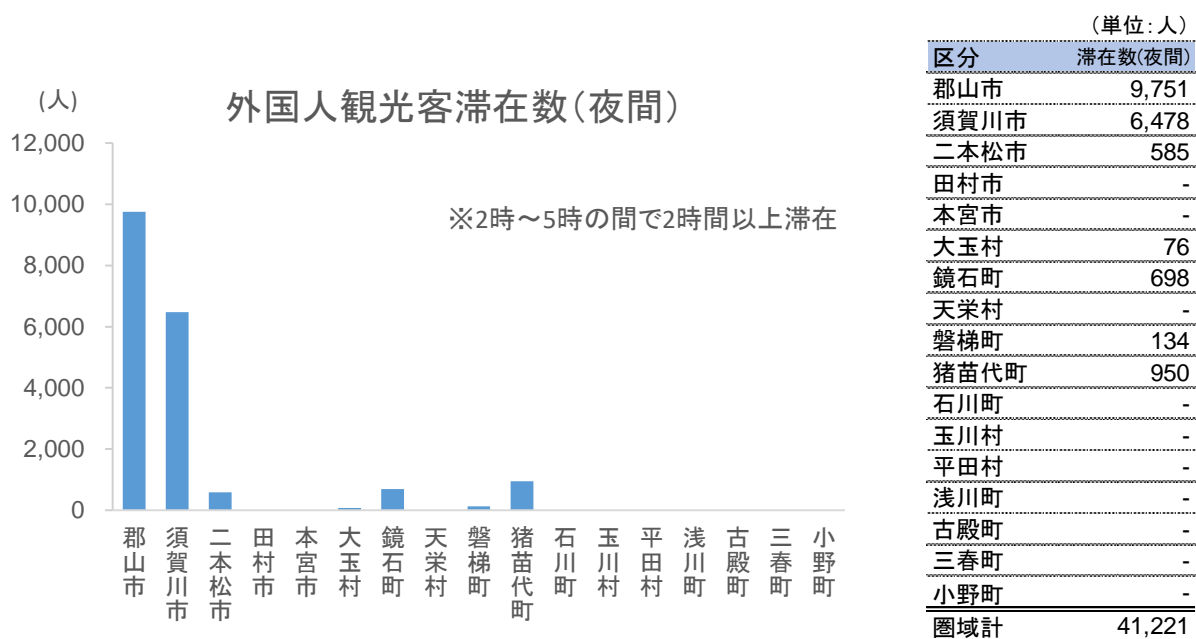
圏域におけるインバウンドの昼間（10時から18時）の滞在状況については、郡山市、須賀川市が多いが、データが公開されているのは一部の市町村にとどまっている。



出典:RESAS「外国人滞在分析(2022年各月)」(1月～12月までを合算)
 ※訪日外国人における携帯電話の運用データを基に拡大推計、「-」は該当数値なし

インバウンドの夜間（2時から5時）の滞在状況についても、郡山市、須賀川市が多いが、こちらもデータが公開されているのは一部の市町村にとどまっている。

夜間の滞在状況であるため、宿泊場所を示していると推察される。



出典:RESAS「外国人滞在分析(2022年各月)」(1月～12月までを合算)
 ※訪日外国人における携帯電話の運用データを基に拡大推計、「-」は該当数値なし

5 都市機能の集積状況

(1) 医療・福祉

県中医療圏の核として、人口に対する病床数も全国平均を上回る郡山市を中心に、各地域におけるかかりつけ医及び救急医療体制が充実していることは本圏域の大きな強みであり、住民の生活圏を踏まえた医療提供のあり方が求められている。

広域的に入所可能な介護老人福祉施設等の整備に当たっては、今後の高齢者人口及び要介護認定者の推移を見極めながら計画的な整備が求められる。

連携中枢都市である郡山市に通勤する近隣市町村の住民や郡山市から近隣市町村に通勤する住民が、安心して子どもを産み育て、働き続けることができるよう、圏域内の保育施設を柔軟に利用できる環境づくりが求められている。

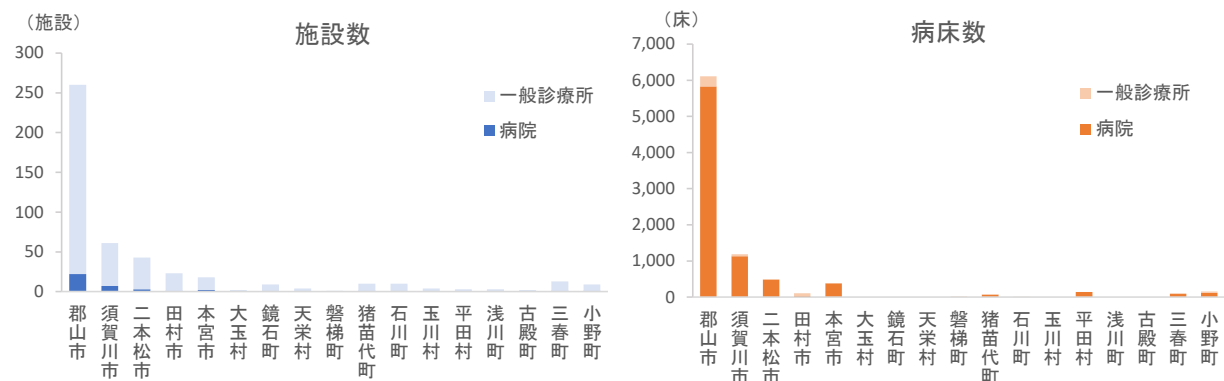
① 医療施設及び医師

(単位：施設、床、店、人)

二次医療圏	構成市町村名	病院		一般診療所		薬局数	医師数
		施設数	病床数	施設数	病床数		
県北	二本松市	3	485	40	12	25	74
	本宮市	2	383	16	3	15	27
	大玉村	0	0	2	0	0	0
県中	郡山市	22	5,829	238	277	143	818
	須賀川市	7	1,134	54	54	32	119
	田村市	1	32	22	76	12	23
	鏡石町	0	0	9	0	5	8
	天栄村	0	0	4	0	2	3
	石川町	0	0	10	8	7	9
	玉川村	0	0	4	0	3	2
	平田村	1	142	2	0	1	7
	浅川町	0	0	3	0	2	1
	古殿町	0	0	2	0	1	0
	三春町	1	86	12	0	5	17
	小野町	1	119	8	36	2	13
	会津・南会津	磐梯町	0	0	1	19	1
猪苗代町		1	65	9	19	5	13

出典：福島県「第七次福島県医療計画」(2018年3月)

福島県内の各保健福祉事務所の業務概要(2018年3月31日現在)



② 救急医療施設及び周産期医療施設

区分	市町村名	医療機関
三次救急	郡山市	太田西ノ内病院（救命救急センター）
二次救急	郡山市	寿泉堂総合病院、星総合病院、太田西ノ内病院、今泉西病院、坪井病院、太田熱海病院、総合南東北病院
	須賀川市	須賀川病院、公立岩瀬病院、池田記念病院
	二本松市	柘記念病院、二本松病院
	本宮市	谷病院
	平田村	ひらた中央病院
二次救急（協力病院）	郡山市	佐藤胃腸科外科病院
	二本松市	柘病院
	田村市	たむら市民病院（旧大方病院）
	三春町	町立三春病院
初期救急	郡山市	郡山医師会休日在宅当番医制、郡山市休日・夜間急病センター
	須賀川市	須賀川地方休日夜間急病診療所
	田村市	田村医師会休日在宅当番医制、田村地方夜間診療所
	二本松市	安達医師会休日在宅当番医制
	本宮市	
	大玉村	
	石川町	石川郡医師会休日在宅当番医制
	玉川村	
	平田村	
	浅川町	
	古殿町	
	三春町	田村医師会休日在宅当番医制
	小野町	
地域周産期母子医療センター	郡山市	太田西ノ内病院
周産期医療協力施設	郡山市	寿泉堂総合病院、星総合病院
	須賀川市	公立岩瀬病院

出典：福島県「第七次福島県医療計画」（2018年3月）

【参考】福島県二次医療圏



出典：福島県「福島県医療地域構想」

③ 社会福祉施設等

(単位：施設、人)

市町村名	保護施設		老人福祉施設		障害者支援施設		児童福祉施設	
	施設数	定員	施設数	定員	施設数	定員	施設数	定員
郡山市	1	80	8	304	11	610	148	5,440
須賀川市	0	0	4	0	1	50	29	2,110
二本松市	0	0	5	30	11	248	16	1,336
田村市	1	40	4	30	2	96	13	976
本宮市	0	0	1	19	8	161	8	732
大玉村	0	0	0	0	1	30	1	150
鏡石町	0	0	1	0	0	0	5	322
天栄村	0	0	1	0	0	0	1	60
磐梯町	0	0	1	120	0	0	0	0
猪苗代町	0	0	1	0	2	60	6	561
石川町	0	0	0	0	2	90	7	416
玉川村	0	0	0	0	0	0	3	144
平田村	0	0	0	0	0	0	2	160
浅川町	0	0	1	15	0	0	1	72
古殿町	0	0	0	0	0	0	1	200
三春町	0	0	1	80	0	0	2	235
小野町	0	0	0	0	0	0	0	0

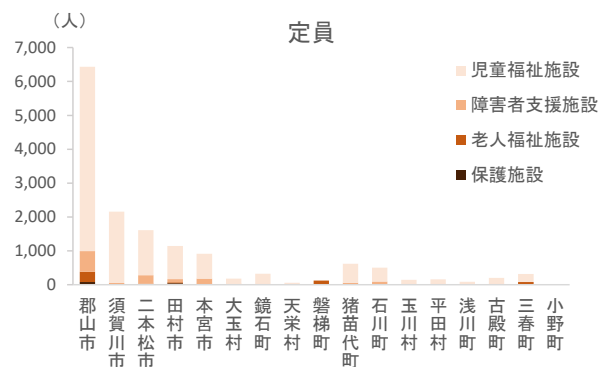
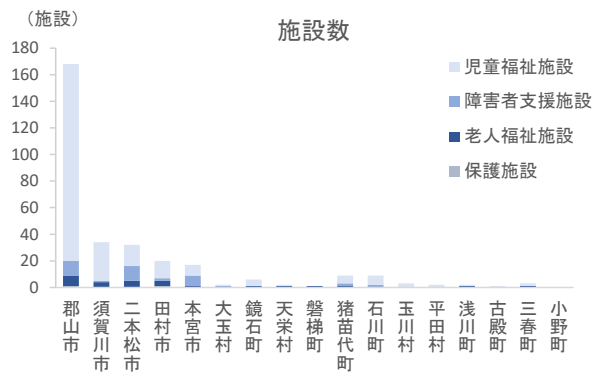
出典：各市町村HP等（2023年3月末現在）

※保護施設：救護施設、更生施設、授産施設、宿所提供施設

老人福祉施設：養護老人ホーム、軽費老人ホーム、ケアハウス、老人福祉センター

障害者支援施設：障害者支援施設、地域活動支援センター、福祉ホーム

児童福祉施設：母子生活支援施設、保育所、児童養護施設、児童家庭支援センター 等

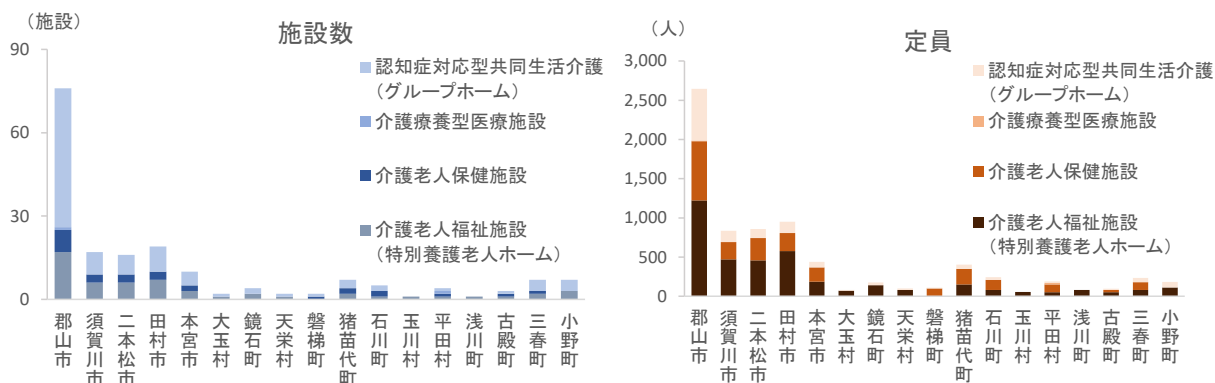


ア 介護保険施設等

(単位：施設、人)

市町村名	介護老人福祉施設 (特別養護老人ホーム)		介護老人保健施設		介護療養型医療施設		認知症対応型共同生活介護 (グループホーム)	
	施設数	定員	施設数	定員	施設数	定員	施設数	定員
郡山市	17	1,224	8	754	1	10	50	657
須賀川市	6	470	3	220	0	0	8	144
二本松市	6	459	3	282	0	0	7	117
田村市	7	577	3	229	0	0	9	144
本宮市	3	185	2	183	0	0	5	72
大玉村	1	70	0	0	0	0	1	9
鏡石町	2	140	0	0	0	0	2	36
天栄村	1	80	0	0	0	0	1	18
磐梯町	0	0	1	100	0	0	1	9
猪苗代町	2	150	2	200	0	0	3	54
石川町	1	80	2	129	0	0	2	36
玉川村	1	56	0	0	0	0	0	0
平田村	1	50	1	100	1	20	1	18
浅川町	1	80	0	0	0	0	0	0
古殿町	1	50	1	29	0	0	1	18
三春町	2	79	1	100	0	0	4	54
小野町	3	112	0	0	0	0	4	71

出典：各市町村HP等（2023年3月末現在）

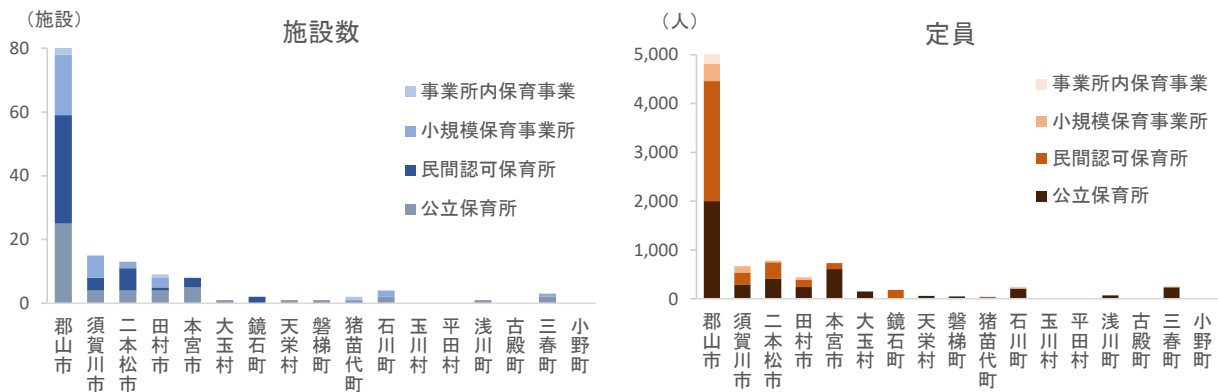


イ 保育所・幼稚園

(単位：施設、人)

市町村名	保育施設							
	公立保育所		民間認可保育所		小規模保育事業		事業所内保育事業	
	施設数	定員	施設数	定員	施設数	定員	施設数	定員
郡山市	25	2,000	34	2,458	19	358	3	200
須賀川市	4	296	4	242	7	128	0	0
二本松市	4	420	7	331	2	31	0	0
田村市	4	240	1	150	3	47	1	19
本宮市	5	609	3	123	0	0	0	0
大玉村	1	150	0	0	0	0	0	0
鏡石町	0	0	2	182	0	0	0	0
天栄村	1	60	0	0	0	0	0	0
磐梯町	1	50	0	0	0	0	0	0
猪苗代町	1	35	0	0	0	0	1	24
石川町	2	210	0	0	2	26	0	0
玉川村	0	0	0	0	0	0	0	0
平田村	0	0	0	0	0	0	0	0
浅川町	1	72	0	0	0	0	0	0
古殿町	0	0	0	0	0	0	0	0
三春町	2	235	0	0	1	19	0	0
小野町	0	0	0	0	0	0	0	0

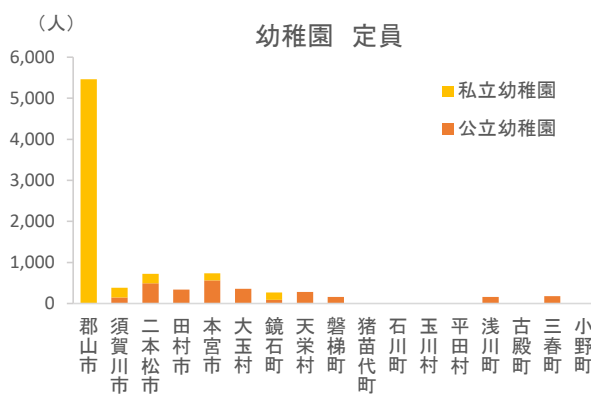
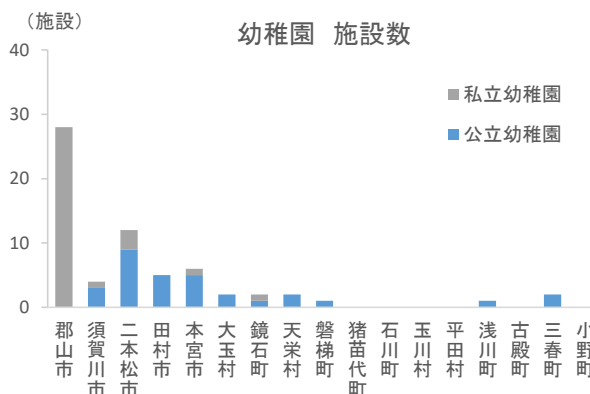
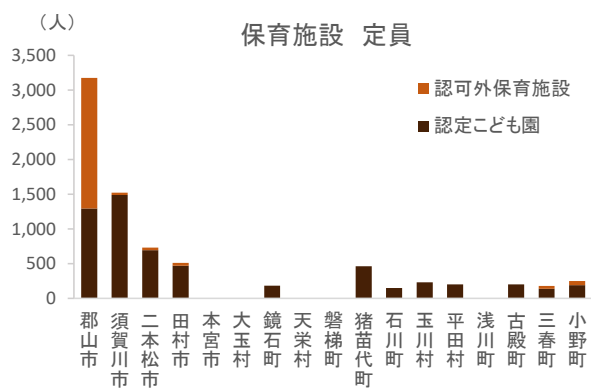
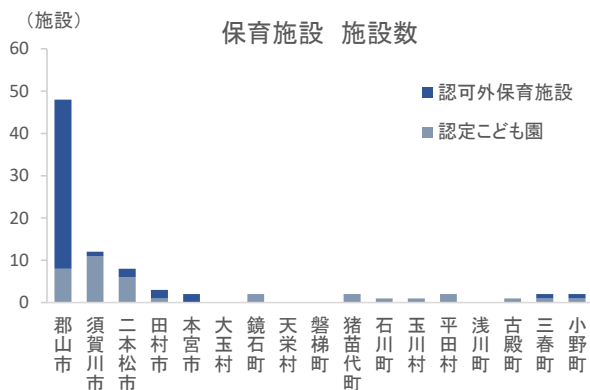
出典：各市町村HP等（2023年4月現在）



(単位：施設、人)

市町村名	保育施設		認定こども園		幼稚園			
	認可外保育施設				公立幼稚園		私立幼稚園	
	施設数	定員	施設数	定員	施設数	定員	施設数	定員
郡山市	40	1,881	8	1,293	0	0	28	5,465
須賀川市	1	37	11	1,487	3	145	1	240
二本松市	2	35	6	695	9	490	3	235
田村市	2	40	1	470	5	340	0	0
本宮市	2	2	0	0	5	560	1	175
大玉村	0	0	0	0	2	360	0	0
鏡石町	0	0	2	182	1	90	1	180
天栄村	0	0	0	0	2	280	0	0
磐梯町	0	0	0	0	1	160	0	0
猪苗代町	0	0	2	462	0	0	0	0
石川町	0	0	1	150	0	0	0	0
玉川村	0	0	1	230	0	0	0	0
平田村	0	0	2	200	0	0	0	0
浅川町	0	0	0	0	1	160	0	0
古殿町	0	0	1	200	0	0	0	0
三春町	1	40	1	137	2	180	0	0
小野町	1	63	1	188	0	0	0	0

出典：各市町村HP等（2023年4月現在）



(2) 教育・文化・スポーツ

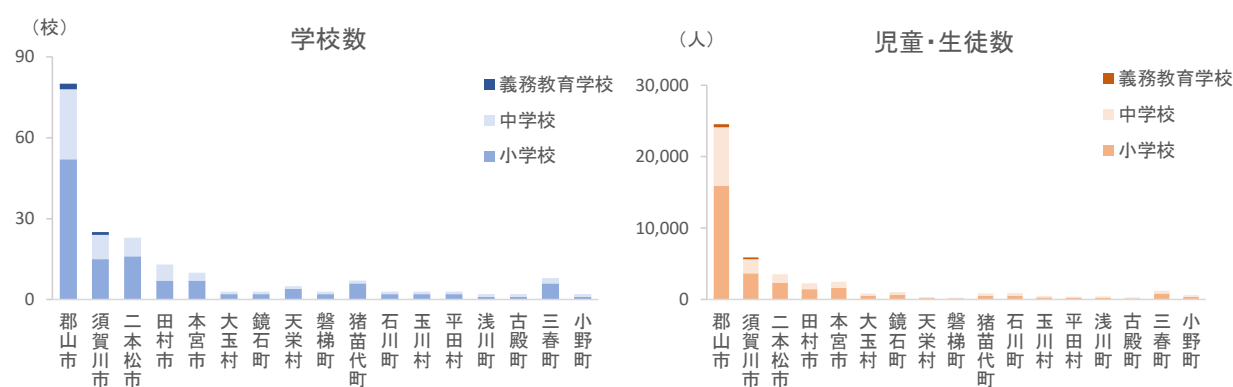
それぞれの地域における充実した初等・中等教育の質の確保と、様々な分野の大学・専修学校等の立地を生かし、地域で学びたいことを学べる環境整備を図るとともに、圏域内に立地する多くの国や県等の研究学術機関や企業・団体等との官民連携による取組や地域の経済活動を支える人材育成が求められている。

① 小中学校等

(単位：校、人)

市町村名	小学校		中学校		義務教育学校	
	学校数	児童数	学校数	生徒数	学校数	児童生徒数
郡山市	52	15,939	26	8,180	2	408
須賀川市	15	3,658	9	1,966	1	260
二本松市	16	2,332	7	1,199	0	0
田村市	7	1,439	6	828	0	0
本宮市	7	1,636	3	848	0	0
大玉村	2	558	1	282	0	0
鏡石町	2	711	1	341	0	0
天栄村	4	208	1	111	0	0
磐梯町	2	172	1	81	0	0
猪苗代町	6	567	1	300	0	0
石川町	2	540	1	366	0	0
玉川村	2	298	1	171	0	0
平田村	2	261	1	155	0	0
浅川町	1	270	1	168	0	0
古殿町	1	167	1	136	0	0
三春町	6	827	2	414	0	0
小野町	1	389	1	231	0	0

出典：各市町村 HP 等（2023年5月1日現在）



② 高等学校・特別支援学校

市町村名	名称	主な学科等
郡山市	安積高等学校	普通科
	安積黎明高等学校	普通科
	郡山東高等学校	普通科
	郡山商業高等学校	流通経済科、会計科、情報処理科
	郡山北工業高等学校	機械科、電気科、電子科、情報技術科、建築科、化学工学科
	郡山高等学校	普通科、英語科
	あさか開成高等学校	国際科学科
	湖南高等学校	普通科
	郡山萌世高等学校	定時制単位制普通科、通信制単位制普通科
	日本大学東北高等学校	普通科
	尚志高等学校	普通科、情報総合科
	帝京安積高等学校	普通科、ビジネス総合科
	郡山女子大学附属高等学校	普通科、音楽科、美術科、食物科
	聴覚支援学校	普通科、情報工業科、生活技術科
	郡山支援学校	普通科
	あぶくま支援学校	普通科
須賀川市	須賀川創英館高等学校	普通科
	須賀川桐陽高等学校	普通科、数理科学科
	清陵情報高等学校	情報電子科、電子機械科、情報処理科、情報会計科
	須賀川支援学校	普通科
二本松市	安達高等学校	普通科
	二本松実業高等学校	機械システム科、情報システム科、都市システム科、生活文化課
	二本松実業高等学校安達東校舎（旧安達東高等学校）	総合学科
田村市	船引高等学校	普通科
	たむら支援学校	普通科
本宮市	本宮高等学校	普通科、情報会計科
鏡石町	岩瀬農業高等学校	ヒューマンサービス科、生物生産科、園芸科学科、環境工学科、食品科学科、アグリビジネス科
猪苗代町	猪苗代高等学校	普通科
	猪苗代支援学校	普通科
石川町	石川高等学校	普通科
	学校法人石川高等学校	普通科
	石川支援学校	普通科
三春町	田村高等学校	普通科、体育科（スポーツ科）
小野町	小野高等学校	総合学科

出典：福島県教育庁高校教育課、各高等学校HP等（2023年4月現在）

③ 大学・専修学校等

市町村名	名称	主な学部・学科等
郡山市	日本大学工学部	土木工学科、建築学科、機械工学科、電気電子工学科、生命応用科学科、情報工学科、博士前後期課程
	郡山女子大学	家政学部生活科学科、家政学部食物栄養学科、人間生活学研究科（大学院）
	郡山女子大学短期大学部	健康栄養科、幼児教育学科、地域創成学科、専攻科文化学専攻
	奥羽大学	歯学部、薬学部、歯学研究科（大学院）
	福島医療専門学校	柔整科、鍼灸科、歯科衛生士科
	日本調理技術専門学校	調理師本科、製菓衛生師科
	東北歯科専門学校	歯科衛生士科、歯科技工士科
	ケイセンビジネス公務員カレッジ	公務員上級学科、行政事務学科、行政マネジメント学科、総合ビジネス学科
	国際医療看護福祉大学校	看護学科、言語聴覚士科、救命救急士科、臨床工学技師科、介護福祉学科、看護学科（通信課程）、社会福祉科（通信課程）
	今泉女子専門学校	服飾科、プロフェッショナル科、服飾家政科、研究科
	iキャリア医療福祉専門学校	介護福祉学科、医療事務福祉学科、情報ビジネス学科
	郡山健康科学専門学校	こども未来学科、介護福祉学科、メディカルスポーツ柔道整復学科、作業療法学科、理学療法学科
	郡山ヘアメイクカレッジ	美容科、美容科（通信課程）
	太田看護専門学校	看護学科
	国際ビジネス公務員大学校	公務員科、公務員短期受験科、医療ビジネス科、医療事務科、オフィスビジネス科、会計ビジネス科、ホテルビジネス科、観光科、スポーツビジネス科、こども保育科、国際ホテル・ツーリズム科、国際ビジネス科
	国際ビューティファッション・製菓大学校	美容学科、トータルビューティ科、ブライダルコーディネート学科、ファッション学科、パティシエ学科
	郡山看護専門学校	看護学科、准看護学科
	ポラリス保健看護学院	保健看護学科
	国際アート&デザイン大学校	グラフィックデザイン科、CGマスター科、CGアニメーション科、イラストレーション科、コミックマスター科、コミックイラスト科、マンガクリエイト科、音響・ミュージック科、アニメ声優科、ペット総合科
	国際情報工科自動車大学校	1級自動車工学科、自動車車体工学科、自動車工学科、建築CAD設計科、建築士専攻科、高度情報工学科、情報システム工学科、電気エネルギー工学科、ゲームソフト開発科、ゲームグラフィック科、放射線工学科、ドローンスペシャリスト科
郡山学院高等専修学校	情報事務科	
福島県立テクノアカデミー郡山	郡山職業能力開発短期大学：精密機械工学科、組込技術工学科 郡山職業能力開発校：建築科	
須賀川市	公立岩瀬病院附属高等看護学院	看護学科
	須賀川専門学校	編物科、洋裁科、和裁科、家政、ファッション専攻科
三春町	福島県理工専門学校	高等科、専門科

出典：各大学等HP等（2023年4月現在）

④ 研究機関・産業支援機関

市町村名	主な研究機関等
郡山市	国立研究開発法人 産業技術総合研究所福島再生可能エネルギー研究所、独立行政法人 日本貿易振興機構福島貿易情報センター、独立行政法人 国際協力機構 JICA 郡山、ふくしま医療機器開発支援センター、福島県農業総合センター、福島県林業研究センター、福島県ハイテクプラザ、公益財団法人 福島県産業振興センター エネルギー・エージェンシーふくしま、公益財団法人 郡山地域テクノポリス推進機構、郡山テクノポリスものづくりインキュベーションセンター、郡山市園芸振興センター
須賀川市	福島県ものづくり支援センター
二本松市	独立行政法人国際協力機構二本松青年海外協力隊訓練所、福島県男女共生センター
大玉村	福島県野生生物共生センター
猪苗代町	福島県内水面水産試験場、福島県猪苗代水環境センター、福島県農業総合センター畜産研究所沼尻分場
三春町	国立研究開発法人 日本原子力開発機構福島研究開発部門福島県環境創造センター研究棟、国立研究開発法人 国立環境研究所福島支部

出典：各機関HP等（2023年7月現在）

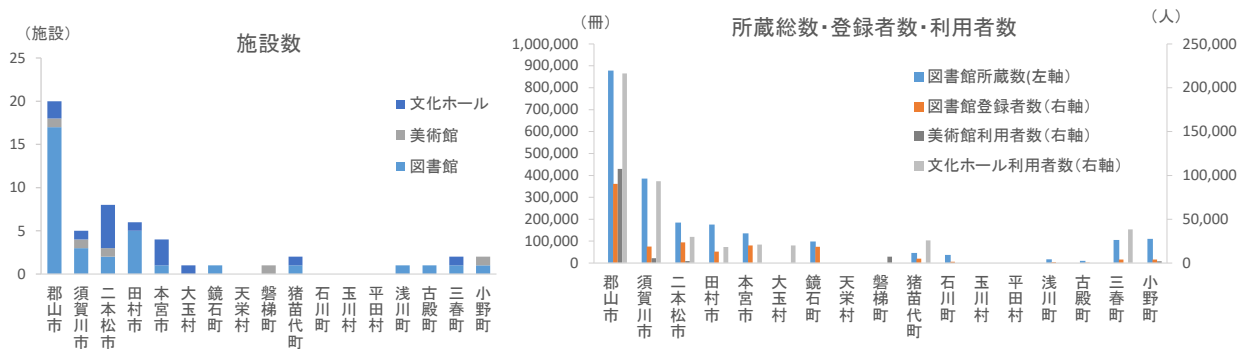
⑤ 文化施設

(単位：施設、冊、人)

市町村名	図書館			美術館・博物館		文化ホール	
	施設数	所蔵総数	登録者	施設数	利用者数	施設数	利用者数
郡山市	17	878,057	90,353	1	107,430	2	216,425
須賀川市	3	385,638	18,741	1	5,633	1	93,459
二本松市	2	184,371	23,499	1	2,183	5	29,999
田村市	5	176,085	13,089	0	0	1	18,437
本宮市	1	135,876	20,182	0	0	3	21,005
大玉村	0	0	0	0	0	1	20,093
鏡石町	1	98,097	18,564	0	0	0	0
天栄村	0	0	0	0	0	0	0
磐梯町	0	0	0	1	7,340	0	0
猪苗代町	1	45,761	5,131	0	0	1	25,752
石川町	0	37,028	1,498	0	0	0	0
玉川村	0	0	0	0	0	0	0
平田村	0	0	0	0	0	0	0
浅川町	1	16,791	1,140	0	0	0	0
古殿町	1	10,284	467	0	0	0	0
三春町	1	105,459	3,905	0	0	1	38,407
小野町	1	110,708	4,025	1	1,950	0	0

出典：各市町村統計情報等（2023年3月末現在）

※各市町村の条例に基づき設置される文化施設等



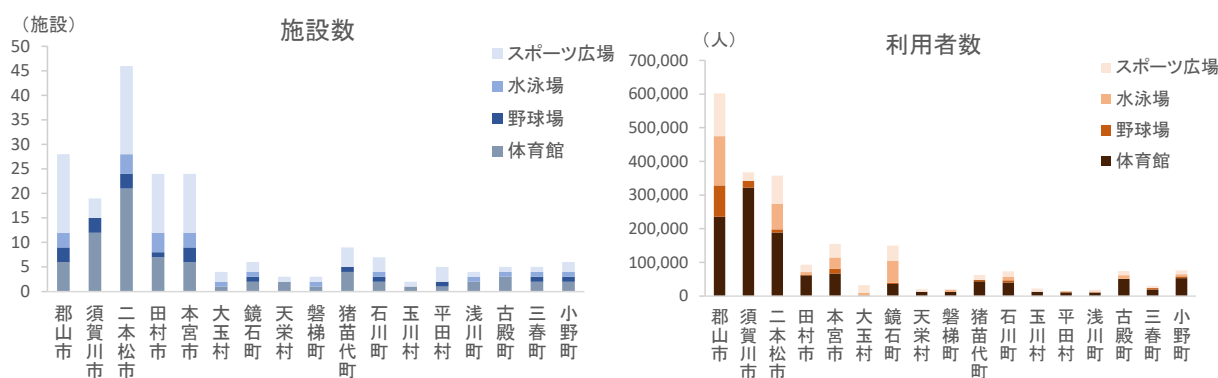
⑥ スポーツ施設

(単位：施設、人)

市町村名	体育館		野球場		水泳場		スポーツ広場	
	施設数	利用者数	施設数	利用者数	施設数	利用者数	施設数	利用者数
郡山市	6	235,548	3	92,917	3	146,268	16	127,353
須賀川市	12	321,741	3	20,433	0	0	4	25,627
二本松市	21	188,559	3	9,330	4	75,553	18	83,719
田村市	7	61,828	1	188	4	9,212	12	21,617
本宮市	6	66,693	3	14,678	3	33,220	12	40,118
大玉村	1	756	0	0	1	8,691	2	22,604
鏡石町	2	35,862	1	3,469	1	65,301	2	44,836
天栄村	2	12,796	0	0	0	0	1	7,088
磐梯町	1	11,566	0	0	1	5,951	1	2,640
猪苗代町	4	43,556	1	4,323	0	0	4	14,307
石川町	2	40,214	1	6,295	1	10,516	3	16,024
玉川村	1	12,499	0	0	0	0	1	9,517
平田村	1	10,604	1	2,852	0	0	3	1,146
浅川町	2	10,505	0	0	1	3,085	1	5,136
古殿町	3	51,062	0	0	1	10,812	1	11,880
三春町	2	19,058	1	4,504	1	512	1	5,610
小野町	2	53,016	1	5,296	1	6,284	2	11,218

出典：各市町村統計情報等（2023年3月末現在）

※各市町村の条例に基づき設置される体育施設等



【参考】**<公認プール>**

名称	種別	コース
郡山カルチャーパーク[郡山市]	飛込	一般/屋外
	25m	7レーン/屋外
	50m	8レーン/屋外
郡山ユラックス熱海温水プール[郡山市]	25m	7レーン/屋内
郡山スウィンスイミングスクール[郡山市]	25m	6レーン/屋内
日本大学工学部水泳プール[郡山市]	50m	6レーン/屋内
郡山しんきん開成山プール（開成山屋内水泳場）[郡山市]	50m	10レーン/屋内
	25m	8レーン/屋内

出典：（公財）日本水泳連盟HP

<公認陸上競技場・競争路>

名称	種別	距離
田村市陸上競技場[田村市]	第3種	400m
円谷幸吉メモリアル公認[須賀川市]	ハーフマラソンコース 往復	21.0975km

出典：（公財）日本陸上競技連盟HP

(3) 商業施設（大規模小売店舗）

福島県の経済県都として、農業、商業、工業の各分野の産業集積を背景に、住民の生活サービスや企業の物流・生産拠点をそれぞれの強みを生かしながら支え合う体制構築が求められている。また、福島県においては、特定小売商業施設（店舗面積 8,000 ㎡以上）の立地誘導について、「単独の市町村」から「複数の市町村で構成する圏域単位」へ要件が緩和されており、近隣市町村との連携による地域商業の振興が求められている。

（上段：店舗面積 1,000 ㎡以上 10,000 ㎡未満、下段：10,000 ㎡以上）

市町村名	店舗名
郡山市	三丹ビル・SIビル、ヨークベニマル希望ヶ丘店、菊ービル、郡山中町ビル、やまのいカルチャーセンター、トステムビバ大槻店、仙台ターミナルビル郡山店、トライアルマート喜久田店、高橋ビル、ゼビオ郡山本店、トステムビバ桑野店、カワチ薬品城清水店、JR郡山市民市場、台新ショッピングセンター、ディスカウントストアトライアル郡山安積バイパス店、ブックオフ郡山安積店、カインズホーム大槻店、G・O・1郡山並木店、カワチ薬品安積店、ゲオ郡山城清水店、コジマNEW郡山店、カワチ薬品富田店、万SAI堂郡山店、G.L.O郡山店、リオン・ドール郡山東店、東京インテリア家具郡山店、ダイユーエイト三春街道店、ヨークベニマル郡山荒井店、岩瀬書店富久山店、ヨークベニマル郡山横塚店、カワチ薬品大槻店、建デポ郡山桑野店、みどり書房桑野店、ヨークベニマルコスモス通り店、ファッションセンターしまむら富田店、ダイユーエイト安積店、ヨークタウン八山田、MOLTI、ヨークベニマル新小原田店、ヨークタウン大槻、ケイヨーデーツー郡山安積店、小原田ファッションモール、郡山駅東ショッピングセンター、カワチ薬品富久山店、サンキ郡山店、ヤマダ電機テックランド郡山北店、ヨークタウン片平、ニトリ郡山店、ヨークタウン郡山堤下、ヨークベニマル日和田店、若葉ファッションモール、ヤマダ電機テックランド郡山南店、ファッションセンターしまむらコスモス通り店、ダイユーエイト郡山インター店、ヨークベニマル方八町店、ザ・ビッグ郡山喜久田店、ダイユーエイト郡山横塚店、ヨークタウン金屋、ヨークタウン島店、ヨークタウン安積、JA農産物直売所愛情館、スーパーセンタートライアル郡山八山田店、ニトリ郡山八山田店、エイトプロ郡山安積店、ヨークタウン桑野、フレスポ郡山
	ATi郡山、イトーヨーカドー郡山店、オリエントパーク日和田、イオンタウン郡山ショッピングセンター、カインズホーム郡山富田店、中町再開発ビル、ザ・モール郡山
須賀川市	ヨークベニマル須賀川西店、カワチ薬品須賀川店、リオン・ドール須賀川南店、ダイユーエイト須賀川西店、いちい須賀川東店、リオン・ドール須賀川東店、カワチ薬品須賀川東店、協同組合ながぬまショッピングパーク、ケーズデンキ須賀川パワフル館、フレスポ須賀川、サンデー須賀川店、ドン・キホーテ須賀川店 イオンタウン須賀川、メガステージ須賀川
二本松市	ベイシア安達店、コメリパワー安達店、コープmartあだたら、アメ商百貨二本松店、ヨークタウン二本松（ヨークベニマル二本松インター店）、ショッピングタウン二本松（GEO二本松店）、ハシドラック安達店、ファッションセンターしまむら二本松店、若宮ショッピングセンター（ツルハドラッグ二本松店）、メガステージ二本松（ヨークベニマルメガステージ二本松店、ダイユーエイト二本松店、薬王堂二本松メガステージ店） —
田村市	シミズストア船引パーク店、ダイユーエイト船引店、リオン・ドールガーデン船引、メガステージ田村、ケーズデンキ船引店 —

市町村名	店舗名
本宮市	シミズストア本宮店、コメリ本宮店、コメリ本宮仁井田店、ウエルシア福島本宮店、ザ・ビッグ本宮店、ヨークベニマル本宮館町店、リオン・ドール本宮店、ダイソーリオン・ドール本宮店、ヤマダ電機テックランド本宮店、ファッションセンターしまむら本宮店、農家の店さんさん、薬王堂本宮高木店、クスリのアオキ本宮岩根店 エイトタウン本宮
大玉村	— PLANT-5 大玉店
鏡石町	いちい鏡石店、リオン・ドール鏡石店、ウエルシア岩瀬鏡石店、クスリのアオキ鏡石店 イオンスーパーセンター鏡石店
猪苗代町	ヨークベニマル猪苗代店、リオン・ドール猪苗代店、カワチ薬品猪苗代店、ダイユーエイト猪苗代店、コメリ猪苗代店、ファッションセンターしまむら猪苗代店、ツルハドラッグ猪苗代店 —
石川町	カワチ薬品石川店、リオン・ドール石川店、ビバホーム石川店、ツルハドラッグ石川店、ダイユーエイト石川店 メガステージ石川
玉川村	リオン・ドール玉川店、ウエルシア福島玉川店、クスリのアオキ福島玉川店 —
浅川町	ダイユーエイト浅川店、ツルハドラッグ浅川店 —
古殿町	ツルハドラッグ福島古殿店 —
三春町	ヨークベニマル三春店 —
小野町	おのショッピングプラザ、ダイユーエイト小野店、ヨークベニマル小野町店、薬王堂福島小野店、ウエルシア小野新町店 —

出典：各市町村統計情報等（2023年3月現在）

※大規模小売店舗立地法の届出については、店舗名称が変更となってもその時点で変更届出の必要がない場合があるため、実際の店舗と異なる。

(4) 工業団地等

東北自動車道と磐越自動車道の結節点であることや、福島空港が立地するなど陸路・空路の物流拠点としても経済活動が活発な地域であることは本圏域の強みである。また、産学連携が活発に行われ高度技術産業の集積が極めて高いエリアであり、特に近年は医療・福祉機器産業クラスターの形成が進んでいることから、社会的需要に対応した企業誘致や、物流・生産拠点としての強みを生かした開発が求められている。

(単位：ha)

市町村名	名称	総面積	工場用地	分譲済面積
郡山市	郡山西部第一工業団地(第1期工区)	70.6	38.8	37.6
	郡山西部第一工業団地(第2期工区)	76.9	37	0
	郡山西部第二工業団地	251.3	173.9	173.9
	郡山ウエストソフトパーク	19.8	12.8	12.8
	郡山中央工業団地	189.0	114.5	114.5
	郡山流通業務団地	25.5	19.0	19.0
	郡山北部工業団地	58.1	29.8	29.8
	郡山鉄工団地	8.3	—	—
	郡山食品工業団地	9.3	6.0	6.0
	郡山地区木材木工工業団地	12.3	9.5	9.5
須賀川市	須賀川テクニカルリサーチガーデン	128.1	25.8	21.1
	北部工業団地	26.0	16.0	16.0
	南部工業団地	41.3	33.6	33.6
	越久工業団地	17.0	15.2	15.2
	横山工業団地	51.4	40.7	40.7
	長沼第一工業団地	4.7	2.9	2.9
	長沼第二工業団地	4.5	4.3	4.3
	長沼第三工業団地	25.0	15.1	15.1
二本松市	高田工業団地	33.0	33.0	33.0
	宮戸工業団地	35.1	31.0	31.0
	平石高田第二工業団地	54.8	46.3	46.3
	住吉工業団地	12.8	9.1	9.1
	八万館工業団地	12.7	10.7	10.7
	長命工業団地	9.7	8.1	5.5
	安達工業団地	18.0	12.5	12.5
	小沢工業団地	19.6	16.8	16.8
	柏木田工業団地	9.2	6.4	6.4
	太田工業団地	10.2	6.9	6.9
田村市	田村市産業団地	16.0	13.0	9.6
	田村市東部産業団地	42.0	23.4	23.4
	田村西部工業団地	75.4	38.3	38.3
	船引第2工業団地	22.8	11.8	11.8
	沼ノ下工業団地	10.6	8.7	8.7
	常葉工業団地	3.3	1.4	1.4
	大越牧野工業団地	49.4	46.4	46.4
	滝根工業団地	2.2	2.2	2.2
	舟ヶ作工業団地	18.2	10.6	10.6

市町村名	名称	総面積	工場用地	分譲済面積
本宮市	本宮工業等団地	74.7	59.9	59.9
	本宮南工業適地	12.0	12.0	8.6
	本宮北工業団地	8.8	6.7	6.7
	東笹田工業団地	18.2	15.0	15.0
	和田工業団地	6.4	4.0	4.0
	長屋工業団地	6.8	6.6	6.6
	白岩工業団地	8.3	6.0	6.0
	白岩西部工業団地	5.1	3.8	3.8
	桑田工業団地	6.9	5.0	5.0
大玉村	大玉第一工業団地	15.4	13.3	13.3
	大玉第二工業団地	13.4	9.9	9.9
鏡石町	境工業団地	18.2	14.9	14.9
	鏡石東部工業団地	40.9	31.2	31.2
	鏡石南部第一工業団地	12.7	9.4	9.4
	鏡石北部工業団地	16	12.1	12.1
	島田工業団地	8.4	8.4	8.4
天栄村	ハイテク大山工業団地	24.4	13.0	12.4
石川町	石川藤沢工業団地	10.8	9.0	5.7
玉川村	玉川南工業団地	22	15.5	15.5
平田村	平田工業団地	9.9	6.7	6.7
	小館工業団地	7.2	4.9	4.4
浅川町	浅川南工業団地	20.3	8.9	8.9
古殿町	古殿工業団地	4.8	4.8	4.8
	古殿第二工業団地	7.5	7.5	0.0
	西渡工業団地	8.4	4.2	4.2
三春町	大平工業団地	15.2	11.9	11.9
	平沢工業団地	12.4	10.5	10.5
	田村西部工業団地	42.4	28.5	27.4
	南原工業団地	22.7	22.7	22.7
小野町	鶴庭工業用地	16.2	5.0	5.0
	緑の工業団地	38.8	3.6	3.6
	塩庭農工（小野第二）工業団地	25.6	15.0	15.0

出典：各市町村 HP 等（2023 年 7 月現在）

(5) 衛生・上下水道

ごみの排出を抑制するためには、各家庭における生ごみの堆肥化や分別の徹底に加え、各事業所における廃棄物の減量化（リデュース）や再利用（リユース）、再資源化（リサイクル）などの取組を積み重ねていくことが重要であり、今後ごみ減量の意識啓発を行い、住民や事業者と行政が協力のもと、社会全体で資源の有効活用を図り、環境負荷の少ない持続可能な社会の形成に向け取り組んでいくことが求められている。

また、火葬施設については、急速に進行する高齢化への対応や各施設の更新時期に備え、圏域内の住民が利用しやすい施設の環境整備が求められている。

水道施設は、住民生活を支える重要なライフラインであり、いつでも安全かつ安心して使用できることが求められていることから、災害発生時や緊急時においても近隣市町村が連携した応急給水と復旧が行える体制整備が求められている。

下水道施設は、汚水処理による生活環境の改善や河川などの水質保全、降雨時における市街地の浸水被害を軽減する総合的な機能を有していることから、施設の耐震化や適切な維持管理が求められている。

① 清掃施設

設置主体	種別	名称	規模	
			敷地面積 (㎡)	処理能力
郡山市	し尿	富久山クリーンセンター 衛生処理センター		
		第一処理施設	14,310.28	170kl/日
		第二処理施設	8,710.86	70kl/日
	じんかい	富久山クリーンセンター	36,200	焼却 300t/24h 破砕 80t/5h
		河内クリーンセンター	68,000	焼却 300t/24h 破砕 70t/5h
河内埋立処分場		255,650	894,000 m ³ (残容量 91,600 m ³)	
須賀川地方保健環境組合 ※構成：須賀川市、鏡石町、天栄村	し尿	須賀川地方衛生センター	13,721	97kl/日
	じんかい	須賀川地方衛生センター	10,400	焼却 150t/24h 破砕 —
		森宿一般廃棄物最終処分場 (2期)	19,200	140,800 m ³ (残容量 65,500 m ³)
田村市	じんかい	船引清掃センター	8,340	資源・不燃ごみ選別処理 6t/日
		船引一般廃棄物最終処分場	35,439	29,884 m ³ (残容量 743.4 m ³)

設置主体	種別	名称	規模	
			敷地面積 (㎡)	処理能力
田村広域行政組合 ※構成：田村市、三春町、小野町	し尿	田村地方衛生処理センター	19,786.51	100kl/日
	じんかい	田村東部環境センター ※田村市、小野町	8,544.26	焼却：30t/8h 破碎：9t/5h
		田村西部環境センター ※田村市、三春町	9,620	焼却：40t/24h 灰溶融処理：6.4t/24h
		田村広域一般廃棄物最終処分場	11,370	12,575 m ³ (残容量：6,324 m ³)
安達地方広域行政組合 ※構成：二本松市、本宮市、大玉村	し尿	あだたら環境共生センター	13,713.47	130kl/日
	じんかい	もとみやクリーンセンター	約26,000	焼却：80t/24h
		安達埋立処分場 東和クリーンヒル	27,689.44 約13,000	(残容量：0 m ³) 約103,000 m ³
会津若松地方広域市町村圏整備組合 ※構成：会津若松市、磐梯町、猪苗代町、会津坂下町、湯川村、柳津町、三島町、金山町、昭和村、会津美里町 ※下線はこおりやま広域圏構成市町村	し尿	し尿処理施設	1,837.85	211kl/日
	じんかい	ごみ焼却処理施設	5,202.33	225t/24h
		ごみ破碎処理施設	3,535.37	50t/5h
		最終処分施設	第1処分場 21,780 第2処分場 36,788 第3処分場 49,791	152,000 m ³ (残容量：146,982 m ³)
石川地方生活環境施設組合 ※構成：石川町、玉川村、平田村、浅川町、古殿町	し尿	石川地方生活環境施設組合	33,892	59kl/日
	じんかい	石川地方生活環境施設組合	25,782	60t/日
		きららクリーンセンター 最終処分場	96,105.70	55,000 m ³ (残容量：20,211 m ³)
		きららクリーンセンター 粗大ごみ処理施設		24t/日
三春町	じんかい	三春町清掃センター		
		沼之倉第2埋立地前処理施設	230.60	破碎：4.9t/日
		資源ごみストックヤード (空缶類選別圧縮施設)	約4,000	選別・圧縮・梱包： 7.5t/日
		資源ごみストックヤード (ペットボトル圧縮梱包機)		選別、圧縮・梱包： 4.9t/日
沼之倉第二埋立地	7,000	30,000 m ³ (残容量：5,603 m ³)		

出典：各市町村HP、各一部事務組合HP等（2023年3月現在）

② 火葬施設

設置主体	名称	火葬炉数	使用料（12歳以上の場合）
郡山市	郡山市東山悠苑	<ul style="list-style-type: none"> 標準炉：8基 大型炉：2基 汚物焼却炉：1基 	<ul style="list-style-type: none"> 郡山市民：無料 郡山市民以外の者：75,000円/1体
須賀川地方保健環境組合 ※構成：須賀川市、鏡石町、天栄村	須賀川地方保健環境組合斎場	<ul style="list-style-type: none"> 火葬炉：4基 	<ul style="list-style-type: none"> 構成市町村の住民：5,000円/1体 上記以外の者：50,000円/1体
田村市	田村市斎場	<ul style="list-style-type: none"> 火葬炉：3基 	<ul style="list-style-type: none"> 田村市民：10,000円/1体 上記以外の者：75,000円/1体
安達地方広域行政組合 ※構成：二本松市、本宮市、大玉村	安達地方広域行政組合斎場 「あだたら聖苑」	<ul style="list-style-type: none"> 火葬炉：5基 汚物焼却炉：1基 	<ul style="list-style-type: none"> 構成市町村の住民：18,000円/1体 上記以外の者：54,000円/1体
猪苗代町	いなわしろ聖苑	<ul style="list-style-type: none"> 火葬炉（大型）：2基 汚物焼却炉：1基 	<ul style="list-style-type: none"> 猪苗代町民：10,000円/1体 上記以外の者：50,000円/1体
石川地方生活環境施設組合 ※構成：石川町、玉川村、平田村、浅川町、古殿町	石川地方火葬場 「いしかわ清苑」	<ul style="list-style-type: none"> 火葬炉：3基 	<ul style="list-style-type: none"> 構成市町村の住民：25,000円/1体 上記以外の者：60,000円/1体 ※13歳以上の場合
小野町	小野町火葬場 「おの悠苑」	<ul style="list-style-type: none"> 無煙無臭大型火葬炉：2基 ペット専用動物炉：1基 	<ul style="list-style-type: none"> 小野町民：5,000円/1体 田村市滝根町及び大越町住民：25,000円/1体 上記以外の住民：50,000円/1体 [ペット] <ul style="list-style-type: none"> 町内：5kg未満 8,000円 町内：5kg以上 10,000円 町外：5kg未満 24,000円 町外：5kg以上 30,000円

出典：各市町村HP等（2023年7月現在）

③ 水道施設の状況

市町村名	事業区分	行政区域内 人口 (人)	給水区域内 人口 (人)	給水人口 (人)	普及率 (%)	年間総給水量 (m ³)	管路総延長 (m)
郡山市	上水道	322,515	312,900	311,945	96.7	39,329,401	1,825,009
	簡易水道		2,778	2,738	0.8	405,690	68,015
須賀川市	上水道	74,279	72,695	66,981	90.2	7,244,441	607,690
二本松市	上水道	51,807	39,286	39,265	96.77	5,016,642	398,100
	簡易水道		7,355	6,366	56.67	649,306	207,901
田村市	上水道	33,295	22,802	18,058	57.6	2,024,347	279,621
	簡易水道		671	480	24.6	40,771	14,793
本宮市	上水道	29,921	30,024	29,236	97.7	5,419,113	351,493
大玉村	上水道	8,717	8,652	8,621	99.6	803,992	131,270
鏡石町	上水道	12,133	12,039	11,967	99.4	1,235,960	115,813
天栄村	上水道	5,284	4,755	4,607	96.9	437,763	74,459
	簡易水道		350	346	98.9	29,331	18,305
磐梯町	簡易水道	3,251	3,165	3,146	99.4	748,372	91,634
猪苗代町	上水道	13,014	12,455	12,364	99.3	1,934,344	251,014
石川町	上水道	14,026	11,701	10,877	77.5	1,830,027	135,920
玉川村	上水道	6,249	6,006	5,298	84.7	633,000	81,977
平田村	簡易水道	6,150	3,843	3,061	79.7	404,270	88,573
浅川町	上水道	5,717	5,718	5,649	98.8	663,294	96,254
古殿町	簡易水道	4,513	4,739	4,340	91.5	510,757	29,552
三春町	上水道	16,551	14,418	13,923	84.1	1,311,633	153,455
	簡易水道		282	282	1.7	19,524	5,196
小野町	上水道	8,860	5,750	4,469	77.7	628,753	46,438

出典：各市町村統計書等（2023年3月31日現在）

※行政区域内人口：各市町村の現住人口

※給水区域内人口：給水区域内に居住し、給水を受けている人口

※普及率：行政区域内人口に対する給水人口の割合

※年間総給水量：1年間で給水した水量の合計

※管路総延長：配水管等布設延長の合計

④ 下水道施設の状況

市町村名	事業区分	行政区域内人口 (人)	処理区域面積 (ha)	処理区域内人口 (人)	普及率 (%)	年間総処理水量 (m ³)	管路総延長 (m)
郡山市	公共下水道	316,383	4,718.40	235,267	74.4	27,866,437	1,379,000
	特定環境保全 公共下水道		155.5	2,391	0.8	153,494	
	農業集落排水		1,522	11,456	3.6	818,349	
須賀川市	公共下水道	74,279	948	39,513	53	3,225,274	425,000
	特定環境保全 公共下水道		46	512	0.6	44,739	
	農業集落排水		1,579.00	10,876	14.6	1,126,171	
二本松市	公共下水道	51,807	641.3	18,172	35.1	1,467,798	145,164
	特定環境保全 公共下水道		109.5	1,571	3	152,649	
田村市	公共下水道	33,963	595	11,680	34.4	798,045	102,000
本宮市	公共下水道	29,921	540	14,821	49.5	1,581,091	78,650
大玉村	農業集落排水	8,717	159	3,531	40.5	273,686	30,000
鏡石町	公共下水道	12,480	284	9,966	79.9	1,327,258	78,358
	農業集落排水		103	917	7.3	66,901	
天栄村	農業集落排水	5,284	353	3,693	78.7	401,810	60,707
	簡易排水		4	41	100	1,796	
磐梯町	特定環境保全 公共下水道	3,244	110	1,937	88.8	218,011	40,350
	農業集落排水		63	803	78	50,613	
	林業集落排水		12	206	99	16,289	
	特定地域生活 排水処理		1	67	76.1	7,149	
猪苗代町	公共下水道	13,014	501	6,492	49.9	1,028,028	121,660
	特定環境保全 公共下水道		77	862	6.6	98,526	
	農業集落排水		241	2,053	15.8	165,782	
玉川村	農業集落排水	6,249	169	2,670	42.7	230,242	32,000
平田村	農業集落排水	6,219	217	3,879	62.4	230,657	33,070
浅川町	特定環境保全 公共下水道	5,946	117.5	2,667	44.9	140,828	19,850
	農業集落排水		8	88	1.5	3,634	
古殿町	農業集落排水	4,739	176	1,486	31	223,020.6	26,669
	林業集落排水		32	624	13	46,033.8	
三春町	公共下水道	16,364	116	3,093	18.9	261,981	61,626
	農業集落排水		122	2,421	14.8	216,114	

出典：各市町村統計書等（2023年3月31日現在）

※行政区域内人口：各市町村の住民基本台帳人口

※処理区域面積：公共下水道等が使用可能である区域の面積

※処理区域内人口：公共下水道等が使用可能な区域に住んでいる人口

※普及率：行政区域内人口に対する処理区域内人口の割合

(6) 交通

東北自動車道と磐越自動車道が交差し、東北新幹線をはじめとした鉄道網の結節点でもある本圏域はJR郡山駅と各市町村の中心部が公共交通機関で約1時間以内のアクセスが可能であり、また、本県の空の玄関口である福島空港を有する人、モノ、情報の結節点として位置づけられている。こうした交通・物流面での強みを生かした拠点間の利便性の高い交通網の整備や、災害時における相互支援、避難路確保による住民生活の安全・安心の観点からも円滑な公共交通ネットワーク・社会インフラ整備が求められる。

① 交通インフラの状況

区分	主な路線等
空港	福島空港（須賀川市、玉川村）
高速道路	東北縦貫自動車道弘前線（郡山JCT、郡山IC、郡山中央SIC、郡山南IC、二本松IC、本宮IC、須賀川IC、鏡石SIC）、東北横断自動車道いわき新潟線（郡山JCT、郡山東IC、磐梯熱海IC、船引三春IC、田村SIC、小野IC、猪苗代磐梯高原IC）
地域高規格道路	郡山西環状道路（あさか野バイパス）、あぶくま高原道路（玉川IC、福島空港IC、石川母畑IC、平田西IC、平田IC、小野IC）
JR 東日本	<ul style="list-style-type: none"> ・東北新幹線（郡山駅） ・東北本線（郡山駅、日和田駅、安積永盛駅、五百川駅、二本松駅、杉田駅、安達駅、本宮駅、須賀川駅、鏡石駅） ・磐越東線（郡山駅、舞木駅、三春駅、要田駅、船引駅、磐城常葉駅、大越駅、菅谷駅、神俣駅、小野新町駅、夏井駅） ・磐越西線（郡山駅、郡山富田駅、喜久田駅、安子ヶ島駅、磐梯熱海駅、中山宿駅、上戸駅、（臨）猪苗代湖畔駅、関都駅、川柝駅、猪苗代駅、翁島駅、磐梯町駅） ・水郡線（郡山駅、安積永盛駅、磐城守山駅、谷田川駅、小塩江駅、川東駅、泉郷駅、川辺沖駅、野木沢駅、磐城石川駅、里白石駅、磐城浅川駅）
路線バス	<ul style="list-style-type: none"> ・福島交通（郡山市、須賀川市、二本松市、田村市、本宮市、鏡石町、天栄村、石川町、玉川村、古殿町、平田村、三春町、小野町） ・新常磐交通（田村市、小野町） ・会津乗合自動車（郡山市、猪苗代町）
巡回バス等	郡山市（市内循環バス）、須賀川市（市内循環バス）、二本松市（コミュニティバス）、本宮市（コミュニティバス）、三春町（町営バス）
その他	リムジンバス（郡山駅ー福島空港間）二本松バスストップ（二本松IC）

出典：福島空港ビル株式会社HP、東日本旅客鉄道株式会社HP、福島交通株式会社HP、各市町村HP等（2023年3月現在）

② 主な国県道路線

路線名		関係市町村（市町村順）
一般国道	4号	郡山市、須賀川市、二本松市、本宮市、鏡石町、大玉村
	49号	郡山市、猪苗代町、平田村
	115号	猪苗代町
	118号	須賀川市、鏡石町、天栄村、石川町、浅川町
	288号	郡山市、田村市、三春町
	294号	郡山市、天栄村
	349号	二本松市、田村市、本宮市、平田村、浅川町、古殿町、小野町
	399号	田村市
	459号	二本松市、猪苗代町
主要地方道	猪苗代・塩川線	磐梯町、猪苗代町
	本宮・熱海線	郡山市、本宮市
	猪苗代・湖南線	郡山市、猪苗代町
	小野・田母神線	郡山市、小野町
	船引・大越・小野線	田村市・小野町
	本宮・三春線	郡山市、本宮市、三春町
	本宮・土湯温泉線	二本松市、本宮市、大玉村、猪苗代町
	郡山・長沼線	郡山市、須賀川市
	飯野・三春・石川線	郡山市、須賀川市、二本松市、本宮市、石川町、玉川村、三春町
	浪江・三春線	田村市、三春町
	須賀川・三春線	郡山市、須賀川市、三春町
	郡山・矢吹線	郡山市、須賀川市、鏡石町、天栄村
	郡山・大越線	郡山市、田村市、三春町
	古殿・須賀川線	須賀川市、玉川村、石川町、古殿町
	小野・郡山線	郡山市、小野町
二本松・金屋線	郡山市、二本松市、本宮市	
中野・須賀川線	鏡石町	
一般県道	安積・長沼線	郡山市、鏡石町
	三春・日和田線	郡山市、三春町
	二本松・三春線	二本松市、本宮市、三春町
	本宮・常葉線	本宮市、田村市、三春町
	本宮・岩代線	二本松市、本宮市
	岳温泉・大玉線	二本松市、大玉村
	平田・小野線	平田村、小野町
	母畑・須賀川線	須賀川市、玉川村
	玉川・田村線	郡山市、須賀川市、玉川村
	仁井田・郡山線	郡山市、須賀川市
	谷田川・三春線	郡山市、三春町
	石筵・本宮線	郡山市、本宮市、大玉村
	福島空港西線	須賀川市、玉川村
	羽鳥・福良線	郡山市、天栄村
	浅川・古殿線	浅川町、古殿町
	下松本・鏡石停車場線	須賀川市、鏡石町、天栄村
	牧ノ内・長沼線	須賀川市、天栄村
	荒井・郡山線	郡山市、本宮市
	実沢・要田線	田村市、三春町
	門沢・三春線	田村市、三春町
	石沢・荻田線	二本松市、田村市
	須賀川・二本松線	郡山市、須賀川市、二本松市、本宮市、大玉村
	須賀川・二本松自転車道線	郡山市、須賀川市
	岩根・日和田線	郡山市、本宮市
	大橋・五百川停車場線	本宮市、大玉村
	阿久津・舞木停車場線	郡山市、三春町
	斎藤・下行合線	郡山市、三春町

出典：福島県の道路網図 2023年度版等（2023年3月末現在）

③ 道の駅

市町村名	名称	主な機能
二本松市	「安達」智恵子の里 (下り線)	ATM、レストラン、軽食、EV 充電施設、無線 LAN、体験施設、観光案内、多目的トイレ、ベビーベッド、農産物直売所、コンビニ、ショップ
	「安達」智恵子の里 (上り線)	ATM、レストラン、軽食・喫茶、EV 充電施設、無線 LAN、多目的トイレ、ベビーベッド、農産物直売所、コンビニ、ショップ
	ふくしま東和	レストラン、軽食、無線 LAN、多目的トイレ、農産物直売所、ショップ
	さくらの郷	レストラン、無線 LAN、多目的トイレ、農産物直売所、ショップ
天栄村	季の里天栄	ベビーベッド、レストラン、無線 LAN、観光案内、多目的トイレ、ショップ
	羽鳥湖高原	ベビーベッド、レストラン、無線 LAN、観光案内、多目的トイレ、ショップ
磐梯町	ばんだい	ベビーベッド、レストラン、軽食・喫茶、EV 充電施設、無線 LAN、体験施設、多目的トイレ、ショップ
猪苗代町	猪苗代	ベビーベッド、レストラン、軽食・喫茶、EV 充電施設、無線 LAN、観光案内、多目的トイレ、ショップ
玉川村	たまかわ「こぶしの里」	レストラン、EV 充電施設、無線 LAN、体験施設、多目的トイレ、ショップ
平田村	ひらた「しばさくらの里」	ベビーベッド、レストラン、軽食・喫茶、多目的トイレ、ショップ
古殿町	ふるどの「おふくろの駅」	ベビーベッド、レストラン、多目的トイレ、ショップ

出典：道の駅公式HP等（2023年7月現在）

④ 地域公共交通（郡山市との所要時間）

市町村名	主な公共交通機関による所要時間等
須賀川市	須賀川駅＝(JR 東北本線：12分)＝郡山駅 運賃：242円
二本松市	二本松駅＝(JR 東北本線：25分)＝郡山駅 運賃：418円
田村市	船引駅＝(JR 磐越東線：26分)＝郡山駅 運賃：506円
本宮市	本宮駅＝(JR 東北本線：16分)＝郡山駅 運賃：242円
大玉村	大玉村役場＝(デマンドタクシー等：10分)＝本宮駅
	本宮駅＝(JR 東北本線：16分)＝郡山駅 運賃：242円
鏡石町	鏡石駅＝(JR 東北本線：17分)＝郡山駅 運賃：330円
天栄村	天栄村役場＝(福島交通バス：26分)＝鏡石駅 運賃：620円
	鏡石駅＝(JR 東北本線：17分)＝郡山駅 運賃：330円
磐梯町	磐梯町駅＝(JR 磐越西線：51分)＝郡山駅 運賃：990円
猪苗代町	猪苗代駅＝(JR 磐越西線：37分)＝郡山駅 運賃：682円
石川町	磐城石川駅＝(JR 水郡線：46分)＝郡山駅 運賃：770円
玉川村	泉郷駅＝(JR 水郡線：32分)＝郡山駅 運賃：510円
平田村	上蓬田＝(福島交通バス：60分)＝郡山駅 運賃：1,400円
浅川町	磐城浅川駅＝(JR 水郡線：57分)＝郡山駅 運賃：860円
古殿町	古殿役場＝(福島交通バス：35分)＝石川駅前 運賃：890円
	磐城石川駅＝(JR 水郡線：46分)＝郡山駅 運賃：770円
三春町	三春駅＝(JR 磐越東線：13分)＝郡山駅 運賃：242円
小野町	小野新町駅＝(JR 磐越東線：50分)＝郡山駅 運賃：860円

出典：東日本旅客鉄道株式会社HP、福島交通株式会社HP、各市町村HP等（2023年10月現在）

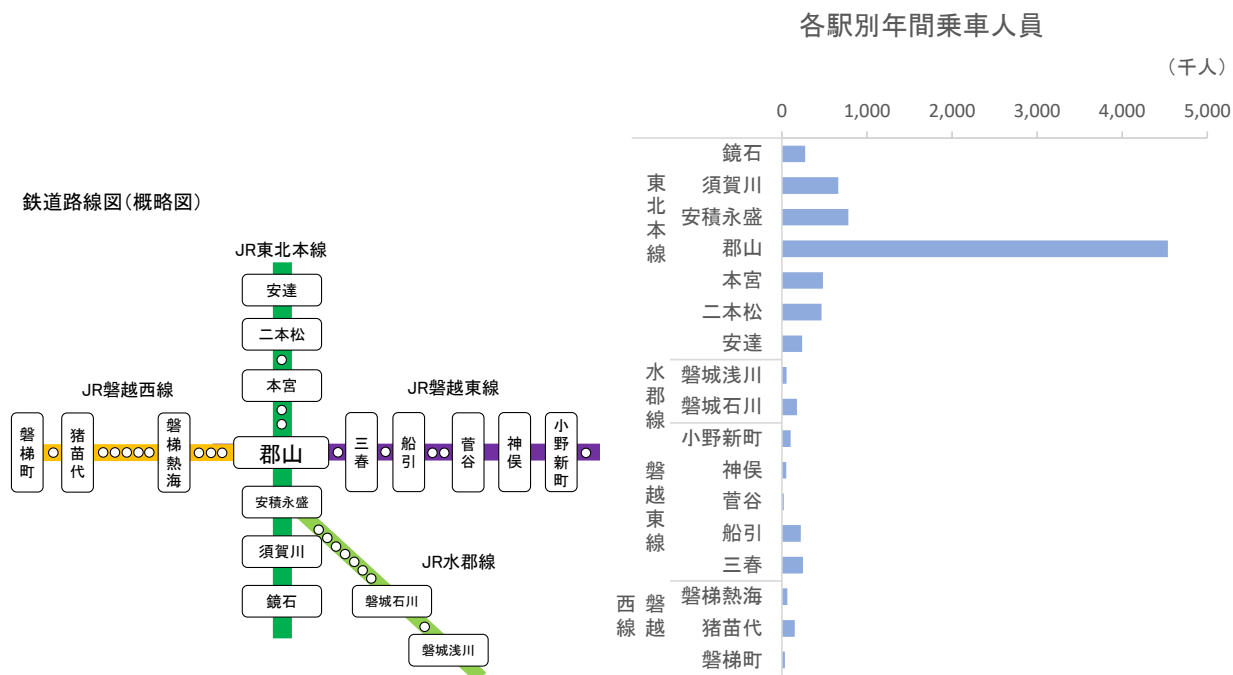
⑤ 各鉄道の主な駅別年間乗車人員

(単位：千人)

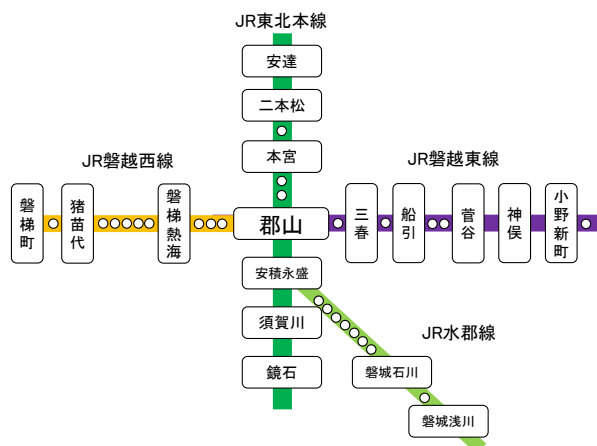
路線名	駅名	乗車人員
東北本線	鏡石	272
	須賀川	662
	安積永盛	780
	郡山	4,537
	本宮	481
	二本松	465
	安達	238
水郡線	磐城浅川	54
	磐城石川	175
磐越東線	小野新町	103
	神俣	50
	菅谷	22
	船引	220
	三春	246
磐越西線	磐梯熱海	63
	猪苗代	151
	磐梯町	34

出典：福島県統計年鑑 2023（令和3年度）

※無人駅を除く



鉄道路線図(概略図)



(7) 消防・警察

本圏域の消防体制は、それぞれの市町村が加入する4つの広域消防組合から構成されており、迅速で効果的な災害対応や本部機能の効率化などが既に図られているが、福島県が設定する二次医療圏との乖離があることから、圏域住民の安全・安心な救急体制の提供に向け、これまで以上に消防と医療機関との連携が求められている。

また、事故や犯罪等に対し、自治体のみならず住民、学校、企業等が警察との連携によるセーフコミュニティの推進により、地域が一体となり未然に防止できる体制を構築していくことがますます求められている。

① 消防署

二次医療圏	属する組合名称	構成市町村	署所数	署所名称
県北	安達地方広域行政組合	二本松市	3	北消防署（安達地方広域消防本部）、岩代出張所、東和出張所
		本宮市	1	南消防署
県中	郡山地方広域消防組合	郡山市	11	郡山消防署（郡山消防本部）、大槻基幹分署、喜久田基幹分署、熱海分署、日和田分署、田村分署、安積分署、針生救急所、湖南分署、中田分署、富久山分署
		田村市	5	田村消防署、移分駐所、滝根分署、大越分遣所、都路分署
		小野町	1	小野分署
		三春町	1	三春分署
	須賀川地方広域消防組合	須賀川市	2	須賀川消防署（須賀川地方広域消防本部）、長沼分署
		鏡石町	1	鏡石分署
		天栄村	1	湯本分遣所
		石川町	1	石川消防署
		玉川村	1	玉川分署
		平田村	1	平田分署
浅川町	浅川町	1	浅川分署	
	古殿町	1	古殿分署	
	磐梯町	1	磐梯出張所	
会津・南会津	会津若松地方広域市町村圏整備組合消防本部	磐梯町	1	磐梯出張所
		猪苗代町	1	猪苗代消防署

出典：各組合HP等（2023年7月現在）

② 警察署

警察署名	管轄市町村名	交番・駐在所	
		設置数	名称
福島県郡山警察署	郡山市	14	駅前交番、開成交番、芳賀交番、古舘交番、長者交番、麓山交番、久留米交番、笹川交番、大槻交番、東部駐在所、柳橋駐在所、三穂田駐在所、二瀬駐在所、田村駐在所
福島県郡山北警察署		10	富田交番、富久山交番、熱海駐在所、逢瀬駐在所、片平駐在所、喜久田駐在所、西田駐在所、日和田駐在所、福良駐在所、舟津駐在所
福島県郡山北警察署 本宮分庁舎	本宮市	3	岩根駐在所、白岩駐在所、白沢駐在所
	大玉村	1	大玉駐在所
福島県須賀川警察署	須賀川市	7	駅前交番、西袋交番、川東駐在所、岩瀬駐在所、長沼駐在所、仁井田駐在所、稲田駐在所
	鏡石町	1	鏡石駐在所
	天栄村	2	天栄駐在所、湯本駐在所
	玉川村	1	空港警察派出所
福島県二本松警察署	二本松市	8	岳駐在所、杉田駐在所、木ノ崎駐在所、安達駐在所、小浜駐在所、新殿駐在所、旭駐在所、東和駐在所
福島県石川警察署	石川町	2	沢田駐在所、山橋駐在所
	玉川村	1	玉川駐在所
	平田村	1	平田駐在所
	浅川町	1	浅川駐在所
	古殿町	1	古殿駐在所
福島県田村警察署	田村市	6	瀬川駐在所、移駐在所、七郷駐在所、常葉駐在所、都路駐在所、船引幹部交番
	三春町	2	中郷駐在所、三春岩江駐在所
福島県田村警察署 小野分庁舎	田村市	2	滝根駐在所、大越駐在所
	小野町	2	夏井駐在所、飯豊駐在所
福島県猪苗代警察署	磐梯町	1	磐梯駐在所
	猪苗代町	3	月輪駐在所、長瀬駐在所、吾妻駐在所

出典：各警察署HP等（2023年7月現在）

(8) 国の機関等

本圏域内には地方自治と密接な関連をもつ国の出先機関が多数設置されていることから、これらの機関に対し本圏域の取組を積極的に発信するとともに、これまで以上に相互の関係を強化し、自治体単独では対応が困難な行政課題に対し関係市町村等と連携し取り組んでいくことが求められている。また、圏域内市町村が実施する施策への形成段階からの参画や地域の実情を国の施策に反映できるよう積極的な情報共有や提案がこれまで以上に求められている。

市町村名	主な機関等
郡山市	防衛省東北防衛局郡山防衛事務所、防衛省陸上自衛隊東北方面隊第6師団郡山駐屯地、防衛省自衛隊福島地方協力本部郡山地区援護センター、法務省福島地方法務局郡山支局、仙台出入国在留管理局郡山出張所、財務省国税庁仙台国税局郡山税務署、厚生労働省福島労働局郡山労働基準監督署、厚生労働省福島労働局郡山公共職業安定所、国土交通省東北地方整備局郡山国道事務所、国土交通省東北地方整備局福島河川国道事務所郡山出張所、農林水産省東北農政局福島地域センター郡山庁舎、農林水産省林野庁関東森林管理局福島森林管理署郡山森林事務所、福島地方検察庁郡山支部、福島地方裁判所郡山支部、日本年金機構郡山事務所
須賀川市	厚生労働省福島労働局須賀川労働基準監督署、厚生労働省福島労働局須賀川公共職業安定所、厚生労働省独立行政法人国立病院機構福島病院、財務省国税庁仙台国税局須賀川税務署、法務省福島地方法務局須賀川証明サービスセンター
二本松市	福島地方法務局二本松出張所、厚生労働省福島労働局二本松公共職業安定所、財務省国税庁仙台国税局二本松税務署
田村市	農林水産省林野庁関東森林管理局福島森林管理署常葉森林事務所・都路森林事務所
大玉村	農林水産省林野庁関東森林管理局福島森林管理署玉ノ井森林事務所
天栄村	農林水産省林野庁関東森林管理局福島森林管理署白河支所大平森林事務所、農林水産省東北農政局阿武隈土地改良調査管理事務所羽鳥ダム管理所
猪苗代町	国土交通省猪苗代車両検測所、農林水産省林野庁関東森林管理局会津森林管理署猪苗代森林事務所
玉川村	財務省横浜税関小名浜税関支署福島空港出張所、国土交通省東京航空局福島空港出張所、国土交通省仙台航空測候所福島空港出張所
平田村	農林水産省林野庁関東森林管理局福島森林管理署白河支署蓬田森林事務所
古殿町	農林水産省林野庁関東森林管理局福島森林管理署白河支署大原森林事務所・横川森林事務所
三春町	国土交通省三春ダム管理所、日本原子力研究開発機構福島研究開発部門、国立研究開発法人国立環境研究所福島支部
小野町	農林水産省林野庁関東森林管理局福島森林管理署小野町森林事務所

出典：各省庁等HP等（2023年7月現在）

6 財政状況

(1) 財政指標等

令和4年度普通会計決算における各財政指標の圏域平均は、令和3年度の県平均と比べると標準財政規模は上回っているが、財政力指数は下回っている。また、経常収支比率及び地方債残高は県平均を超えている状況となっている。経常収支比率が高いほど財政構造の硬直化が進んでいることを示すことから、新たな財政需要や変化に柔軟に対応していくため、経常的経費の抑制に努める必要がある。

(単位：千円)

市町村名	標準財政規模	財政力指数	経常収支比率	地方債残高
郡山市	71,642,847	0.83	87.6%	92,618,553
須賀川市	19,644,156	0.57	97.5%	41,650,470
二本松市	16,890,830	0.45	94.9%	32,562,920
田村市	13,536,264	0.35	91.0%	18,459,757
本宮市	8,748,050	0.65	92.6%	20,097,250
大玉村	3,141,831	0.36	84.5%	3,852,056
鏡石町	3,571,224	0.58	84.3%	6,362,445
天栄村	2,890,425	0.31	79.3%	3,635,529
磐梯町	2,541,911	0.27	84.9%	4,640,366
猪苗代町	5,677,866	0.37	88.6%	8,685,996
石川町	4,908,912	0.42	82.7%	7,534,562
玉川村	2,511,483	0.36	90.2%	3,388,302
平田村	3,192,247	0.26	82.2%	7,234,431
浅川町	2,448,976	0.33	85.2%	3,209,358
古殿町	3,033,088	0.22	83.8%	5,671,261
三春町	5,167,014	0.44	91.2%	7,958,194
小野町	3,687,311	0.37	88.3%	5,478,544
圏域平均	10,190,261	0.42	87.6%	16,061,176
(参考) 県平均	9,359,245	0.46	85.3%	14,513,079

出典：令和4年度各市町村普通会計決算等(県平均は令和3年度決算)

※標準財政規模：その団体が合理的かつ妥当な水準で行政を行うための標準的な一般財源の規模を表す指標。

※財政力指数：標準的な行政需要に自主財源でどれだけ対応できるかを表す指標。

※経常収支比率：地方税、普通交付税のように用途が特定されておらず、毎年度経常的に収入される財源のうち、人件費、扶助費、公債費のように毎年経常的に支出される経費に充当されたものが占める割合で、財政構造の弾力性を表す指標。

(2) 健全化判断比率

令和4年度決算に基づく各市町村の健全化判断比率は、実質赤字比率及び連結赤字比率はともに実質収支が黒字で赤字額はなく、実質公債費比率及び将来負担比率はいずれも国の示した早期健全化基準を大きく下回っており、健全な財政状況となっている。

(単位：%)

市町村名	健全化判断比率					
	実質赤字比率 (財政再生基準 20%)		連結実質赤字比率 (財政再生基準 30%)		実質公債費比率 (財政再生基準 35%)	将来負担比率 (早期健全化基準 350%)
	比率	早期健全化基準	比率	早期健全化基準	3か年平均	比率
郡山市	—	11.25	—	16.25	1.9	—
須賀川市	—	12.52	—	17.52	5.2	55.9
二本松市	—	12.65	—	17.65	8.9	41.7
田村市	—	12.90	—	17.90	8.5	—
本宮市	—	13.57	—	18.57	5.2	58.4
大玉村	—	15.00	—	20.00	7.3	—
鏡石町	—	15.00	—	20.00	9.0	68.9
天栄村	—	15.00	—	20.00	7.9	—
磐梯町	—	15.00	—	20.00	12.3	94.9
猪苗代町	—	14.60	—	19.60	10.0	27.7
石川町	—	14.93	—	19.93	5.2	6.0
玉川村	—	15.00	—	20.00	10.7	41.4
平田村	—	15.00	—	20.00	12.7	41.8
浅川町	—	15.00	—	20.00	5.5	—
古殿町	—	15.00	—	20.00	8.5	—
三春町	—	14.89	—	19.89	7.4	13.2
小野町	—	15.00	—	20.00	4.7	—

出典：令和4年度各市町村普通会計決算等

※実質赤字比率：歳出に対する歳入の不足額を、市町村の一般財源の標準的な規模を表す「標準財政規模」で除したものの。

※連結実質赤字比率：市町村すべての会計の赤字額と黒字額を合算し、歳出に対する歳入の資金不足額を標準財政規模で除したものの。

※実質公債費比率：義務的に支出しなければならない経費である公債費や公債費に準じた経費の額を標準財政規模を基本とした額で除したものの3か年の平均値。

※将来負担比率：市町村が発行した地方債残高のほか、土地開発公社や市町村が損失補償した第三セクターの債務などを標準財政規模を基本とした額で除したものの。

7 こおりやま広域連携中枢都市圏ビジョン(2019~2023年度)総括

◆基本目標及び各連携事業指標の達成状況及び評価

基本目標（評価：「○」目標値を達成している項目）

全体像	基本目標 (指標)	現状値	目標値	実績値	評価
圏域全 体の経 済成長 けん引	製造品出荷額 等	1,637,581 百万円 (2016 年)	1,650,000 百万円 (2023 年)	1,741,153 百万円 (2021 年)	○
	年間商品販売 額(卸・小売業)	1,915,948 百万円 (2016 年)	1,950,000 百万円 (2022 年)	1,880,720 百万円 (2021 年)	
	農業産出額	76,290 百万円 (2016 年)	77,000 百万円 (2023 年)	66,140 百万円 (2021 年)	
	観光客入込数	1,388 万人 (2016 年)	1,500 万人 (2023 年)	1,264 万人 (2022 年)	
高次の 都市機 能の集 積・強化	福島空港利用 者数	約 26 万人 (2017 年度)	約 23 万人 (2023 年度)	180,919 人 (2022 年度)	
	公共交通利用 者数	約 1,205 万人 (2017 年度)	約 1,233 万人 (2023 年度)	約 834 万人 (2020 年度)	
圏域全 体の生 活関連 機能サ ービスの 向上	合計特殊出生 率	各市町村の人口ビジョン等に掲げる合計 特殊出生率の達成を目指す(2040 年)		郡山市 1.36(2021 年)1.8(2040 年)	
	人口の社会動 態	各市町村の人口ビジョン等に掲げる人口 社会動態の達成を目指す(2040 年)		郡山市△3.7(2021 年)4(2040 年)	
	圏域の健康寿 命	各市町村における健康寿命の 延伸を目指す		郡山市 男性△0.43 年 女性△0.04 年 (2020-2018 年)	
	温室効果ガス 排出量 (参考:郡山市)	2,961 千 t-CO ₂ (2017 年度)	2,610 千 t-CO ₂ (2023 年度)	2,668 千 t-CO ₂ (2020 年度)	
	交通事故 死傷者数	2,315 人 (2017 年)	1,150 人 (2023 年)	1,065 人 (2022 年)	○

「圏域全体の経済成長けん引」は、製造品出荷額等が2023年度の目標値を達成している状況となっている。「高次の都市機能の集積・強化」は、2023年度の目標値の達成は難しい状況にある。「圏域全体の生活関連機能サービスの向上」は、交通事故死傷者数が2023年の目標値を達成している状況となっている。新型コロナによる人流の変化及び移動の抑制の影響を強く受けていると考えられ、アフターコロナの動向を踏まえ、人流の変化等を注視していく必要がある。

各連携事業指標(目標値に対するKPI達成率A:90%以上、B:70%以上90%未満、C:70%未満)

※KPI達成率は、2023年度の目標値と2022年度の実績値を比較して算出

項目	事業数	A	B	C	未算出
圏域全体の経済成長けん引	16	4	3	9	
高次の都市機能の集積・強化	5	1	1	2	1
圏域全体の生活関連機能サービスの向上	55	20	6	27	2
計	76 (100%)	25 (33%)	10 (13%)	38 (50%)	3 (4%)

全80事業のうち再掲4事業を除く76事業をKPI達成状況別で整理すると、達成状況がAの割合が33%、Bの割合が13%、Cの割合が50%になっている。70%以上の割合は、5割に届いていないことから、幅広い事業の推進が求められる。

①「圏域全体の経済成長のけん引」の主な取組

こおりやまSDGsアワード(圏域で特に優れた取組を行っている住民、事業者等を表彰)
 創業支援、クラウドファンディング(圏域の起業家等への伴走型支援、資金調達支援)
 企業立地合同プロモーション(圏域でのビジネス展開・販路拡大等を促進)
 広域圏グローバルビジネス促進(エッセン市と連携、圏域事業者の海外展開を支援)
 広域観光FUKUNAKAプラス、ガイドブック(広域観光プロモーション)

②「高次の都市機能の集積・強化」の主な取組

広域的な交通網、福島空港利用及び地域の活性化の情報共有等
 高等教育機関との情報共有等

③「圏域全体の生活関連機能サービスの向上」の主な取組

SDGs 全世代健康都市圏

（医療・介護情報等を多角的に分析、健康情報等を一元化し発信）

あさかの学園大学（社会参加促進と生涯現役で活躍できるための契機）

病児・病後児保育（専用施設において保育士と看護師が医師と連携）

図書館広域利用（圏域における図書館の広域利用）

スポーツイノベーション（圏域のトップスポーツチーム等と連携）

航空写真合同撮影（圏域合同で航空写真撮影）

市民活動サポートセンター広域利用（圏域での活動を応援）

災害対策・対口支援体制（地理的に隣接する強みを生かし迅速な支援）

セーフコミュニティ（圏域でのセーフコミュニティ活動を推進）

DX推進・RPA活用（圏域でRPA（定型業務自動化）による業務効率化）

EBPMの推進・広域圏データブック（圏域統計データを集約、グラフで“見える化”）

移住定住促進・広域圏地域体験ツアー（広域圏の魅力PR・地域体験ツアー）

わかものボーダーレス（圏域の若者による課題解決のための政策提言）

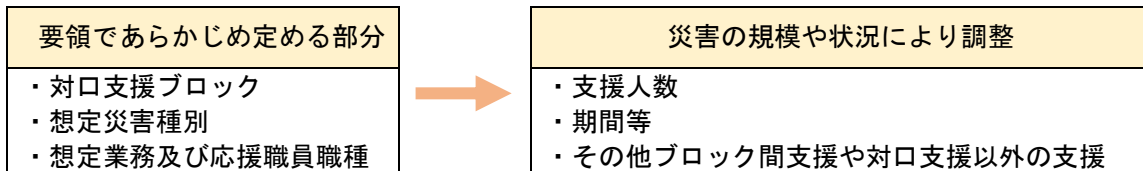
チャレンジ新発想研究塾（圏域の若手職員による新しい発想による施策研究）

公民協奏パートナーシップ（様々な主体間連携による公民協奏（コンチェルト）の取組）

参考① 対口支援体制

1 要旨

総務省の対口支援の補完を目的とし、地理的に隣接する強みを生かし先行して迅速かつきめ細かな支援体制を構築する。連携協約における「災害対策・住民の安全安心の確保」により、災害種別（河川洪水、土砂災害、噴火等）に応じて、災害発生時、被災市町村の要請をもとに対口支援を行うため、令和2年7月22日に要領を策定している。



2 対口支援体制（ブロック割）

対口支援ブロックを基本とし構成市町村内での職員派遣を行う。災害発生時、受援側は速やかに必要な職種・人数・期間について支援側に要請し、構成市町村内で調整のうえ職員を派遣する。必要に応じてブロック間での対口支援を行う。

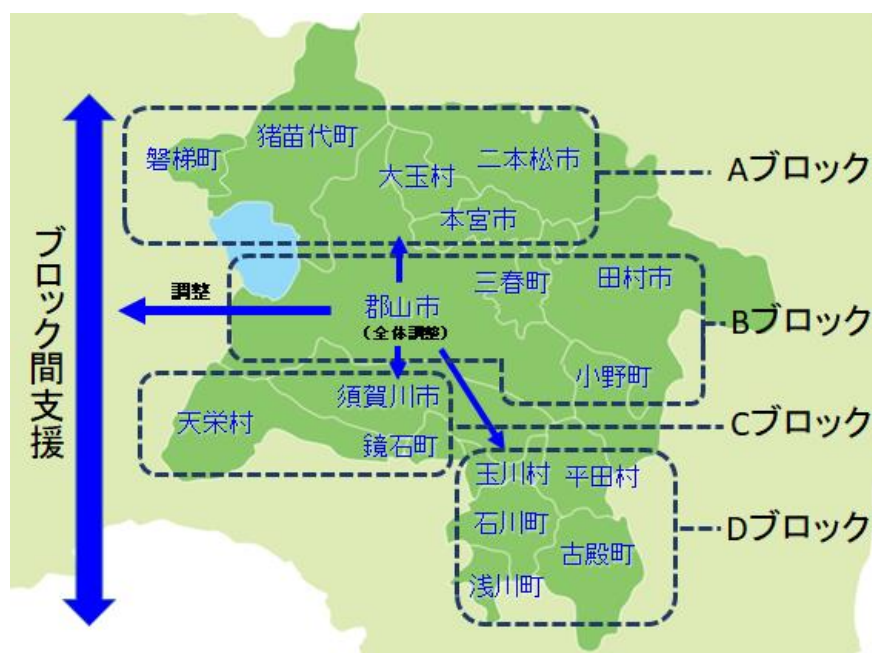
- ・あらかじめ定める「要領」に基づきブロック内で速やかな支援を実施。
- ・ブロック間の支援、対口支援以外の応援等については、中心市の郡山市が調整。

【対口支援ブロック】

ブロック名	構成市町村
Aブロック	★二本松市・本宮市・大玉村・磐梯町・猪苗代町
Bブロック	★郡山市・田村市・三春町・小野町
Cブロック	★須賀川市・鏡石町・天栄村
Dブロック	★石川町・玉川村・平田村・浅川町・古殿町

※阿武隈川、奥羽山脈、阿武隈高地などの地勢が南北に縦貫する地理的特性を考慮し、東西方向への相互支援ブロックを基本とする。

★…ブロック内外調整担当



参考② 公民協奏パートナーシップ

こおりやま広域圏公民協奏パートナーシップ協定の締結

「誰一人取り残されない」SDGs体感未来都市圏・未来協奏都市圏の創造に向けて

●生活圏・文化圏・経済圏を共にする「こおりやま広域圏」において、様々な主体間連携による公民協奏(コンチェルト)のもと、持続可能な地域社会を創造していく歩みを一層着実なものとするため、連携市町村と事業者等による包括連携協定を締結しました。



※令和4年2月7日に21の事業者等との協定締結式をオンラインで開催

②オーダーメイドで柔軟な連携項目

具体的な連携項目・事業は各企業・団体の強みを生かしてオーダーメイドで実施。
実施市町村も連携市町村全体でも、一部のエリアからのスモールスタートでも対応可能。



①広域圏全市町村と一括で協定締結

中心市である郡山市が窓口として全体調整を行い、広域圏全市町村と各社・団体が一括で包括連携協定を締結。



各企業・団体

③市町村と企業・団体の対等なパートナーシップ

双方の強みとメリットを生かし、相互に競争力を高め合う「連携・パートナーシップ」のプラットフォームを形成。

連携市町村のメリット

- 住民サービス向上
- 広域的課題の解決
- 地域企業等との連携

企業・団体のメリット

- CSV・地域貢献
- 知名度・イメージ向上(行政媒体での連携PR)
- 新たな市場開拓・ビジネスチャンス

公民の協奏(コンチェルト)による未来志向の関係を構築

●こおりやま広域圏市町村



●公民協奏パートナーシップ協定締結団体

(順不同)



こおりやま広域圏における地域経済の活性化や住民サービス向上の取組を公民連携により推進します。

8 「こおりやま広域圏」に関するアンケート調査

◆調査概要

「こおりやま広域圏」に関するアンケート調査をまちづくりネットモニター及び広域圏各市町村Z世代職員等を実施した。

回答者	まちづくりネットモニター 〔さまざまなテーマで、インターネットによるアンケートを実施している。〕	広域圏各市町村Z世代職員等 〔広域圏各市町村の若手職員等へアンケートを実施した。〕
	352名	128名
調査期間	令和5年7月19日～7月28日の 10日間	令和5年8月24日～9月8日の 16日間

【調査結果】

《広域連携への理解》

- ・近隣市町村と広域連携を進めていくことについて、9割以上が「賛同する」と回答している。(問1)

《広域圏内の交流》

- ・交流が深い広域圏内の市町村は、本市と隣接する市町村が上位になっている。(問5-1)
- ・交流の形として、「買い物や外食」が最も多く、次いで「観光地、公園、レジャー」となっている。(問5-2)

《圏域の共通課題》

- ・広域圏内で共通課題と感ずるものは、「少子高齢化」と回答する割合が約7割となっている。(問8)

《重点プロジェクト》

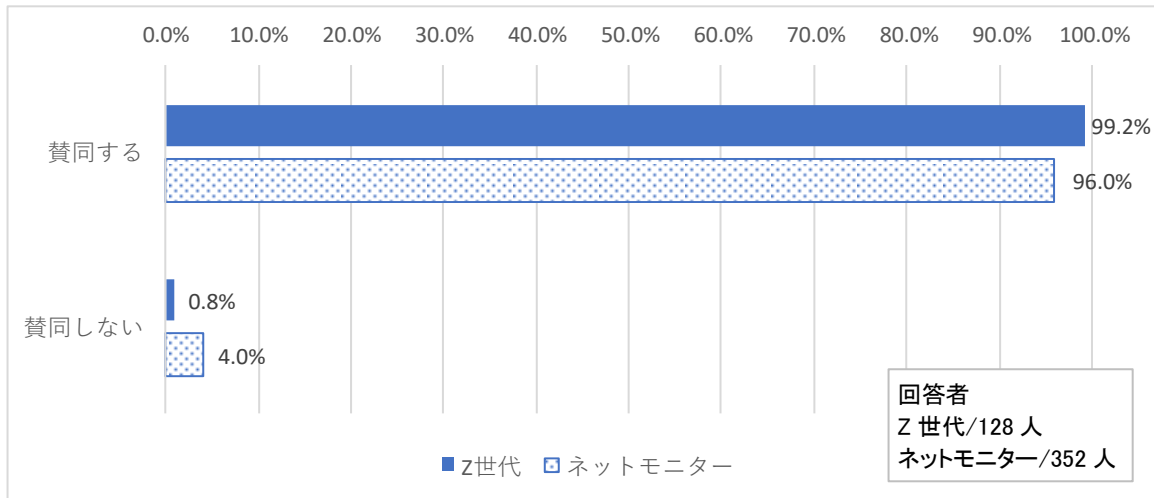
- ・Z世代では、「エリアプロモーションプロジェクト」、次いで「DX推進プロジェクト」となっており、ネットモニターでは、「住民の安全・安心プロジェクト」、次いで「SDGs推進プロジェクト」となっている。(問9)

《広域圏各市町村が求められる役割》

- ・連携中枢都市である郡山市においては「連携中枢都市として圏域全体の発展のけん引」と回答する割合が約7割となっている。連携市町村の役割については「市町村の強みや特性の発揮、魅力のPR」と回答する割合が約6割となっている。(問11、問12)

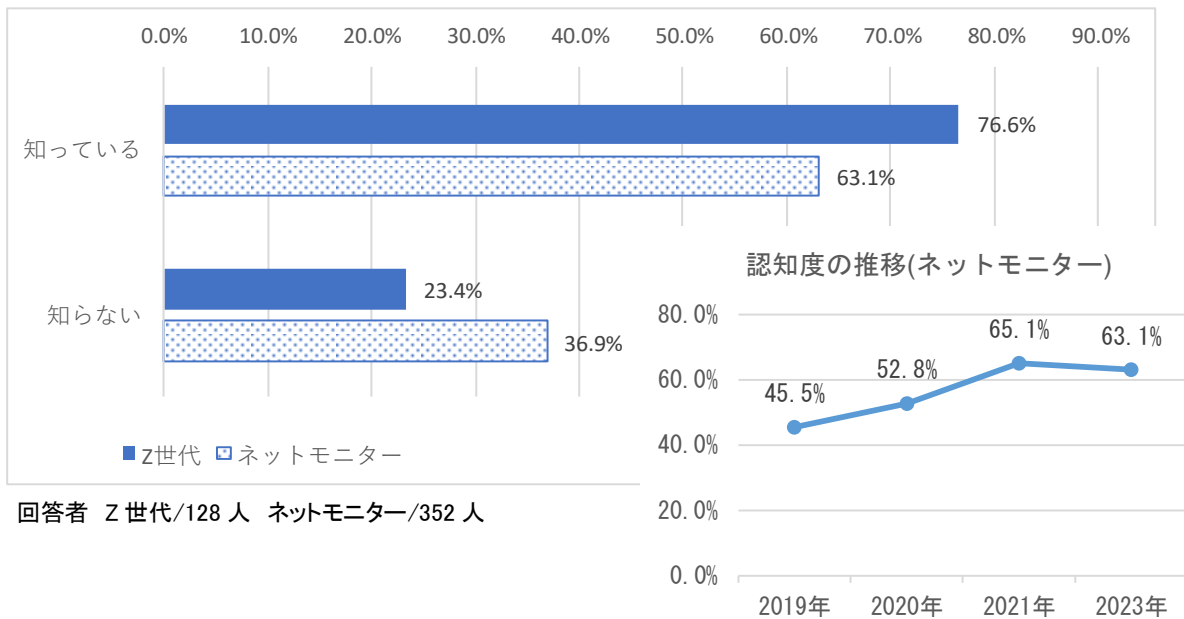
※構成比は、端数を四捨五入しているため、合計が100.0%にならない場合がある。

問1 人口減少・少子高齢社会においても活力ある社会経済を維持するため、近隣市町村と広域連携を進めていくことについて、どのように思いますか？（1つ選択）



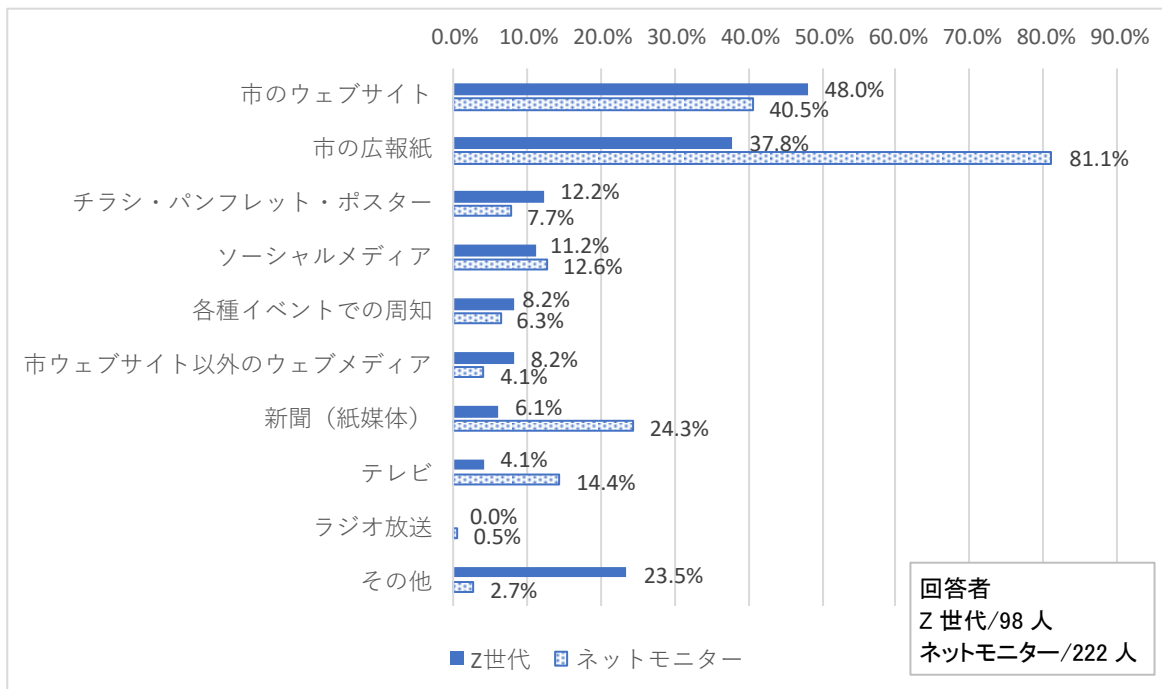
近隣市町村と広域連携を進めていくことについて、「賛同する」が9割以上となっている。

問2 「こおりやま広域連携中枢都市圏（こおりやま広域圏）」について、ご存じですか？（1つ選択）



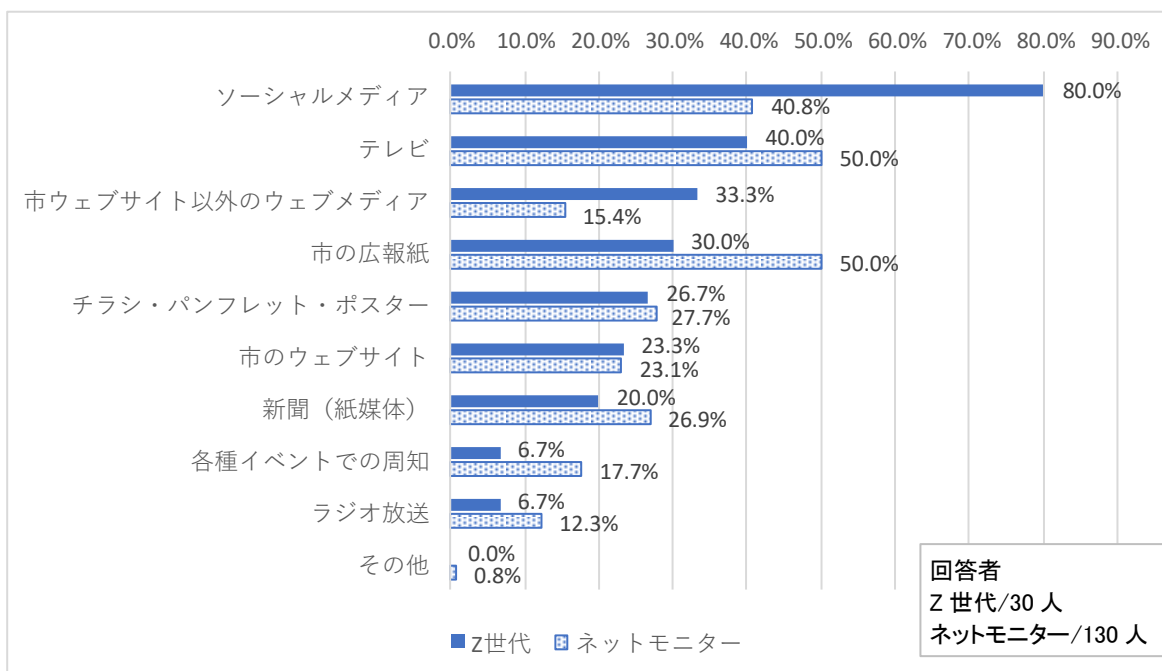
こおりやま広域圏の認知度について、Z世代への調査では全体の76.6%が「知っている」と回答し、ネットモニターの調査と13.5ポイントの差がある。ネットモニターの調査は、2019年の45.5%から2023年では63.1%となっている。

問3 問2で「知っている」を選択した方にお伺いします。どのような方法で知りましたか？（3つまで選択可）



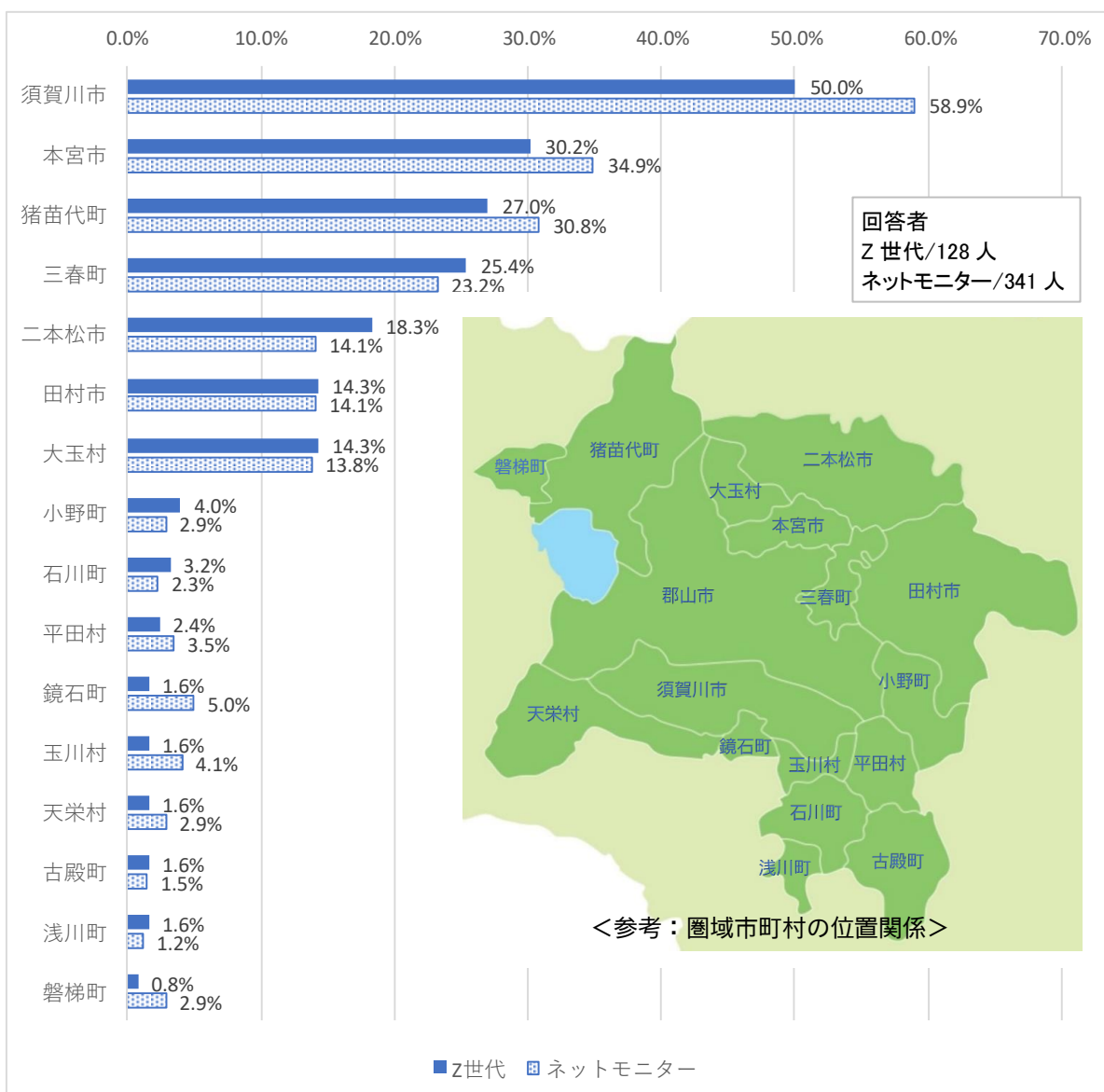
こおりやま広域圏を知った媒体としては、ネットモニターでは「市の広報紙」と回答する割合が高かったが、Z世代では「ウェブサイト」が48.0%と最も高い。Z世代では、広報紙や新聞などの紙媒体を回答した割合はネットモニターに比べて低くなっている。
なお、Z世代の「その他」の多くは「業務で知った」となっている。

問4 問2で「知らない」を選択した方にお伺いします。周知を強化するためには、どのような方法に力を入れていくべきだと思いますか？（3つまで選択可）



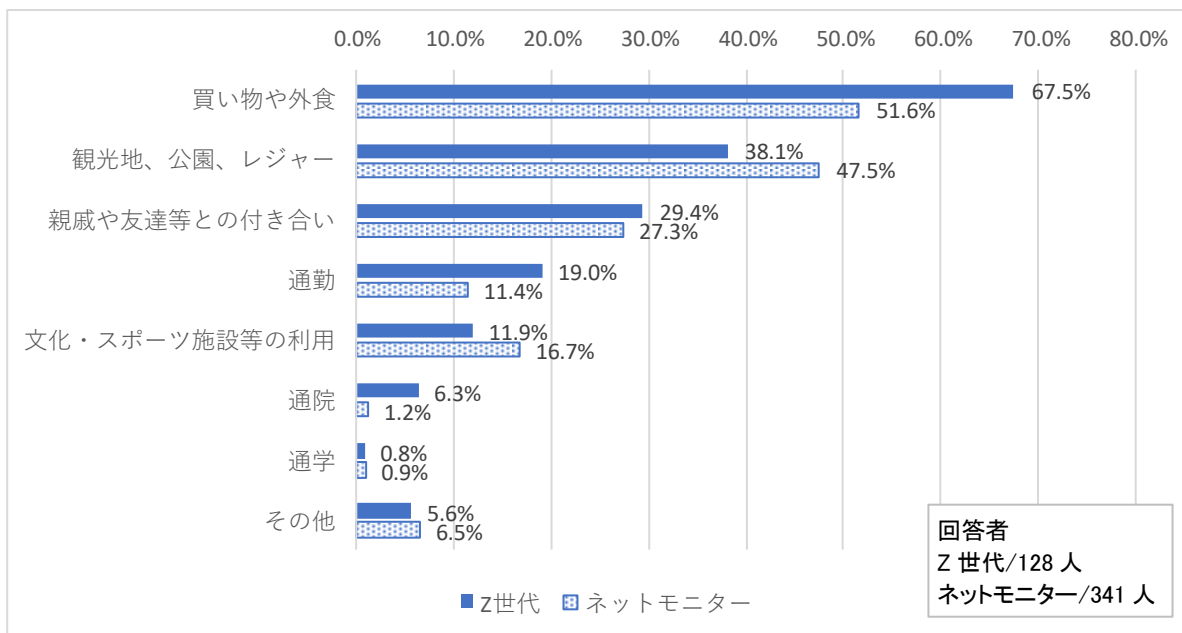
周知を強化するための方法としては、Z世代では「ソーシャルメディア」が突出して高く、次いで「テレビ」や「市ウェブサイト以外のウェブメディア」となっている。

問5-1 あなたは、現在、広域圏内のどの市町村(郡山市を除く)と行き来するなどの交流が深いですか？(2つまで選択可)



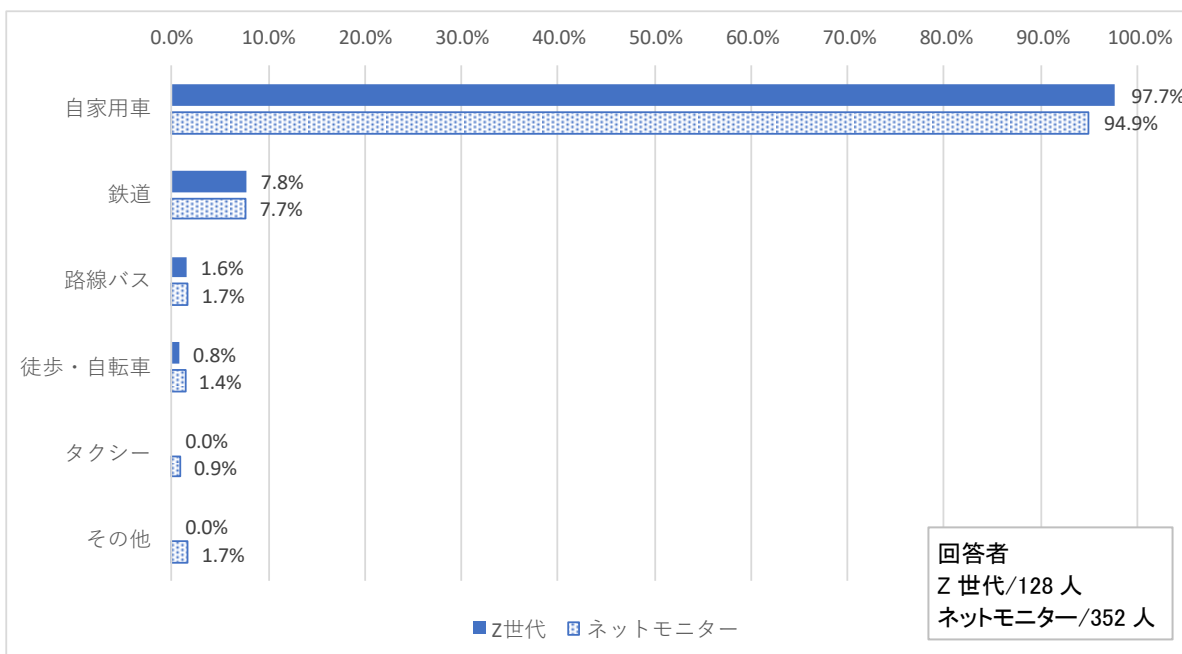
交流が深い広域圏内の市町村として、須賀川市、本宮市、猪苗代町、三春町の順位となっており、それ以外の市町村でも大きな違いは見られない。
全体としては、概ねこおりやま広域圏の市町村と何らかの関わりをもっていると回答しており、市町村間で双方向的な交流が行われている。

問5-2 問5-1で選択した市町村と、どのような交流をされていますか？
(1つの市町村につき2つまで選択可)



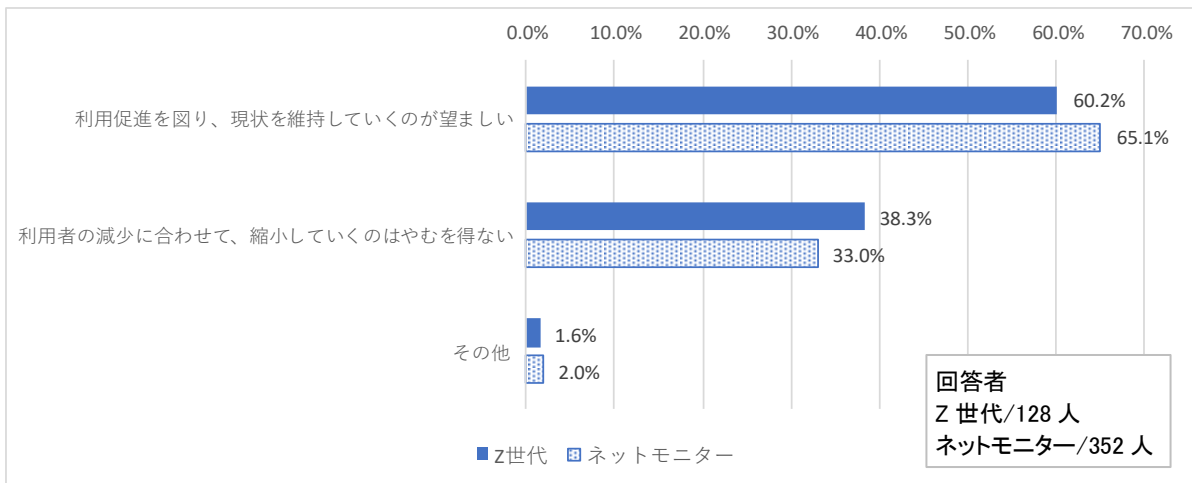
広域圏内市町村との主な交流としては、「買い物や外食」、次いで「観光地、公園、レジャー」、「親戚や友達等との付き合い」の順となっている。

問6-1 広域圏内の市町村と行き来するときは、主にどのような手段を利用しますか？
(2つまで選択可)



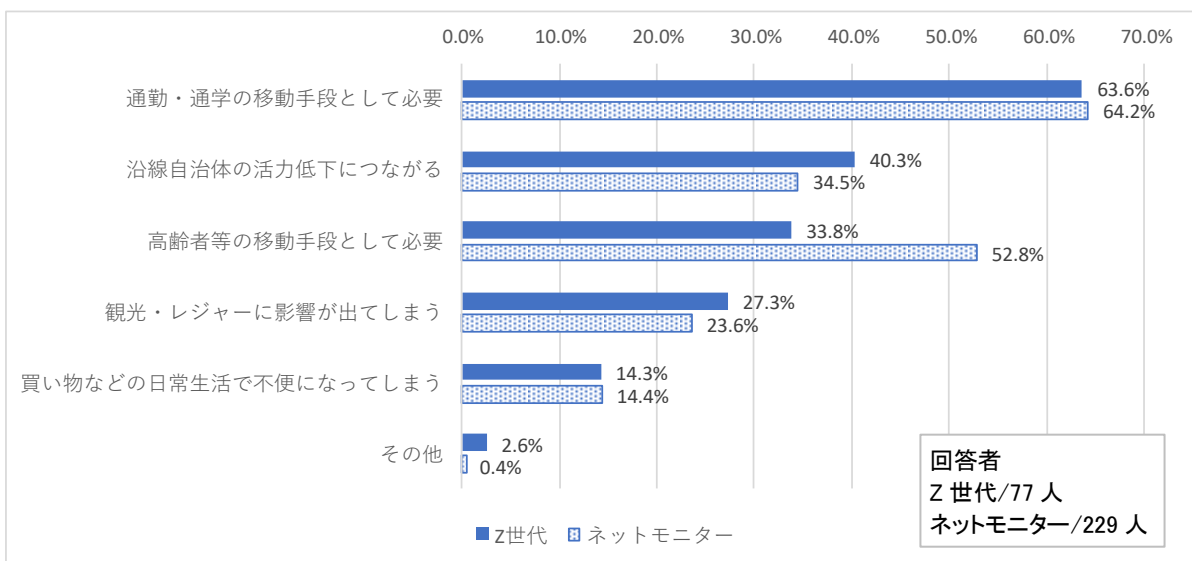
広域圏内市町村の往来は、概ね「自家用車」となっている。次いで「鉄道」が約8%となっている。

問6-2 鉄道の赤字路線の収支公表を受け、福島県内においても人口減で利用客の増加が難しい中、将来にわたりどう存続させていくか、こおりやま広域圏の市町村を含む沿線自治体や県等で検討していますが、鉄道の維持・利用促進について、どのように考えますか。



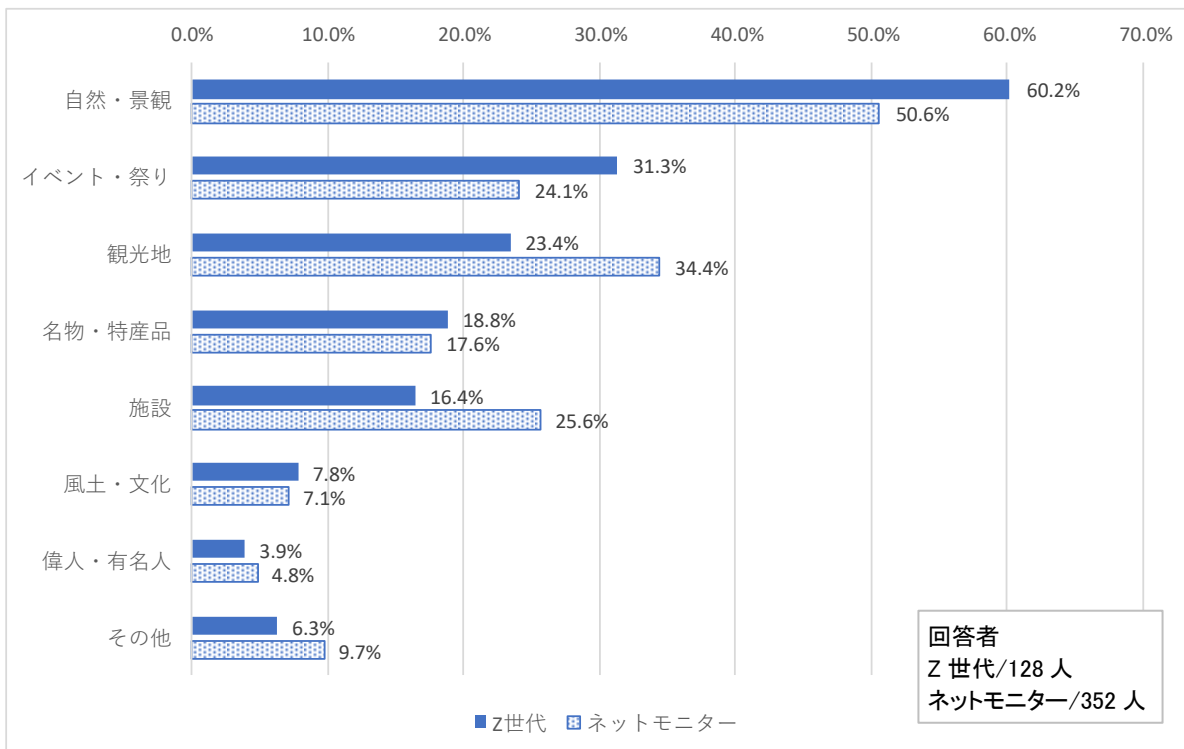
鉄道の維持・利用促進については、約6割が「利用促進を図り、現状を維持していくことが望ましい」としている。

問6-3 問6-2で「利用促進を図り、現状を維持していくのが望ましい」と回答した方にお伺いします。どのような理由で維持すべきと考えますか？（2つまで選択可）



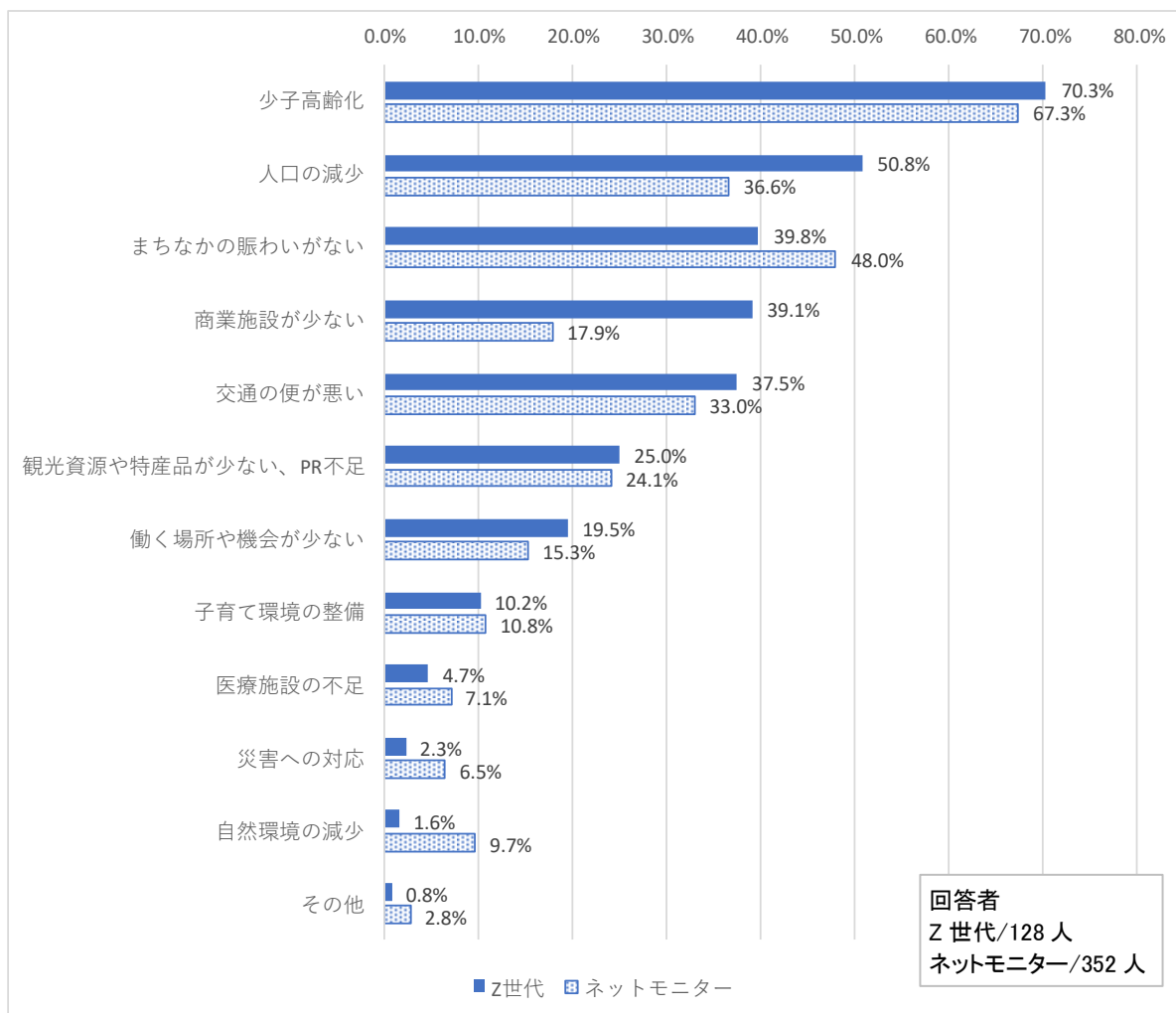
通勤・通学の移動手段として必要が約6割となっている。Z世代では、次いで「沿線自治体の活力低下につながる」と回答している。

問7 こおりやま広域圏で圏域外に自慢できるような特徴は何だと思いますか？
(2つまで選択可)



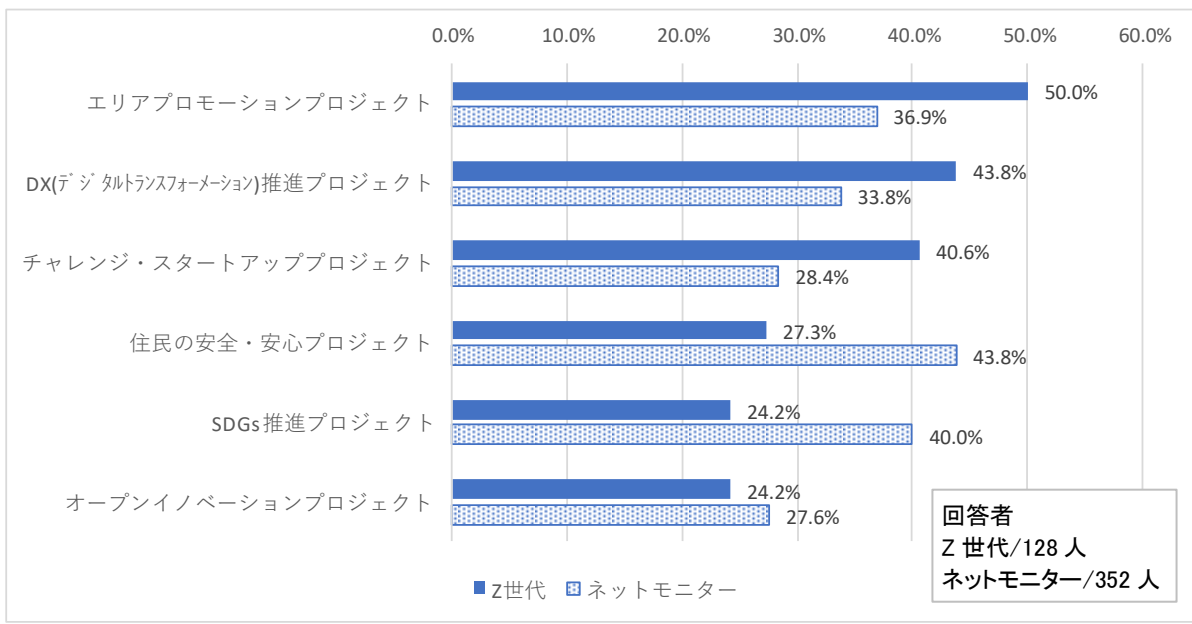
「自然・景観」と回答する割合が過半数となっている。Z世代では、次いで「イベント・祭り」となっている。

問8 現在、こおりやま広域圏において「共通課題」と感じるのは、どのようなものですか？
 (3つまで選択可)



「少子高齢化」と回答する割合が約7割となっている。Z世代では、次いで「人口の減少」となっている。

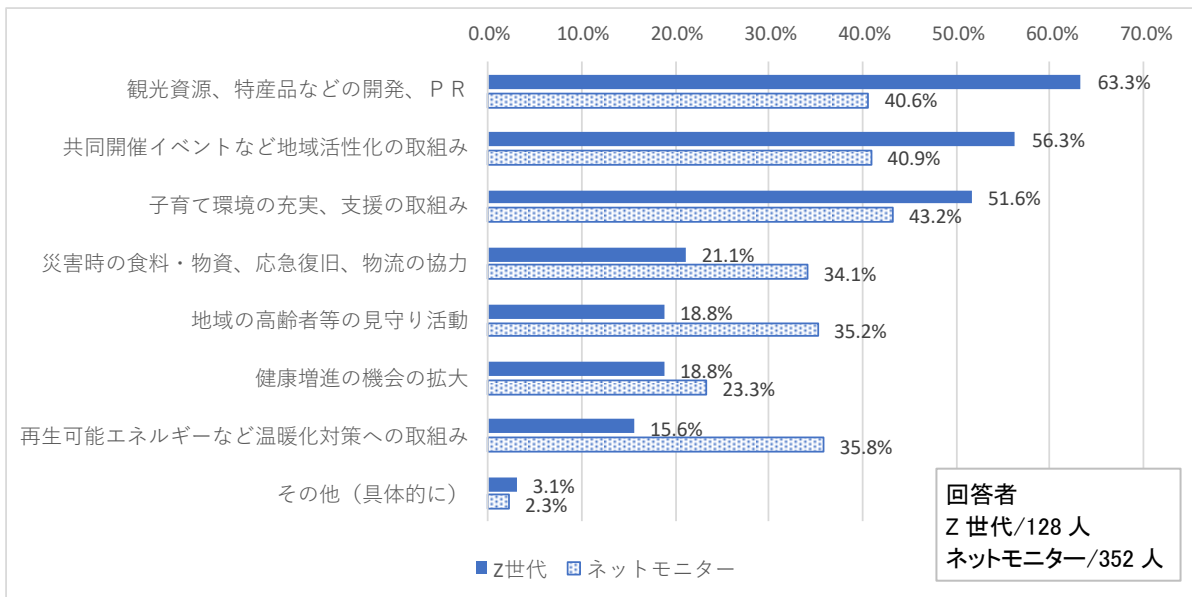
問9 こおりやま広域圏では、圏域の強みを生かすための6つの「重点プロジェクト」を設けていますが、このうちどのプロジェクトがより重要だと思いますか？（3つまで選択可）



- 【各種プロジェクトの概要】
- 住民の安全・安心プロジェクト
⇒蓄積された情報・ノウハウを共有し、圏域全体の住民の安全・安心な生活を確保
 - SDGs推進プロジェクト
⇒「持続可能な開発目標」SDGsについて圏域全体で取組を推進
 - エリアプロモーションプロジェクト
⇒様々なチャンネルを活用し、こおりやま広域圏の魅力を効果的・効率的に発信
 - DX(デジタル・トランスフォーメーション)推進プロジェクト
⇒デジタルをフル活用、新たな社会・経済システムの創出を促進
 - チャレンジ・スタートアッププロジェクト
⇒様々なチャレンジ・スタートアップを支援、圏域のフロンティア開拓を推進
 - オープンイノベーションプロジェクト
⇒多様かつ高度な産業研究機能が集積されている環境を生かし、様々な研究連携を促進

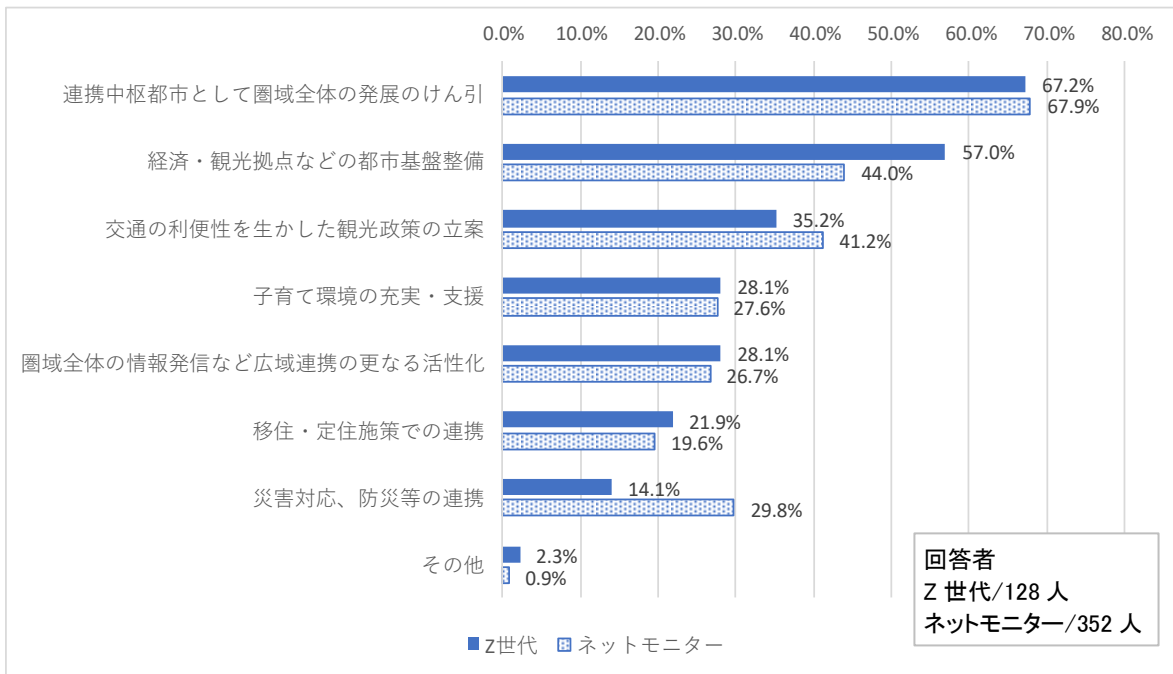
Z世代では、「エリアプロモーションプロジェクト」、次いで「DX推進プロジェクト」となっており、ネットモニターでは、「住民の安全・安心プロジェクト」、次いで「SDGs推進プロジェクト」となっている。

問 10 こおりやま広域圏では、行政と民間企業や研究機関等とがどのような分野で連携を強化すると良いと思いますか？（3つまで選択可）



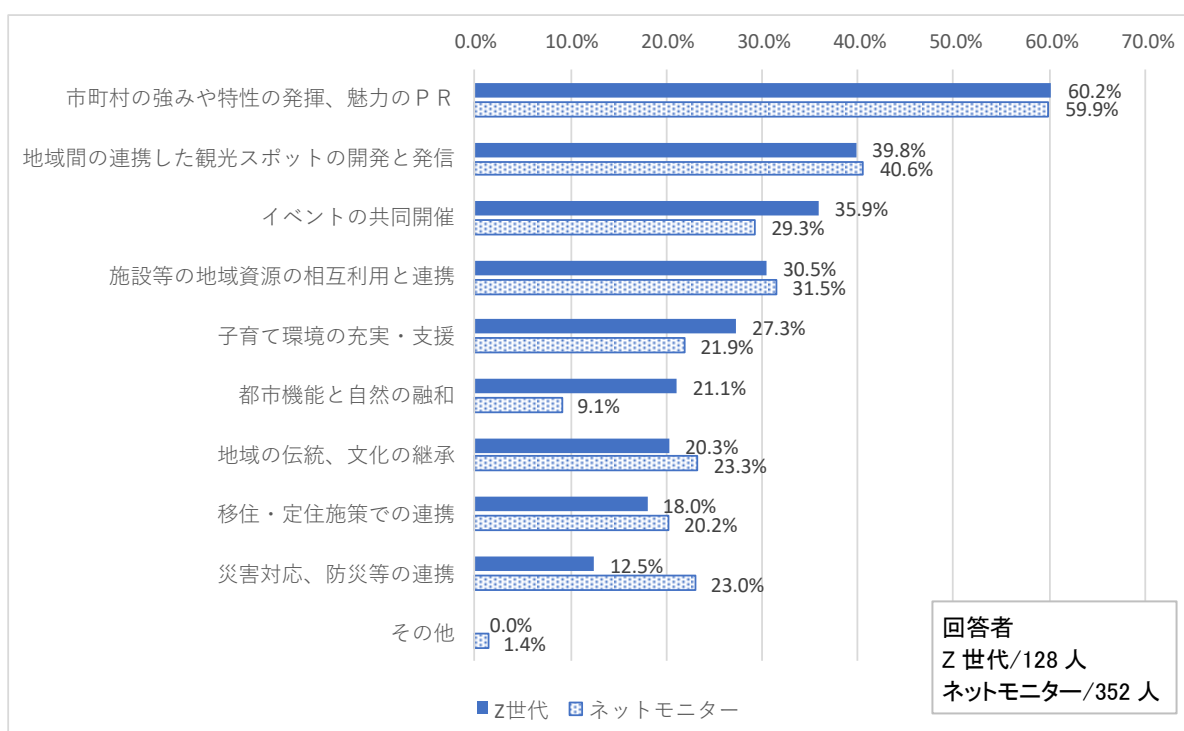
民間企業や研究機関等と連携を強化すべき分野として、ネットモニターでは「子育て環境の充実、支援の取組み」と回答した方が最も多いが、Z世代では、「観光資源、特産品などの開発、PR」と回答した方が最も多くなっている。

問 11 「連携中枢都市」（こおりやま広域圏の中心となる都市）である郡山市が特に求められる役割はどのようなものだと思いますか？（3つまで選択可）



「連携中枢都市として圏域全体の発展のけん引」と回答する割合が約7割となっている。次いで「経済・観光拠点などの都市基盤整備」となっている。

問 12 郡山市以外の連携の各市町村に求められる役割はどのようなものだと思いますか？（3つまで選択可）



「市町村の強みや特性の発揮、魅力のPR」と回答する割合が約6割となっている。次いで「地域間の連携した観光スポットの開発と発信」となっている。

発行 郡山市

〒963-8601 福島県郡山市朝日一丁目23番7号

編集 郡山市 政策開発部 政策開発課 連携中枢都市圏推進係

TEL:024-924-2021 FAX:024-924-2822

E-mail:seisaku-kaihatsu@city.koriyama.lg.jp

こおりやま広域圏ポータルサイト

<https://www.city.koriyama.lg.jp/site/koikiken/>

発行日 2024(令和6)年〇月

こおりやま広域圏
ポータルサイト

